

福富恭禮編次

大審院
高等法院
刑事判決大全

廣道館發兌

c2
2711
02

皇朝通志
卷之六
目錄



目次

加減順序
數罪俱發
正犯
未遂犯
皇室ニ對スル罪
内亂ニ關スル罪

○目次

自一丁	至三丁
自四丁	至六丁
自七丁	至十五丁
自十六丁	至二十八丁
自二十九丁	至三十五丁
自三十六丁	至百十七丁
自三十八丁	至四十四丁
自四十五丁	至四十七丁
自四十八丁	至五十三丁
自五十四丁	至五十九丁
自六十丁	至八十九丁

兇徒聚衆ノ罪	自九十丁	至百二十三丁
官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	自百二十四丁	至百三十七丁
囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	自百十八丁	至百五十五丁
附加刑ノ執行ヲ通ル罪	自百五十六丁	至百五十八丁
紙幣ヲ偽造スル罪	自百五十九丁	至百六十丁
官印ヲ偽造スル罪	自百六十一丁	至百六十二丁
官ノ文書ヲ偽造スル罪	自百六十三丁	至百六十七丁
私印私書ヲ偽造スル罪	自百六十八丁	至二百〇五丁
身分ヲ詐稱スル罪	自二百〇六丁	至百〇七丁
公機ノ投票ヲ偽造スル罪	自二百〇八丁	至二百〇九丁
官吏人民ニ對スル罪	自二百十丁	至二百十三丁
謀殺故殺ノ罪	自二百十四丁	至二百三十四丁
毆打創傷ノ罪	自二百三十五丁	至二百五十五丁

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪	自二百五十六丁	至二百六十丁
過失殺傷ノ罪	自二百六十一丁	至二百六十三丁
猥褻姦淫重婚ノ罪	自二百六十四丁	至二百六十五丁
誣告及ヒ誹毀ノ罪	自二百六十六丁	至二百七十三丁
祖父母父母ニ對スル罪	自二百七十四丁	至三百丁
竊盜之罪	自三百〇一丁	至三百二十三丁
強盜ノ罪	自三百二十四丁	至三百三十二丁
家資分散ニ關スル罪	自三百三十三丁	至三百三十五丁
詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪	自三百三十六丁	至三百四十九丁
贓物ニ關スル罪	自三百五十丁	至三百五十一丁
放火失火ノ罪	自三百五十二丁	至三百五十七丁
家屋物品ヲ破壊シ及動植物ヲ害スル罪	自三百五十八丁	至三百六十二丁
新聞紙條例違犯	自三百六十三丁	至三百六十六丁

○目次

酒造規則違犯

自三百六十七丁至三百六十八丁

証券印稅規則違犯

自三百六十九丁至三百七十二丁

烟草稅則違犯

自三百七十三丁至三百七十四丁

藥品取扱規則違犯

自三百七十五丁至三百七十七丁

土地賣買讓渡規則違犯

自三百七十八丁至三百八十二丁

治罪法總則

豫審上訴

自三百八十二丁至三百八十三丁

公判通則

自三百八十四丁至三百八十七丁

輕罪公判

三百八十八丁

上告

自三百八十九丁至三百九十八丁

再審訴

三百九十九丁

裁判管轄ヲ定ルノ訴

自四百〇〇丁至四百〇二丁

雜之部

自四百〇三丁至四百〇六丁

大審院 高等法院 刑事判決大全

活版 騰寫

總則之部

○法例

住所身分職業等之以下倣之

岡 田 好 成

年齡等之以下倣之

右好成カ被告事件ニ對シ明治十五年一月二十一日秋田輕罪裁判所ニ於テ被告好成ハ秋田女子師範學校長勤務中明治十四年十二月廿八日全校定額金七拾八圓ヲ竊取シタル者トシ刑法第三條第二項ニ依リ刑法第二百八十九條ト賊盜律監守自盜條トヲ比照シ輕キ舊法ニ依リ懲役三年ノ處明治十五年一月一日賍金全額ヲ呈シ自首スルヲ以テ刑法第八十五條刑法第八十六條ニ依リ合テ三等ヲ減シ重禁錮一年半ニ處スヘキ所情狀原諒ス可キ所アルヲ以テ刑法第八十九條刑法第九十條ニ依リ仍ホ二等ヲ減シ重禁錮一百日ニ處スルトノ裁判言渡ヲ爲シタ

法例

壹

リ檢事補加藤殊樹カ上告ノ要旨ハ被告好成ノ自首セシハ新法頒布後ニアルモ既ニ本刑ニ付
 新舊法ヲ比照シ輕キニ從フニ於テハ自首減等モ共ニ新舊法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處斷セサル
 ヘカラサルニ原裁判此ニ出テサルハ比照ノ法ヲ誤ルモノナリト云フニアリ本院檢事澄川拙
 三ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スレニ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未判決ヲ經カ
 ル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從フ所斷スルト被告人ニ便益ヲ與フル例外法ニシテ即其輕
 キニ從フノ法理ニ包括シ得可キ限リハ之ヲ救換スヘキ立法ノ精神タルハ論ヲ俟ダス所謂ル
 自首法ノ如キ存留養親ノ如キ役限内老疾ノ如キ全一般ニシテ已ニ明治十五年司法省内務十
 三号ヲ以テ告達アリタル老疾者養親者等ノ儀ニ付陸軍省例ニ對シ太政官裁令ノ如キハ常人
 ニ付テモ右ニ照準スヘシトアリ是レ則刑法第三條立法ノ精神ヲシテ益著明ナラシムルモノ
 ト謂フ可シ以上ノ理由ニ因リ本件ノ如キハ新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキ者ナルニ
 原裁判此ニ出サルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂ハサルヲ得ス因テ原裁判ヲ破毀シ治罪法第四
 百二十九條ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ裁判スルコト左ノ如シ

岡田好成

原裁判所カ確認セシ事實ヲ以テ刑法第三條二項ニ從ヒ新舊ノ法ニ照セハ新法ニ在テハ刑法
 第二百八十九條官吏自ラ監守スル所ノ金銀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス刑法第八十
 五條罪ヲ犯シ未發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス刑法第八十六條
 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外
 仍ホ本刑ニ二等ヲ減ストアルニ依リ輕懲役ヨリ三等ヲ減シ一年以上二年六月以下ノ範圍内
 ニ於テ重禁錮ニ處スヘキ處所犯情狀原諒スヘキ所アルヲ以テ刑法第八十九條重罪輕罪違警
 罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコト得刑法第九十條酌量減輕
 ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ仍ホ二等ヲ減シ通シテ五等ヲ減シ減盡
 スルニ付刑法第七十一條禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處ストアルニ依リ一日以上十日以下
 ノ範圍内ニ於テ拘留ニ處スヘク舊法ニ在テハ賊盜律監守自盜條凡監臨主守自ラ監守スル所
 ノ財物ヲ盜ム者ハ首從ヲ分タス贓ヲ併セテ罪ヲ論シ竊盜ニ二等ヲ加フトアルニ依リ贓金七
 十圓以上ナルニ付懲役三年ノ處自首スルヲ以テ名例律犯罪自首條凡ソ罪ヲ犯シ事未ダ發覺
 セスシテ自ラ自首スル者ハ其罪ヲ免ス贓アル者ハ仍ホ追徵シテ官物ハ官ニ入レ私物ハ主ニ

給ストアルニ依リ其罪ヲ免スヘキ者タリ即チ輕キ舊法ニ從ヒ其罪ヲ免ス
但贓金ハ取上ケ官ニ入ル

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年一月廿八日

裁判長判事 岡内重俊

專任判事 大塚正男

判事 土師經典

全 兵頭正懿

同 小村壽太郎

書記 香田能典

○附加刑處分

眞田 小右衛門

右小右衛門カ艶色花車ト題スル醜猥淫行ノ挿繪アル小冊子ヲ販賣シタル被告事件ニ對シ明
治十五年十二月一日木更津輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百五十九條ニ依リ罰金五圓ニ處シ渡
邊勇次郎ニ販賣セシ淫猥ノ小冊子及ヒ其代二十四錢ト家宅搜索ノ節臨檢官吏ノ差押ヘタル
名物江戸壽々女ト題セル小冊子トモ刑法第四十三條ニ照シ沒收メト言渡シタル裁判ヲ不當

トシ同裁判所檢事補江村忠一郎カ上告爲シタル要領ハ原裁判ハ艶色花車ノ冊子ヲ直ニ被告
人ヨリ沒收スルノミナラス名物江戸壽々女ノ冊子マテテ沒收シタル該江戸壽々女ノ冊子
ハ素ト販賣ニ宛テ置キタルモノナレハ之ヲ沒收スルモ可ナリトナスモ裁判言渡ニ其事實ヲ
掲ケス治罪法第四百十條第九ニ所謂言渡ノ理由ノ齟齬アルモノナリ且刑法第四十三條第一
ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ヲ沒收スルノ法律ニシテ其第一ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ
係ル然ルニ春畫ヲ所持スルノ禁令ハ無之ノミナラス艶色花車ノ冊子ハ犯罪ノ物件ニシテ沒
收ノ用ニ供シタル物件ニモアラヌ又既ニ賣渡シタルハ買得者ノ所有ニシテ犯人ノ所有ニテ
ラス何レノ點ニ依ルモ艶色花車ノ冊子ハ沒收スヘキモノニアラザルニ之ヲ沒收シタルハ不
法ノ裁判ナリト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽ク
ニ凡ソ刑法第二百五十九條ノ犯罪ニ係ル所ノ冊子圖書等ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ト見
做ス可キ者トス故ニ艶色花車ト題セル淫本ヲ徵シテ沒收セシハ至當ナルモ名物江戸壽々女
ト題セル淫本ヲ沒收セシハ不當ノ處斷ナリ何トナレハ該冊子ハ假令被告人ニ於テ販賣スル
ノ目的ヲ以テ所有シタルモノト爲スモ未タ之ヲ公然陳列シ又販賣會社、ル上ハ刑法第二

附加刑處分

百五十九條ノ罪ヲ組成セサルニ付隨テ之ヲ禁制ノ物件ト云フヲ得カレハ其所有權ヲ侵スノ
理ナキヲ以テナリト云フニアリ因テ判決スル左ノ如シ

凡ソ風俗ヲ害スル冊子圖書等ヲ販賣シタルニ於テハ販賣者ヨリハ勿論買得者ノ知り得ル限
リハ其者ノ所有スル分タリトモ之ヲ沒收スヘキモノトス何トモハ刑法第二百五十九條ノ
制裁アツテ其販賣ヲ禁セラレタルモノナレハ則テ同法第四十四條法律ニ於テ禁制シタル物
件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ストアル箇條及ヒ同第四十三條第一項ニ準據シ沒收スヘ
キモノニシテ此場合ニ於テハ買得者ヨリトモ法律上所有スルニトテ得カレ物件ナルカ故ニ
之ヲ沒收スルモ敢テ其所有權ヲ侵スナト、謂ヘキニアラサレハナリ故ニ原裁判所カ艶色花
車ノ小冊子ヲ沒收スル旨言渡シタルハ相當ノ裁判ニシテ破毀ノ原由ナキモノトス然レモ名
物江戸壽々女ノ小冊子ハ原ト家宅搜索ノ節差押ヘタル物件ニテ假令ヒ販賣スルノ目的アル
ニセユ唯其意思ニ止リ未公然陳列セス又販賣ナカ、ルニ於テハ固ヨリ刑法第四十四條ノ支
配スル限リニアラスト然ルヲ該冊子ヲ沒收シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四
百三十一條ニ依リ此ノ一部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

眞田 小右衛門

右ノ理由ナリニ依リ原裁判所カ家宅搜索ノ節臨檢官吏ノ差押ヘタル名物江戸壽々女ト題セ
ル小冊子ヲ沒收スルノ言渡ヲ取消シ該小冊子ハ被告ヘ還付スルモノ也
大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年十二月廿八日

- 裁判長判事 石井 忠恭
- 專任判事 中嶋 盛有
- 判事 伴 正臣
- 判事 土師 經典
- 判事 上山 惟清
- 書記 味岡 禮賢

○加減例

藤井 慶四郎

明治十五年一月廿三日岡山輕罪裁判所カ玉島治安裁判所ニ於テ右慶四郎ニ對シ竊盜ノ罪ア
リトシ刑法第三百六十八條同第三百七十六條同第八十條全第八十五條全第八十六條ニ依リ
重禁錮一月監視六月ニ處シテ檢察官警部代理巡查河村武彦ハ之ヲ不當トシ上告セシ要領

加減例

七

ハ被告慶四郎ハ齡十六歳ニ滿タカルモ是非辨別アリテ犯シタルモノナレハ刑法第八十條ヲ適用シ本刑ニ二等ヲ減セシハ其當ヲ得タルモ未ダ發前自首シ且其贓半數以上還償シタルモソナレハ刑法第八十五條全第八十六條ヲ適用シ通シテ四等ヲ減スレハ減シ盡シタルモノナリ然ラハ則チ刑法第七十一條ニ禁錮ヲ減シ盡シタルモハ拘留ニ處ストアルニ依リ拘留ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ノ監視ヲ附加ス可キ者ナリト云フニ在リ對手人藤井慶四郎ハ檢察官ノ上告ニ付別ニ意見ヲシト答辦シ大審院檢事澄川拙三ニ於テハ原檢察官ト意見ヲ異ニセシニヨリ附帶ノ上告ヲナセシ其理由ハ本犯ハ幼年者ナルモ是非辨別アリテ犯シタル竊盜罪ナレハ刑法第三百六十六條同第八十條ヲ適用シ自首シテ贓半數以上ヲ還償シタルヲ以テ全第八十五條全第八十六條ニ依リ減輕シテ拘留ニ處ス可キモノナリトノ趣旨ヲ辨明セリ因テ審檢スルニ

原裁判言渡ニ被告人慶四郎ハ明治十五年一月四日晝同郡山鴨村種本一平所有ノ水車場ノ戸ヲ手ヲ以テ引明ケ忍ヒ入惡事タルヲ知リツ、箱中ニアル金壹圓九錢七厘其他三品竊取シ而シテ十五錢費用シ前非ナ悔ヒ餘品ヲ携ヘ井原分署ヘ自首セシモノト認定スト事實ヲ明示

刑法第三百六十八條ヲ適用シタルモ其法文ニ適スヘキ門戶墻壁ヲ踰越損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キ云々トアル如キ事實アルニアラサレハ謂レナキ法律ノ適用ニシテ擬律錯誤タルヲ免カレサルナリ而シテ本犯齡十六歳ニ滿タカルモ是非辨別アリテ犯シタルモノナレハ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ヲ本刑トシ全第八十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ自首シテ贓半數以上ヲ還償スルヲ以テ同第八十五條同第八十六條ニ依リ二等ヲ遞減シ併セテ四等ヲ減スレハ減シ盡シタル者ニテ即刑法第七十一條禁錮ヲ減シ盡シタル時ハ拘留ニ處ストアルヲ適用シ處斷スヘキニ論決茲ニ出サルハ是亦擬律ノ錯誤ナリトス又原檢察官ハ拘留ノ刑ニ處シ仍ホ監視ヲ附加スヘキモノナリト云フト雖モ拘留ノ刑ニ附加スヘキ監視ノ明文アラサレハ附加スルヲ得ヌ何トナレハ刑法第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノ云々トアツテ拘留ノ刑ニ處スル者ノヲ掲載アラサレハナリ右ノ理由ニ原キ治罪法第四百十條第十項同第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

加減例

九

藤井 慶四郎

岡山輕罪裁判所カ玉島治安裁判所ニ於テ明治十五年一月二十三日右慶四郎ニ言渡シタル裁判官證書ヲ明示スル事實ノ理由及ヒ証憑トニ因リ竊盜ヲ犯セシコト明白ナリ之ヲ法律ニ照スルニ刑法第三百六十六條ニ八ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ犯時齡十六歳ニ滿タサルモ是非辨別アリテ犯シタル者ナルニ依リ刑法第八十條罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審按シ云々若シ辨別アリテ犯シタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減シ一月以上二年以下トナル未發前自首スルニ付刑法第八十五條罪ヲ犯シ事未タ發覺セサルニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ストアルニ依リ本刑期ヨリ又ハ一等ヲ減シ十五日以上一年以下トナル赃半數以上ヲ還償スルヲ以テ刑法第八十六條財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ハ自首損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ストアルニ依リ本刑期ヨリ又一等ヲ減シ通シテ四等ヲ減シ盡シタルニ因リ刑法第七十一條禁錮ヲ減シ盡シタル時ハ拘留ニ處シ云々トアルニ因リ藤井慶四郎ハ拘留十日ニ處シ取揚ケ置キタル贓金九十四錢七厘外三品ハ被害者藤田卯七ニ還付スル

者也

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十五年十月五日

- | | | | | | |
|-------|----|----|------|----|----|
| 裁判長判事 | 中島 | 錫胤 | 專任判事 | 鳥居 | 斷三 |
| 判事 | 山根 | 秀介 | 判事 | 黒岩 | 直方 |
| 判事 | 昌谷 | 千里 | 書記 | 澤野 | 摺藏 |
| | | | 喜多村 | 久治 | |

明治十五年三月三十一日以前輕罪裁判所ニ於テ右久治ハ明治十五年一月九日他人ノ書留郵便狀ヲ開封シ金三十五圓ノ爲換券ヲ取出シ三井銀行ヨリ其金額ヲ詐取シタル事實明晰ナリト認め而シテ刑法第三百九十條ニ依リ十六歳未滿ナルモ是非ノ辨別アル者ニ付本刑ニ二等ヲ減シ又被害者ニ首服シ贓物ヲ全還シタルヲ以テ仍ホ三等ヲ減シ而シテ十一月ノ重禁錮ニ處シ二圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ストノ裁判言渡ヲ爲シタル處同裁判所檢察官ハ之ヲ不當トシテ上告ヲ爲シヨリ其要領ハ久治ノ所爲ハ竊盜ニシテ刑法第三百六十六條ニ依リ

加減例

其十六歳未満ト首服賠償シタルトテ以テ本刑ニ五等ヲ通減シ禁錮ヲ減盡スルヲ以テ同第七十一條ニ照シ一日以上十日以下ノ拘留ニ處スヘシテ其違警罪ノ刑ナルヲ以テ監視ニ付スルヲ得ヌト云フニ在リ又本院檢事長ハ附帶ノ上告ヲ爲シ原裁判言渡書ニ舉示シタル事實ニ據レハ窃盜ト詐欺取財ノ二罪俱發ナルヲ以テ刑法第三百六十六條第三百九十條第百條第八十條第八十七條第八十五條第八十六條及第七十一條ニ照シ處分スヘキ者ナリトノ旨ヲ論述セリ茲ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ於テ其認ナル事實ハ全ク二個ノ所爲ニシテ第一他入ノ郵便書狀ヲ開封シテ爲換券ヲ取出シタルト第二其券ヲ用ヒテ銀行ヨリ金圓ヲ詐取シタルト是ナリ乃チ第一ハ刑法第三百六十六條ニ該ル窃盜ノ性質ヲ具シ第二ハ同第三百九十條ニ該ル詐欺取財ノ性質ヲ具シタルヲ以テ二罪俱發ノ處分ヲ爲スヘキ者トヌ又本案ノ如キ幼者及自首ヲ以テ刑法ノ總則ニ從ヒ減輕スヘキ者ハ全第八十條及第八十五條第八十六條等明文ノ通り皆其本刑ヨリ之ヲ減等スル者ナルヲ以テ果シテ一ノ詐欺取財ヲ以テ處分スヘキモノトセンカ乃チ二月以上四年以下ノ重禁錮之カ本刑ナルヲ以テ該範圍ニ就キ幼者ノ二等ト首服ノ一等ト贓物全還ノ

二等トテ通減セサルヲ得スシテ附加ノ罰金モ亦全ク通減スヘキ者ナルヲ以テ其禁錮罰金ハ共ニ減盡スルニ依リ刑法第七十一條第七十四條ニ從ヒ止マ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ且ツ既ニ輕罪ノ刑ニ處セザルモノナレハ之ヲ監視ニ付ス可カラサルハ勿論ナリトス然ルニ原裁判茲ニ出テザルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ處分ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

喜多村 久治

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第百條ニ從ヒ其二罪ノ内窃盜ノ一罪ヲ以テ重トシ全第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ且ツ第三百七十六條ニ依リ監視ヲ附加スヘキ處同第八十條第二項及第八十五條第八十六條第八十七條ニ照シ第七十條ニ從ヒ本刑ニ五等ヲ通減シ即チ減盡スルヲ以テ第七十一條ニ照シ第二十八條ニ從ヒ一日以上十日以下ノ拘留ノ範圍内ニ於テ止メ拘留十日ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年三月廿三日

加減例

裁判長判事	西岡	遼明	專任判事	高木	勤
判事	大三塚	正男	同	山根	秀介
同	昌谷	千里	書記	松本	正利
			篠崎	吉右衛門	

右吉右衛門道路損壞被告事件ニ對シ明治十五年十月三十日福井輕罪裁判所ニ於テ刑法第百六十二條道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ依リ右範圍内ヲ以テ刑法第九十條ノ規則ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減スレハ重禁錮一月科料金一圓ヲ附加スヘキ者トス然ルニ刑法第七十四條ニ附加シ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止マ主刑ヲ科ストアルニ依リ附加刑ヲ除去シ重禁錮一月ニ處スト言渡ルハ裁判ヲ不法トシ同裁判所檢事補吉岡信徳ハ上告ヲ爲シヨリ其要旨ハ罰金ヲ附加セザリシハ減等其法ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリト云ニ在リ被告答辯ノ要領ハ原裁判可トスルニ非ス亦檢事補ノ上告ヲ否トスルニ非ス結局本院ニ於テ至當ノ裁判アラソコト待ツト云ニ外ナラ

ス茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審察スルニ本件被告カ所爲ハ刑法第百六十二條ニ依リ二月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ範圍内ニ於テ處スヘキ所酌量スヘキ情狀アルヲ以テ全法第九十條ニ從ヒ本刑ニ二等減シ一月以上一年以下二圓以上十圓以下ノ範圍内トシ主刑附加刑共ニ罰スヘキ者トス何トナレハ全法第七十四條ニ附加罰金云々若減盡シタル時ハ止マ主刑ヲ科ストアルハ罰金ノ寡數多數共ニ減シ盡シタル時ニ限ルノ法章ニシテ本件ノ如キ減シ盡カ、レキハ最寡數違警罪ノ範圍トナルモ尙二圓以上十圓以下ノ罰金ノ範圍存スレハナリ然ルニ原裁判茲ニ出テ主刑ノミ科セシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

篠崎 吉右衛門

右ノ理由ナルヲ以テ被告ヲ道路損壞ノ所爲ハ刑法第百六十二條及ヒ第九十條第七十四條ニ照依シ重禁錮一月罰金二圓ヲ附加スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

加減例

明治十六年十一月廿日

十六

裁判長判事

中嶋

盛有

主任判事

石井

忠恭

判事

土師

經典

判事

薄井

龍之

判事

上田

惟清

書記

清原

眞弓

○自首減輕

藤枝 佐一郎

明治十五年二月十四日水戸輕罪裁判所ハ右佐一郎ニ對シ因徒逃走ノ罪アリトシ刑法第四百十二條ニ依リ重禁錮二月ニ處スト裁判官渡ヨリ佐一郎ハ之ヲ不當ナリトシ上告セシ趣旨ノ要點ハ前キニ官林ノ松樹園本ヲ伐採シ先非ヲ悔ヒ自首シタル處追々十二名ノ者自首シタルヲ以テ其共犯人ナリト認メラレ職金令セテ百二十圓以上賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ懲役三年ノ處刑ヲ受ケタルモ其實共犯ニアラス自分一己ノ職金ハ一圓二十錢ナルニ因リ其不當ヲ訴ヘント役場ヲ逃走シ直ニニ警察署ニ自首シタルニアリ然ルヲ單ニ逃走ノ罪アリトセラレタリト云ヒ對手人檢事補津川壽治ニ於テハ被告カ官林盜伐ノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡サレタル

ハ明治十四年十月廿三日ニアリテ既ニ上告期限ヲ經過セシ確定裁判ナレハ今ヨリ不服ヲ唱フルヲ得ス且役場逃走シ警察署ニ至リタルハ自首ニアラス確定裁判ニ不服ヲ唱フル爲メナリ若シ被告カ警察官ニ對シ先以テ役場逃走ヲ首出シ而シテ後ニ其前裁判ノ不服ヲ訴ヘタルニモセニ被告カ逃走ハ即時獄司ノ發見ニ係リ官ニ發覺シタルモノナレハ刑法第八十五條ニ適當スヘキ事實ニアラス原裁判至當ナリト答辨シ大審院檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ茲ニ裁判スル左ノ如シ

刑法第八十五條ニ曰罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス云々トアリテ其罪ヲ犯シタル事柄及ヒ犯人ノ誰タルヲ官未タ知ラサル前自首セシ者ニ適用スル法文ニテ其役場ヲ逃走シタル獄司直ニ其事柄及ヒ其犯人ノ誰タルヲ知リ即時追捕ニ着手セシ等ノ如キ佐一郎カ被告事實ニ適當スヘキ限リニアラサルナリ又明治十四年十月廿三日水戸裁判所ニ於テ受ケタル刑ニ付不服ヲ唱フルモ既ニ上告ノ期限ヲ經過シタル確定裁判ナレハ上告ヲ爲スノ權理ナキモノトス

右ノ理由ニ原キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

自首減輕

十七

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年十月十四日

裁判長判事 中島 錫胤 專任判事 鳥居 斷三

判事 關 義 臣 全 山根 秀介

全 昌谷 千里 書記 澤野 澄藏

黒瀬 豊四郎 前良 早三郎

山林盜伐被告事件ニ付明治十五年三月十五日三次治安裁判所ニ於テ廣島輕罪裁判所ヲ開キ
右被告兩名カ他人所有ノ山林ニ立入り枯枝ヲ拾ヒ集ムル際立枯松二本アルヲ見認メ忽然盜
心ヲ生シ兩名申合セ其ノ一本ハ伐採シテ豊四郎自宅ニ持歸リ其一本ハ伐採シタル場合他人
ニ見咎ゾテ一挺証據ノ爲メ取揚ラセタル所爲ニ對シ豊四郎ハ刑法第三百七十二條ニ依
テ全第三百七十三條ニ照シ重禁錮一月ニ處スヘキ處ニテ二十歳未満ナルヲ以テ刑法第八十一條
ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ被害者ノ告訴ニ先ヅテ自首セシメ因リ未發自首ト同ク刑法第

八十五條ニ依リ一等ヲ減シ通シテ二等ヲ減シ重禁錮十五日ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依
リ監視六月ニ付セリ又早三郎ニ對シテハ刑法第三百七十三條ニ依リ全第三百七十二條ニ照
シ重禁錮一月ニ處ス可キ處未遂犯罪ナルヲ以テ刑法第三百七十五條同第三百七十二條ニ照シ本刑
ニ一等ヲ減シ十六歳未満ナルヲ以テ刑法第八十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ通シテ三等ヲ減
シ拘留七日ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ付シ仍ホ被告兩名ニ對シ犯罪ノ用
ニ供シタル鎌一挺ハ刑法第四十三條ニ依リ沒収スト裁判セリ原裁判所檢察官警部補林公平
ハ該裁判ヲ不當トシ上告爲シタル要領ハ豊四郎カ自首ハ他人ニ見咎ラレ其証據ヲモ領置セ
ラレタル後ニ係レハ未發自首ニ非ス然レハ則刑法第八十五條ヲ適用シ減輕ス可キ者ニ非ス
又早三郎ニ對シ本刑ヲ減盡シ拘留ノ刑ニ處シタル以上ハ監視ヲ附加ス可キ者ニ非サレハ供
ニ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ大審院檢事澄川拙三ハ第一ノ理由ニ於テハ上告趣意ノ
如シト雖モ第二ノ理由ハ其趣見ヲ異ニスル所アルヲ以テ檢事長渡邊驥ヨリ差出シタル附帶
上告ノ趣意ニ基キ原裁判ヲ破毀アラソクテ望ムトノ趣見ヲ陳ヘ檢事長渡邊驥カ附帶上告ノ
旨趣ハ被告黒瀬豊四郎前良早三郎ハ其ニ罪ヲ犯シタル者ナレハ刑法第四百四條ニ依リ皆正犯

自首減輕

ナリ故ニ共犯タル豊四郎カ己ニ其罪ヲ遂ケタル以上ハ早三郎ニ於テ亦既遂タルハ論ヲ俟マ
ス況ヤ原裁判書中ニ早三郎ハ豊四郎ト共ニ現ニ立枯ノ松二本ヲ盜伐シヨリトアルニ於テチ
ヤ然ルチ早三郎コ對シテ故ヲニ刑法第三百七十五條ヲ適用シ減輕ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ト
謂ハサルチ得ス依テ治罪法第四百二十九條ニ依リ破毀シテ直チニ適法ノ裁判アル可シト謂
フニ在リ仍テ裁判スルコト左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告黒瀬豊四郎ハ前長早三郎同道樵ノ爲メ兒玉善四郎ノ所有山ニ
立入枯枝木ヲ拾ヒ集ル際立枯ノ松二本ヲ見當リ忽然盜心ヲ生シ早三郎ト申合セ所持ノ鎌ニ
テ共ニ之ヲ盜伐シ内一本ハ豊四郎自宅ニ持歸リ一本ハ伐採シタル場合徳永筆助外二名ニ見
咎メヲレタルニ因リ内濟方頼ミ出タレトモ三各聽入レス証據ノ爲メ所持ノ鎌一挺ヲ取揚フレ
云々トアレハ豊四郎早三郎カ共犯タルコト判然タリ己ニ共犯タレハ其一名ハ已遂コソ一名ハ
未遂タラサルコト亦論ヲ俟タス而シテ原裁判所ハ豊四郎カ自首セシハ事未發以前ニ係ル如ク言
渡スト雖モ徳永筆助等ニ見咎メヲレ且犯罪証據ノ爲メ鎌一挺ヲ取揚ケラレタル者ナレハ其
已發タルコト明晰タリ故ニ上告ノ旨趣ハ破毀ノ原由アル者ナリ又早三郎カ未遂犯罪ニ非サル

コトハ附帶上告ノ旨趣ヲ允當ナリトス假ニ減盡シテ拘留ニ處スル者トスルモ拘留ノ刑ニ對シ
監視ヲ附加スヘキ者ニ非サルコトハ刑法第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ
刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリテ輕罪ノ刑ニ附加スル者タルコ
ト明知ス可シ到底原裁判所カ被告豊四郎外一名ニ言渡シタル裁判ハ共ニ擬律錯誤ニ出タル不
法ノ裁判ナレハ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直チニ大審院ニ於テ裁判スルコト左
ノ如シ

黒瀬 豊四郎

前長 早三郎

右ノ理由ナルニ因リ共謀シ立枯松二本ヲ盜伐シタルハ刑法第四百四條二人以上現ニ罪ヲ犯シ
タル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストアルニ適當スルチ以テ刑法第三百七十三條同第
三百七十二條ニ照依シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依リ六月以
上二年以下ノ監視ニ付スヘキ處豊四郎ハ二十歳未滿ナルチ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑
ニ一等ヲ減シ二十二日以上九月以下ノ重禁錮早三郎ハ十六歳未滿ナルチ以テ刑法第八十條

自首減輕

ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ當ルヲ以テ其範圍内ニ於テ豊四郎ヲ重禁錮二十日ニ處シ監視六月ニ付シ早三郎ヲ重禁錮十五日ニ處シ監視六月ニ付スル者也
但刑法第四十三條ニ從ヒ犯罪ノ用ニ供シタル鍊一挺ハ沒収ス

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十五年十二月廿二日

裁判長判事 中島 錫胤 專任判事 山根 秀介

判事 關 義 臣 同 鳥居 斷三

同 昌谷 千里 書記 中西 眞淑

木本 六四郎

右六四郎カ被告事件ニ對シ明治十五年三月十八日廣島輕罪裁判所ニ於テ被告人ハ明治十五年二月二十六日東山本村官林ニ於テ松木四本ヲ盜伐シ輒チ運歸セントスルニ方リ官林十等監守人益田瀧四郎ニ見咎ヲラレ直ニ該賊木ヲ追取セラレタル後即チ明治十五年三月六日廣島警察署へ首出シタルモノトシ刑法第三百七十三條全條第三百七十六條ニ照シ重禁錮一月ニ

監視六月ヲ言渡タル裁判ニ對シ同裁判所檢事補兒玉利明カ上告スルノ要旨ハ被告人カ自首シタルハ官林監守人益田瀧四郎カ本職ノ告發シタルノ前日ニ在リテ而シテ刑法第八十五條ノ事未ダ發覺セザルトハ犯人ヲ搜查逮捕スルノ權チ有スル官衙ニ發覺セザルヲ云フモノニシテ其人ハ即チ豫審判事檢事司法警察官ニ止マリ官林監守人ハ與ラサレハ則チ被告人ハ事未ダ發覺セザル前ニ於テ官ニ自首シタルモノナルヲ以テ刑法第八十五條ヲ適用シテ本刑ニ一等ヲ輕減ス可キモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ乃チ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニ在リ本院檢事堀田正忠ニ於テハ刑法第八十七條ニ財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト全ク前二條ノ例ニ照シ處斷ストアリ故ニ全條第八十五條ニ所謂發覺ノ中ニハ財產ニ對スル罪ニ付テハ被害者ニ發覺セシイチモ包含セリト解セサル可カラズ官林監守人ニシテ其官林ニ對スル罪ヲ發覺セシハ官即チ被害者ノ之ヲ發見セシニ同レ矧ヤ監守人ハ必ス之ヲ告發スルノ義務アレハ事既ニ監守人ニ發見セシ以上ハ告發前官ニ自首スルモ其刑ヲ減輕ス可キモノニ非ストノ旨趣ヲ陳述セリ因テ判決スルヲ左ノ如シ
刑法第八十五條ニ所謂ル未發覺トハ事犯未ダ官若クハ被害者ニ發覺セザルノ謂ヒニシテ若

自首減輕

シ被害者既ニ行犯人ノ誰タルヲ覺知シタルノ後ニ在テハ官ニ自首スルモ本條減輕ノ限ニ在ラストス然リ而シテ官林監守人ハ其掌固トニ其官林ニ對スル犯罪ヲ告發スルノ義務ヲ負フノミナラス該監守者ニシテ之ヲ覺知シタル時ハ被害者則チ官林管理廳ニ於テ之ヲ覺知シタルニ其理同シケレハ本件被告カ自首ノ如キ事既ニ監守人ノ告發ヲ經ルノ後ニ係ル上ハ刑法第八十五條ノ減輕法ヲ適用ス可キモノニアラストス因テ本件ハ上告ヲ爲スノ理由ナキニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ換事堀田正忠立會宣告ス

明治十六年二月十九日

- 裁判長判事 大塚 正男 專任判事 兵頭 正懿
- 判事 土師 經典 同 高木 勤
- 同 昌谷 千里 書記 田邊 權
- 中下 吉五郎

失火延燒ノ被告事件ニ付明治十五年四月五日濱田輕罪裁判所ニ於テ右吉五郎カ中島喜三兵衛所有ノ長屋借居中火ヲ失シテ喜三兵衛宅ニ延燒セシ所爲ニ對シ刑法第四百九條ニ依リ罰金二圓ニ處斷セリ原裁判所換事楠松木堅露ハ之ヲ不當ノ裁判ナリトシ上告爲シタル要領ハ被告人ハ失火延燒ノ即日濱田警察署へ自首シタル者ナレハ刑法第八十五條ニ照シ本刑ヲ減輕ス可キ者ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會換事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審議スルニ本件被告人カ火ヲ失シテ人ノ家屋ヲ燒燬シ直ニ自首シタルハ濱田警察署へ失火願書同所巡査ノ告發書陳審終結言渡等ヲ監査シテ明確ナリ抑モ火ノ炎々タルヤ現ニ掩フ可カラサルノ蹟アリト雖モ其原因何等ノ所爲ニ出タルヤハ違ニ之ヲ指定スルニ由ナキ者ナリ而シテ被告人ハ其未タ發覺セサルノ前自首セシ者ナレハ即チ刑法第四百九條ニ依リ全罰八十五條ニ照シ本刑ヲ減輕ス可キ者トス然レテ原裁判所カ單ニ本刑ヲ科シテ減輕セカハ擬律錯誤ノ裁判コレヲ治罪法第四百十條第十項ニ定メタル上告ノ理由アル者ナレハ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ之ヲ裁判スル左ノ如シ

中下 吉五郎

右ノ理由ナルニ因リ刑法第四百九條ニ依リ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處スルニ依リ處事未タ

自首減輕

發覺セサル前迄ニ自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一圓五十錢以上拾五圓以下ノ範圍内ニ於テ刑法第七十一條ニ從ヒ科料金一圓五十錢ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十六年三月九日

裁判長判事	大塚	正男	專任判事	山根	秀介
判事	土師	經典	全	高木	勸
全	昌谷	千里	書記	上田	庸熙
			小島	兵次郎	

右兵次郎カ被告事件ニ付明治十五年七月十七日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ牛丸庄兵衛方店免ニ於テ近藤某ヨリ伊藤某ヘ宛タル爲換手形一通ヲ竊取シ丸三銀行ヨリ現金五百圓ヲ受取リタルモノト爲シ刑法第三百六十六條ニ照シ仍ホ同法第八十一條同第八十五條第八十六條ニ從ヒ四等ヲ通減シ減シ盡シテ以テ同第七十一條ニ依リ拘留七日ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補川井忠雄ニ於テ上告ヲナシタル要領ハ被告カ自首ハ盜難届ヲ差出シ

タル後ナニ係レハ事已ニ發覺セシ者ニ付刑法第八十五條ヲ適用ス可キモノニアラス假令自首減輕ヲ與フヘキモノト爲スモ輕罪ヲ減シ盡シテ拘留ニ處スルハ刑法第三百七十六條ニ該リ監視ヲ附加セサルヘカラス然ルニ之ヲ附加セサリシハ共ニ擬律錯誤アル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ本院檢事池上三郎ハ上告ニ對スル意見ヲ陳辨シ且ツ附帶上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告カ爲替手形ヲ竊取セシ罪ニ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ當然ナルモ他ノ一罪即丸三銀行ヨリ現金五百圓ヲ詐取セシ罪ニ法律ノ理由ヲ明示セサリシハ不當ナリト申陳ス因テ之ヲ審按スルニ被告カ自首ハ盜難届ノ後ニアリト雖モ官及ヒ被害者ニ於テ未タ犯人ノ誰タルヲ知ラサル以前ニアレテ以テ之ヲ已發自首ト爲スヲ得ヌ又輕罪ノ刑ニ該ルモノニ監視ヲ附加スルノ成法ハアルモ違發罪ノ刑ニ監視ヲ附加スルノ法章アルニアラザルヲ以テ輕罪ヲ減シ盡シテ拘留ニ處スルハ已ニ輕罪ノ部分ヲ脱シ違發罪タル勿論ニ付之レニ監視ヲ附加ス可キモノニアラス故ニ原檢察官ノ上告ハ相立サルモノトス然リト雖モ被告カ犯罪ノ事實ニ於テハ二個ノ犯罪アリ其一ハ明治十五年五月二十九日牛丸庄兵衛方店免ニ於テ在大阪近藤某ヨリ伊藤某ヘ宛タル丸三銀行ヘ向ケシ金五百圓ノ爲換手形一通ヲ竊取シタルト

自首減輕

其二ハ九三銀行へ到リ牛丸庄兵衛ヨリ爲換金請取ヨ来リタル旨申欺キ同銀行ヨリ現金五百圓詐取シタルニ在リ然レハ本院檢事附帶上告旨趣ノ如ク刑法第三百六十六條及同第三百九十條ニ照シ仍ホ同第三百條ニ依リ一ノ犯情ノ重キニ從ヒ而シテ廿歳未滿ナルヲ以テ同第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ未發自首シ且贓金全數ヲ被害者へ還償スルニ依リ三等ヲ減シ通シテ四等ヲ減輕スレハ減シ盡スヲ以テ同法第七十一條ニ照シ拘留ニ處スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ法律適用ヲ誤リタル不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

小嶋 兵次郎

右ニ辨明スル理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ確認スル處ニ依リ刑法第三百六十六條同第三百九十條同第三百條同第八十一條同第六十五條同第八十六條同第七十一條ニ照シ拘留七日ニ處スルモノ也

差押ヘタル風呂敷一枚ハ還附ス

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

裁判長判事	石井 忠恭	專任判事	土師 經 興
判事	山根 秀介	判事	高 木 勤
判事	昌谷 千里	書記	岩 田 鍊

○再犯加重

宮川 佐平

右宮川佐平ニ對シ明治十五年一月十六日奈良輕罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判ハ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニヨリ再犯加重ノ法律ヲ適用ス可キモノナリトノ旨趣ヲ以テ同裁判所檢事補御座中治ハ上告ヲ爲シタリ本院檢事喜多千穎ニ於テハ本件ハ再犯加重ノ法律ヲ適用ス可キ者ニ非ストノ旨趣ヲ辨明シタリ依テ判決スル左ノ如シ

刑法第三條ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホストアリテ總則第五章再犯加重ノ法ノ如キハ頒布前ニ處斷セシ犯罪ヲ犯數ニ算入シテ加重ス可キモノニ非ス今被告人カ竊盜刑ヲ受ケシハ明治十一年五月ナルヲ以テ即チ刑法頒布前ノ犯ヲ以テケレハ犯數ニ算入スルヲ得サルモノトス故ニ奈良輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ處斷シ再犯加重

再犯加重

ノ法ヲ適用セサルハ相當ノ裁判ニシテ破毀スヘキ理由ナキニ依リ治罪法第四百二十條ニ照シ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事喜多千穎立會宣告ス

明治十五年七月十五日

- 裁判長判事 岡田 重俊
- 專任判事 昌谷 千里
- 判事 鳥居 斷三
- 全 山根 秀介
- 全 土師 經典
- 書記 上田 庸熙

小西 さん

右さんカ被告事件ニ對シ明治十五年三月十八日大河原治安裁判所ニ開キタル仙臺輕罪裁判所ニ於テ被告さんカ明治十五年三月七日刈田郡白石本郷鈴木兵吉宅ニ於テ鈴木さく及其場逃避シタル高橋吉五郎俱々錢賭ノ博奕ヲ爲シタル者ト判定シ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓附加シ仍ホ現場ニ在ル花骨牌三十四枚賭金壹圓壹錢三厘ハ沒收スルノ言渡ヲ爲シタリ檢事代理警部内田義明カ上告ノ要旨ハ被告ハ擲キニ賭博ヲ犯シ明治十

四年十月五日大河原區裁判所ニ於テ收贖ノ處斷ヲ受ケタル者ナレハ再犯加重ノ例ニ依リテ可カラズ然ルニ原裁判ノ此ニ出テサルハ失當ナリト云フニ在リ本院檢事堀田正忠ニ於テハ新法ノ再犯加重ハ先キニ重罪又ハ輕罪ノ刑ヲ受ケタル者再犯輕罪ニ該レハ加等スルノ例アレハ舊法ニハ如此區別ナキヲ以テ犯數ニ計フルコトヲ得サルモノナリ然ルニ小西さんカ被告事件ノ裁判書中ニ未シ刑ノ言渡ヲ受ケタル高橋吉五郎ヲ共犯者ト爲シ其氏名ヲ掲ケタルハ不當ナルヲ以テ附帶ノ上告ヲ爲スニ付治罪法第四百二十九條ノ規則ニ從ヒ右高橋吉五郎ノ氏名ヲ掲ケタル一部ノ破毀アラソコト企望ストノ旨ヲ陳ヘタリ

乃チ之ヲ審按スルニ再犯加重ノ際ハ本院檢事意見ノ如ク舊法ニ於テハ其犯罪ノ種類ニ付重輕罪違警罪等ノ區別無之ノミナラス刑法第三條初項ノ精神ニ於テ新法實施以前ノ犯罪ハ素ヨリ之ヲ犯數ニ計ツヘキモノニ非ス將又高橋吉五郎ノ氏名ヲ掲ケタルハ間接ニ於テ同人ノ犯罪ヲ斷定スルノ嫌アツテ不當ナリト雖モ爲メニ本案則被告さんカ犯罪事件ニ對シ言渡シタル裁判ニハ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サレハ破毀ノ限ニ在ラス因テ原裁判言渡ハ治罪法第四百十條ニ定メタル破毀ス可キノ場合ナク上告ノ理由アラサルニ付該上告ハ

再犯加重

之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年十二月廿六日

裁判長判事 岡内 重俊

專任判事 木村 義路

判事 大塚 正男

判事 兵頭 正徳

判事 小村 壽太郎

書記 岩田 鍊

立山 九八

右九八カ被告事件ニ付明治十五年十月三十一日山鹿治安裁判所ニ於テ熊本輕罪裁判所ヲ開
キ被告カ曩キニ處刑ヲ受ケシ事件ハ再犯ナルニ初犯ヲ以テ論セシハ錯誤トスルモ法律上更
ニ之ヲ貼斷スルノ限ニ非サルヲ以テ其罪ヲ問ハスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代
理務部本田素一カ上告シタル要旨ハ再犯加重ノ如キハ罪名ニアラスシテ刑法全編ニ効力ヲ
通スルノ總則ナレハ所謂懲戒加重ノ法律ト信ス仍テ刑法第九十二條ニ照シ加重スヘキモノ
ナルニ其罪ヲ問ハスト言渡シタルハ不當ノ裁判ナルニヨリ破毀ヲ需ムト云コアリ茲ニ大審

院ニ於テ專任判事ノ報告書ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
凡公訴ヲ爲スノ權ハ確定裁判ヲ以テ消滅スルハ治罪法第九條ニ載テ明瞭タリ然レハ本接被
告事件ハ再犯加重ノ例ヲ適用スヘキヲ誤テ初犯ヲ以テ處斷シ既ニ其裁判確定セシ上ハ之ヲ
更正スルヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ原裁判官ニ於テ其罪ヲ問ハスト言渡シタルハ不當ノ裁
判ニアラストス仍テ治罪法第四百二十七條ニ原キ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年七月二十日

裁判長判事 石井 忠恭

專任判事 土師 經典

判事 中島 盛有

判事 兵頭 正徳

判事 黒岩 直方

書記 陰山 秀司

三里 市松

右市松カ被告事件ニ付明治十五年六月二十二日堺輕罪裁判所ニ於テ被告ハ先キニ犯シタル
竊盜罪ノ審理ヲ受ケル際氏ヲ以テ一年餘ヲ二十一年ト詐稱シタル所爲アルモノトシ而シテ其

再犯加重

三十三

所爲ハ罪ヲ科スヘキモノニアラサルヲ以テ免訴スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補松野貫義カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告カ所爲ハ刑法第二百三十一條ノ明文アレアリテ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノニアラス即チ該條ヲ適用シ仍ホ先キニ處斷ヲ受ケタル竊盜罪ト二罪俱發例ニ照シ處分スヘキモノナリト云フニアリ本院檢事池上三郎ハ上告ニ對スル意見ヲ陳辨シ且附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ竊盜罪ノ審判ヲ受クルノ際氏及ヒ年齡ヲ詐稱シテ其處斷ヲ受ケ裁判確定ノ後ニ至ルマテ繼續シテ其詐稱ノ氏年齡ヲ以テ監獄署ニ在ルモノナレハ其確定後ノ詐稱罪ハ刑法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノト思料スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ因テ之レヲ審按スルニ原裁判官ニ於テ認メタル證據ト事實ニ依レハ被告市松ハ先キニ竊盜罪ノ審判ヲ受ル際氏ヲ坂口ト年齡ヲ二十一年(此年齡ハ舊歲ニシテ其生月ヲ知ラサルニ付法ニヨリ計算シ十九年九月トナシアリ)ト詐稱セシヲ以テ宥恕減輕法ニ依リ本刑ニ一等減ノ處斷ヲ受ケ裁判確定ノ後其刑ノ執行即チ重禁錮三月ヲ役過スル迄連續シテ官署ニ對シ詐稱ノ氏年齡ヲ稱呼シタルモノナレハ即チ繼續犯ニシテ前裁判確定後ニ係ルヲ以テ其所爲ハ刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書及

ハ言語ヲ以テ其屬籍氏各年齡職業ヲ詐稱シタルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス同第九十二條先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ同第七十條禁錮罰金ニ該ル者減輕スヘキ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ストアルニ照シ罰金二圓五十錢以上二十五圓以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ罰金ニ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判官カ免訴ノ言渡シヲ爲シタルハ擬律錯誤アル不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

三里 市松

前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ証憑及ヒ事實ハ原裁判官ノ確認スル所ニ依リ刑法第二百三十一條第九十二條第七十條ニ照シ罰金三圓ニ處スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年十月九日

裁判長判事 石井 忠 恭 專任判事 土師 經 典

再犯加重 加減順序

三十五

判事 中嶋 盛有
 判事 鳥居 斷三
 判事 薄井 龍之
 書記 東野 秀彦

○加減順序

小山内 廉司

右被告事件ニ付明治十五年四月十五日以前輕罪裁判所ニ於テ被告廉司ハ明治十五年四月五日井澤甚之丞妻イフ所有ノ金品ヲ竊取シタル者ト認定シ刑法第三百六十六條ニ照シ十六歳未滿ナルヲ以テ二等ヲ減シ仍ホ酌量シテ二等ヲ減シ重禁錮十一日ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル處檢事補八木澤彰六郎ニ於テ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲ス其要旨ハ刑法第八十條第二項及ヒ同第八十九條同第九十條ニ照シ減輕スルモハ同第九十九條ノ加減順序ニ從ヒ四等ヲ通減シ同第七十一條ニ依リ拘留ニ處セサル可カラス然ルニ原裁判茲ニ出テス重禁錮十一日監視六月トセシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ因テ本院檢事澄川拙三ノ意見ヲ聞キ之ヲ審按スルニ刑法第三百六十六條ニ該ル本刑ヲ同第八十條第二項及ヒ同第八十九條同第九十條ニ從ヒ減輕ス可キモハ同第九十九條ニ照シ從犯及ヒ未遂犯其他各本條ニ記載ア

ル加重減輕ノ外該條中第二第三第四ノ減輕ヲ爲スニハ通減ス可キモノナリ而テ其本刑ヲ四等通減スルハ減シ盡スヲ以テ全第七十一條全第二十八條ニ照シ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス可キモノトス然ルヲ原裁判所カ此ノ減輕法ヲ誤リシハ不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ依リ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

小山内 廉司

前ニ辨明スル理由ナルニ依リ刑法第三百六十六條及ヒ同第八十條第二項同第八十九條同第九十條同第九十九條同第七十一條同第二十八條ニ照シ拘留十日ニ處スル者也

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年二月廿四日

裁判長判事 岡内 重俊
 專任判事 土師 經典
 判事 大塚 正男
 判事 兵頭 正藏
 判事 小村 壽太郎
 書記 岩田 鍊

○數罪俱發

加減順序 數罪俱發

山本 音吉

被告八山本音吉カ明治十五年一月四日八尾こう方ニ於テ山田喜十郎ヲ毆打シ且八尾こう方ノ火鉢及五徳ヲ毀損シタル所爲ハ輕罪違警罪ノ二罪俱發ナリ之ニ對シ大坂輕罪裁判所ハ二罪俱發一ノ重キニ從ハスシテ違警罪ニ問テ刑法第四百二十五條第九項ニ據リ十日拘留ニ處斷セリ而シテ大阪輕罪裁判所諸檢事補戸田荒太郎ハ此裁判ヲ不法ナリトシ治罪法第四百十條第十項ニ擬律ノ錯誤アル時モ相當スルモノナリトテ上告セリ上告ノ要旨ハ違警罪ト輕罪ト二罪俱發ノ場合ニ於テハ刑法第一百一條ニ據リ一ノ重キ輕罪ヲ適用スヘキハ勿論ナルニ右裁判ハ刑法第一百一條ノ律意ニ悖リタル裁判ナレハ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ大審院ニ於テ明治十五年九月七日此上告ニ係審判ノ公庭ヲ開キ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ茲ニ判定ス

被告八山本音吉ノ所爲ハ違警罪輕罪ト二罪俱發ニ被シタルモノナレハ則刑法第一百一條ノ若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フトアル旨趣ニ依テ一ノ重キ輕罪ニ斷スヘキモノナルニ大阪輕罪裁判所ハ二罪俱發一ノ重キニ從フ處ノ律意ニ取ラス反テ一ノ輕キ違警罪ニ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス因テ本院ニ於テ治罪法第四百二十五條第九項ノ所謂破毀ノ原由アルモノト認メ大坂輕罪裁判所カ山本音吉ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ治罪法第四百二十九條ノ成文ニ依リ直ニ裁判スル左ノ如レ

山本 音吉

山本音吉カ山田喜十郎ヲ毆打シタル科ハ刑法第四百二十五條第九項ニ相當スル違警罪ナリトス八尾こう方ノ火鉢外一品ヲ毀壞シタル科ハ刑法第四百二十一條ニ相當スル輕罪ナリトス二罪俱發ナルニ付刑法第一百一條ノ律意ニ依リ一ノ重キ輕罪ノ刑則ヲ刑法第四百二十一條ニ問ヒ十一日以上六月以下ノ重禁錮ノ範圍内ニ於テ二十日ノ重禁錮ニ處ス

但原判決中民事原告人請求ノ損害金壹圓五十錢被告ヨリ八尾こう方へ償フヘントアル部
分ハ破毀ノ限ニ在ラス原裁判ノ通リト心得ヘシ

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年九月九日

裁判長判事 坂本 政均 專任判事 關 義 臣

數罪俱發

判事 鳥居 斷三
 同 昌谷 千里
 書記 河波 秘雄
 潮田 藤五郎

明治十五年三月十四日山田輕罪裁判所ニ於テ右潮田藤五郎カ明治十五年三月二日夜無燈ニテ無届ノ大六車ヲ使用シタル所爲ニ對シ被告人ハ車稅規則第六則及三重縣違警罪目第一條二十項ニ違犯スルモノトシ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ車稅規則第一條末項及ヒ第六則ニ照リ其脫稅高五十錢ノ五倍二圓五十錢ノ罰金ニ處斷シ且ツ其車輛ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノトシ之ヲ沒收スル旨言渡タル處同裁判所檢事鶴岡燈ニ於テ右裁判ヲ不當ナリトシ上告スルノ要旨ハ被告カ所爲ハ車稅規則ト三重縣違警罪トチ合セ犯シタルモノナレハ明治十四年第七十二號布告第五條ニ依リ之ヲ併科セサル可カラス然ルニ原裁判所ニ於テハ特リ之ヲ併科セサルノミナラス其車輛一ケ年分ノ稅金高五倍ノ罰金ニ處シ且ツ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト爲シ之ヲ沒收スルノ言渡ヲ爲シタルハ偶ニ是レ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ本院檢事堀田正忠ニ於テハ上告ノ旨趣トスル意見ヲ陳述セリ

依テ之ヲ審按スルニ被告カ無届ニテ大六車ヲ使用シタルハ明治十五年三月五日ノ夜ニ在テ一年ヲ通シ常ニ之ヲ使用シタルニ非ルハ原裁判所カ判定スル所ノ事實ナリトシ果シテ然ラハ此所爲ニ對シテハ車稅規則第一則末項及ヒ第二則第六則ニ依リ其脫稅高半ケ年分即チ二十五錢ノ五倍ノ科料金一圓二十五錢ニ處ス可キモノトス然リ而シテ被告ハ右車稅規則ト三重縣違警罪トチ合セ犯シタルモノナルヲ以テ明治十四年第七十二號布告第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發例ヲ用ヒストアルニ照シ之ヲ併科ス可キモノナルヲ多辯ヲ俟タスシテ明キリトス且又刑法第四十三條ニ云ヘル犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ罪ヲ犯スニ便宜又ハ勢力ヲ與ラシタル爲メ用ヒタル物件ヲ指稱スルモノニシテ本接車輛ノ如キハ其性質全ク相異ナリトス然ルニ原裁判所ニ於テ前記ノ如ク言渡シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル不法ノ判決ナリトス依テ同法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如ク

前辨明ノ理由ナルヲ以テ右潮田藤五郎カ被告事件ニ對シ明治十四年第七十二號布告第五條及ヒ明治八年第二十七號布告車稅規則第一則末項第三則第六則ニ照シ半ケ年分ノ脫稅高二

數罪併發

四拾壹

十五錢ノ五倍科料金一圓二十五錢ニ處シ仍ホ三重縣布達達警罪目第一條第二十項ニ依リ科料金十錢ヲ科スル者也

大審院ニ於テ檢事堀田正志立會宣告ス

明治十六年一月十六日

裁判長判事	岡内 重俊	專任判事	兵頭 正懿
判事	大塚 正男	同	小村 壽太郎
同	木村 義路	書記	岩 田 鍊
			樫村 藤兵衛

右藤兵衛カ被告事件ニ付明治十五年十月三日福島縣裁判所ニ於テ被告ハ明治十四年十一月廿六日代國信夫郡土湯村齋藤幸四郎外三人宅ニ於テ娼妓揚代金酒肴料或ハ旅籠料等合テ金二十六圓七十八錢四厘相拂ハスシテ逃去リテ事實ハ被告ノ自白并ニ齋藤幸四郎外三名ノ告訴ニ依リ該所爲アリタル者ト認定ス右被告ノ所爲ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ基キ舊法ニ因ルニ詐僞取財ヲ以テ論シ賊盜律詐僞取財條ニ依リ贖金二十圓以上

懲役八十日ニ該リ新法ニ因ルニ刑法第三百九十條ニ照シ處斷ス可キモ年二十歳ニ滿タサルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ一等ヲ減シ明治十四年第八十一號布告ニ照シ附加刑ヲ適用セズ重禁錮二月ニ處スヘキモノトス然レニ被告ハ本罪ヲ包藏シ曩キニ竊盜并ニ詐欺取財ノ科ニ因リ重禁錮二月監視六月ノ處斷ヲ受ケタルヲ以テ舊法ニ因ルニ名例律二罪俱發以重論條一罪先キニ發シ既ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕ク若シクハ等シキハ論スルコト勿トアリテ其罪ヲ論セサルモノナリ新法ニ因ルモ亦刑法第二百二條ニ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セストアリテ其罪ヲ論セサルモノナルヲ以テ被告ハ其罪ヲ論セス且身拘留ニ係ルヲ以テ放免スルモノナリト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補充后順之カ上告ノ旨趣ハ被告犯罪ノ事實ハ明治十四年十一月中ニ係ル事件ニシテ明治十五年五月中當福嶋縣裁判所ニ於テ處斷ヲ受クルニ當リ包藏セシ犯罪ナリ而シテ其處斷ヲ經タル事件ハ新法實施以後ニ係ル犯罪ナリ然ルヲ裁判官ニ於テ新舊ノ法ヲ比照スルニ名例律二罪俱發以重論條ヲ適用セシハ何等ノ法律ニ基キシモノナルカ夫レ被告ハ會テ舊法ノ處斷ヲ經タル者ニ非レハ該條ヲ適用スヘキノ理ナク又舊法ハ新法實施以後ニ係ル犯罪及ヒ新法ヲ

數罪俱發

以テ處斷シタル事件ヲ管理ス可キ者ニ非ルナリ依之本按ニ對シ新法ニ從ヒ處斷シタル結果ニ於テハ異議ナシト雖モ其各例律ニ罪俱發以重論條ヲ適用セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告事件ニ對シ原裁判所カ各例律ニ罪俱發以重論條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ト爲サ、ルテ得ス何トナレ明治十五年一月一日以後ニ係ル犯罪ニシテ單ニ刑法ニ依リ己ニ斷ラレタル事件ヲ以テ明治十四年十二月廿一日限り廢シタル既往ノ法律即チ各例律ニ罪俱發以重論條ニ照スヘキ理由ナキヲ以ツテナリ因テ大審院ニ於テ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判言渡シ内舊法各例律ニ罪俱發以重論條ニ比照セシ部分ノミヲ破毀シ之ヲ取消スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

明治十六年十月三十日

裁判長判事 中島 盛有 專任判事 石井 忠 恭
 判事 土師 經典 判事 薄井 龍之
 判事 小村 壽太郎 書記 笠 順三郎

○正犯

白砂 幾太郎

賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リタル被告事件ニ付明治十五年四月十八日廣島輕罪裁判所ニ於テ右幾太郎カ所爲ニ對シ刑法第二百六十條ニ依リ同第九條同第八十九條同第九十條ヲ適用シ本刑ニ三等ヲ通減シ重禁錮二十二日罰金二圓五十錢ニ處斷セリ廣嶋輕罪裁判所檢事補菅野荒雄ハ該裁判ヲ不法トシ上告爲シ要領ハ第一被告人ヲ從犯トシテ斷定セシ第二被告人ニ從犯ト爲スモ刑法第九十九條ノ加減順序ニ違ヒタルト是ナリ抑刑法第九十九條ニ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯トシ云々トアルハ間接ニ加功セシ者ヲ云ヒ決シテ直接ニ加功セシ者ヲ云フニ非ス今被告幾太郎カ現ニ賭場ニ在テ切符ト金錢トヲ交換セシ所爲ハ裁判官ノ認メテ以テ事實ト爲ス所ナレハ武末六郎ト同ク其罪ヲ組成セシ共犯者タルヲ明瞭ナレハ宜ク正犯ヲ以テ處スヘキヲ從犯トシテ處シタルハ擬律ノ錯誤ト謂ハサルヲ得ス假ニ從犯トスルモ本刑ヨリ通シテ三等ヲ減シタルハ刑法第九十九條ニ從犯及ヒ未遂犯ノ減等ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアル定規ニ違ヒタルハ是亦擬律ノ

正犯

四十五

錯誤ナリト云フニ在リ本院檢事池上三郎ハ上告第一ノ理由ハ相立ス何トナレハ被告人ハ雇主六郎ニ使役セラル、者コシテ同人カ賭場ヲ開張スルニ其手足トナリ相働キタル者ナレハ之ヲ從犯ト爲シタルハ不當ニアラス第二ノ理由ハ檢察官カ論告セシ如ク刑法第九十九條ニ違ヒタル裁判コシテ其刑期計算ヲ明辨シ原裁判ハ破毀ノ原由アル所以ヲ陳述セリ仍テ裁判スルコト左ノ如シ

原裁判所カ言渡シタル事實ノ要點ハ白砂幾太郎ハ武末六郎カ玉突營業中該業ヲ辭柄トシ其實金錢ヲ賭シ玉突場ヲ開張シ利ヲ圖ルニ當リ日給二十錢ノ契約ニテ同人ニ相雇ハレ其犯罪ヲ幫助シタル者ト認定スト又豫審終結ノ言渡及ヒ坂井嘉助ノ陳述ヲ參觀スレハ幾太郎ハ武末六郎ノ玉突營業スル手傳ヒニ雇ハレ該業ニ託シ金錢ニ代用スル所ノ切符ヲ以テ之ヲ賭シタル後現金ト交換シタル犯狀明晰ナリ果シテ然レハ刑法第九九條ニ所謂豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者トアルニ非スシテ其結果ヲ組成セシ者ナレハ例ヘハ猶竊盜同犯者ノ戸外ニ瞭シ又ハ贓物ヲ接遞スルカコトシ決シテ從犯ト爲スヲ得カ者トス且刑法第九十九條ニ定メタル加減順序ニ違ヒ又ハ刑期計算ヲ過チタルニ關ハラヌ原檢察官上告第一ノ理由ニ

因リ治罪法第四百十條十項ノ場合ニ適當スル破毀ノ原由アル者トス仍テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ之ヲ裁判ス

白砂・幾太郎

右ノ理由ナルニ因リ刑法第二百六十條賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ云々三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ依リ二人以上ニテ犯シタルヲ以テ刑法第四百四條ニ照シ皆正犯トシ處斷スヘキ處酌量減輕スヘキ情狀アルニ因リ刑法第八十九條ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ一月十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ範圍内ニ於テ重禁錮一月十五日ニ處シ罰金五圓ヲ附加スルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年一月十八日

- 裁判長判事 中島 錫胤 專任判事 山根 秀介
- 判事 關 義 臣 判事 鳥居 斷三
- 判事 昌谷 千里 書記 畠木 龍兆
- 正犯 未遂犯 四十七

○未遂犯

佐藤 丹次郎

明治十五年二月三日熊谷輕罪裁判所ニ於テ右佐藤丹次郎ニ對シ植松瀧藏ノ紙入一個ヲ拘摸シタル所爲ハ既遂ノ所爲ナリトシ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ六月ノ監視ニ付スル旨宣告セシ處同裁判所檢事申川忠純ニ於テハ丹次郎カ所爲ハ未遂犯罪ニシテ刑法第百十二條ヲ適用スヘキモノナリトノ旨趣ヲ以テ上告ヲ爲シタリ本院檢事喜多千穎ニ於テハ原裁判相當ニシテ原裁判所檢事ノ上告ハ其當ヲ得サル旨ヲ陳シタリ仍テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

被告人佐藤丹次郎ノ所爲ハ植松瀧藏カ通行ノ際懷中シタル紙入ヲ奪取逃走ノ途中被害人ニ覺逐セラレ該紙入ヲ投棄シタルモノニシテ既ニ盜取ノ目的ハ遂ケタルモノトス然レハ則チ原裁判所ニ於テ刑法第百三十六條同第三百七十六條ニ照シ處斷シタルハ相當ニシテ破毀ス可キ理由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事喜多千穎立會宣告ス

明治十五年八月十四日

- 裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 土師 經典
- 判事 山吉 盛典 同 兵頭 正盛
- 同 木村 義路 書記 松本 正則
- 唐木 種藏

竊盜犯罪ノ被告事件ニ付明治十五年四月廿七日小倉治安裁判所ニ於テ福岡輕罪裁判所ヲ開キ右種藏カ所爲ハ上田藤七方ニ忍入り金六錢四厘ヲ竊取シ全家ヲ立去ラントスル際藤七妻〔ソレ〕ニ差押ヘラレタル者ト判定シ刑法第百六十六條ニ依リ重禁錮二月ノ處竊盜再犯ナルヲ以テ同法第百九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ重禁錮二月十五日ニ處スヘキ處已ニ行フト雖モ未タ遂ケサルヲ以テ刑法第百十二條ニ照シ一等ヲ減シ仍ホ十六歲以上二十歲ニ滿タサルニ付同法第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ通減シテ二等ヲ減シ重禁錮一月七日ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡セリ原裁判所檢察官警部横山政輔ハ該裁判ヲ不當トシ上告爲シタル要領ハ被告人ノ所爲ヲ未遂犯トシ再犯加重セシハ相當ナリト雖モ其輕減ノ

未遂犯

法刑法第九十九條ニ從ヒ未遂犯ノ減等ヲ本刑トシ其本刑ニ宥恕シテ一等ヲ遞減スヘキヲ通減セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ大審院檢事加納久宣ハ附帶上告ヲ爲シテ曰被告入ハ己ニ竊盜ノ目的ヲ逐ケタル後其金錢ヲ取戻サレタル者ナレハ既遂犯明白ナリ又被告カ明治十四年中ニ犯シタル罪ハ新法實施前ノ罪ナルヲ以テ犯數ニ入レ本按竊盜事件即チ新法實施後ノ罪ニ再犯加重ノ法ヲ用フルヲ得サルモノナリ然ルチ原裁判所ハ新法實施前ノ罪ヲ犯數ニ入レ加重セシノミナラス未遂犯トシテ輕減セシハ俱ニ擬律錯誤アル不法ノ裁判ナレハ原裁判破毀ヲ求ムト仍テ裁判スル左ノ如シ

被告唐木種藏カ所爲ハ原裁判所ノ宣告書ニ載スル如ク他人ノ家宅ニ忍入り金錢ヲ竊取シテ立去ラントスル際差押ヘラレタル事實ニシテ己ニ其目的ヲ達シタルコト明瞭ナリ然ルニ原裁判所ハ未遂犯罪トシ刑法第百二十二條ニ照シ處斷シ加之被告人カ明治十五年二月一日受ケタル裁判ハ明治十四年七月中ノ竊盜罪ニシテ即チ新法施行以前ノ所犯ナレハ這般ノ竊盜ノ罪ヲ再犯トシ加重ス可キ者ニアラス然ルニ原裁判所カ刑法第九十二條ニ依リ處斷セシハ俱ニ擬律ノ錯誤アル不當ノ裁判ニシテ本院檢事附帶上告ノ旨趣ヲ允當ナリトス仍テ原裁判ヲ

破毀シ治罪法第百二十九條ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ之ヲ裁判ス
唐木 種藏

右ノ理由ナルヲ以テ人ノ所有物ヲ竊取シタル者竊盜ノ罪ト爲シ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス可キ處年齢廿歲ニ滿タサルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二月ニ處シ刑法第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ附スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス
明治十六年一月廿四日

- | | | | | | |
|-------|----|----|------|------|----|
| 裁判長判事 | 中島 | 錫胤 | 專任判事 | 山根 | 秀介 |
| 判事 | 關 | 義臣 | 同 | 鳥居 | 斷三 |
| 同 | 昌谷 | 千里 | 書記 | 澤野 | 潛藏 |
| | | | 宇山 | 圓右衛門 | |

右圓右衛門カ竊盜被告事件ニ付明治十五年七月十七日松江輕罪裁判所ニ於テ被告ノ所爲ハ未遂犯
五十一

窃盜ヲ犯シ未ダ遂ケサルモノトス依テ刑法第三百六十六條同第三百七十五條同第三百七十二條
 ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮三月ニ處シ尙ホ同第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ附
 スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官上告ノ要旨ハ窃盜罪ハ他ノ所有物ヲ己レニ移シタルヲ
 以テ其罪ヲ組成スルモノニシテ其贓物ノ費用セルト否トヲ以テ未ダ區別ス可キニアル
 本件被告カ所爲ノ如キハ物品ヲ竊取セシ場所ヲ移轉シタルハ遂犯トナサカハカラス然ル
 ニ原裁判ノ刑法第百十二條ヲ適用セルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ仍テ
 專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

本件被告ノ所爲ハ其自認書及ヒ被害者ノ訴書ニアル如ク家族不在ヲ偵知忍入り與ノ間簞笥
 ヨリ衣類七枚次間戸棚ヨリ八枚ヲ取出シ右八枚ヲ盜取ル心底ニテ納戸口迄持出シ荷拵ヲ爲
 スノ際ニ於テ事主ニ聲懸ケラレ該贓品ハ其儘遺シ置キ逃走セシ事實ナレハ原判官認メテ以
 テ未遂犯罪ナリト判定シタル裁判ハ其當ヲ得タルモノトス何トナレハ凡ソ盜罪ハ竊取ノ物
 品ニ依テ稍區別アリテ貨幣珠玉ノ如キ荷モ之ヲ懷中シ若クハ掌握シ得ヘキモノハ格別ナレ
 且衣服ノ類ハ假令ヒ取出シタル上些シク場所ヲ移轉スルモ之カ荷拵ヲ爲シ未ダ持去ヲサル

ノ際ニ於テ發覺スル則チ本案事件ノ如キハ固ヨリ未ダ其物品ヲ占有シタリト爲スコト得カ
 レハナリ故ニ原裁判ノ刑法第百十二條ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮三月監視六月ヲ附
 加スト言渡シタルハ不法ノ裁判ト爲スコトヲ得カレハ上告ノ旨趣相立タサルモノトス因テ治
 罪法第四百廿七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

於大審院檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年七月六日

- | | | | |
|-------|---------|------|---------|
| 裁判長判事 | 石井 忠 泰 | 專任判事 | 中島 盛 有 |
| 判事 | 兵 頭 正 鏡 | 判事 | 土 師 經 典 |
| 判事 | 黒 岩 直 方 | 書記 | 伊 藤 珠 樹 |
- 公益ニ關スル重罪輕罪之部

○皇室ニ對スル罪

森田 馬太郎

明治十五年一月十六日高知輕罪裁判所ニ於テ右森田馬太郎ニ對シ明治十五年一月五日ノ夜

未遂犯 皇室ニ對スル罪

立志社内ニ於テ爲シタル演說中刑法第百十七條ニ該ル罪ヲ犯シタルモノト認メ同條及ヒ全
 第百二十條ニ照シ重禁錮四年ニ處シ罰金百圓ヲ附加シ仍ホ監視一年ヲ命スル旨宣告セシ處
 馬太郎ニ於テハ該裁判ニ對シ高知輕罪裁判所カ公判ノ際辯護準備ノ爲メ必要ナル書類ヲ披
 閱センコトノ請求ヲ許サ、ルハ裁判所ノ構成規則ニ背キタル者ナリ又演說ハ明治十四年中尤
 人心ヲ感動スル者ト題シ其事實ヲ叙述シタルモノニシテ御巡幸ト板垣退助ノ遊歴トヲ比較
 セシモノニアラサレハ不敬ノ所爲アルコトナシ仍ホ所爲トハ行爲ノ謂ニシテ言語トハ區別ア
 ルモノナレハ刑法第百十七條ノ罪ヲ犯セシコトナシトノ旨趣ヲ以テ上告ヲ爲シタリ同裁判所
 檢事補村田穂ニ於テハ馬太郎カ上告ノ旨趣ハ其裁判所構成規則ニ背キタリトノ點ニ就テハ
 治罪法中輕罪ニアリテハ書類披閱ヲ許ス可キトノ明文アルニアラサレハ裁判所ニ於テ之ヲ
 許サ、ルモ其構成規則ニ背キタル者ト爲スヲ得ス又刑法第百十七條ノ罪ヲ犯シタルコトナシ
 トノ點ニ就テハ演說ヲ爲スニ當リ監臨官吏カ手記スル處ノ聞取書等ニ依リハ不敬ノ所爲ア
 ル判然タルモノナレハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ以テ答辦ヲ爲シタリ本院檢事堀田正忠ニ
 於テハ原裁判所檢事補村田穂カ答辦スル旨趣ノ如ク原裁判相當ニシテ不當ト觀ル可キ理由

ナキニ依リ上告ハ棄却アラソコトヲ希望スル旨ヲ陳述シタリ依テ判決スル左ノ如シ
 上告人森田馬太郎カ上告ノ要點ハ前ニ掲クル如ク高知輕罪裁判所ハ裁判所ノ構成規則ニ背
 キタル者ナリトノ旨趣ナレハ輕罪裁判所ニ於テ輕罪ノ審判ヲ爲ス際辯護準備ノ爲メ書類ノ
 披閱ヲ請求スル場合裁判所ニ於テ必ス之ヲ許ス可シトノ法文治罪法中明記ノアルニアラサ
 レハ裁判所ニ於テ之ヲ許サ、ルモ不法ト爲スヲ得ス況ンヤ裁判所ノ構成規則ニ背キタルモ
 ノトハ本案ノ如キ事ニ準據ス可キモノニアラサルニ於テチヤ又刑法第百十七條ノ罪ヲ犯セ
 シコトナシト云フニアレハ演說ノ當日監臨官吏ノ手記セル聞取書等ニ依リハ御巡幸ト板垣退
 助ノ遊歴トヲ比較シ公衆ニ對シ演說ヲ爲シタルモノニシテ不敬ノ所爲アルモノトス又所爲
 ハ行爲ニシテ言語ト區別アリト云ト雖モ言語ヲ以テ爲ス所アル場合ニ於テハ即チ所爲ト謂
 ハサルヲ得ス
 右ノ理由ナルヲ以ツテ明治十五年一月十六日高知輕罪裁判所ニ於テ森田馬太郎ニ對シ宣告
 シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ治罪法第百二十七條ニ照シ上告ヲ棄却スルモノ
 也

大審院檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年八月廿四日

裁判長判事 岡内 重俊

專任判事 山吉 盛典

判事 兵頭 正懿

同 土師 經典

同 木付 義路

書記 津田 重照

八木原 繁社

不敬罪被告事件ニ付明治十六年九月六日新瀉輕罪裁判所高田支廳會議局ニ於テ被告カ豫審
 終結ノ故障ニ對シ判決シタル言渡ニ服セス上告ノ要領ハ被告ニ對シ新瀉輕罪裁判所高田支
 廳豫審判事尾崎房豐カ言渡シテ爲シタル豫審ノ終結内第三條即不敬事件ハ越權ノ處分ナリ
 ト思料セシニヨリ故障ヲ爲シタル處同會議局ニ於テ該言渡ヲ認可スト判決ヲ爲シタリ其判
 文中新法實施以前ニ在テハ不敬ノ罪ハ國事犯トナシ懲役十年ニ處スル慣例ナルヲ以テト云
 ヒ毫モ其理由ヲ附セス抑モ上告人ノ所爲タル愛國ノ哀情ヨリ世態ヲ空想スルノ狀ヲ私通ノ
 書簡ニ移シタルニ止リ新法實施以前ニ在テモ決シテ罪トナラサル者也姑ク新法ニ於テハ之ヲ

罰スヘキ條アリトセンカ新法實施以前ニ係ル所爲ヲ罰スヘキカヨサルハ明ナリ然ルニ會議局
 ハ上告人ノ所爲ヲ以テ新法實施以前ニ在テハ不敬ノ罪トシ不敬ノ罪ハ國事犯トシ懲役十年
 ニ處スル慣例ナリト云ヘリ何ソ徒言ノ甚シキヤ假リニ上告人ハ國事犯トナサザカ其刑罰懲
 役十年ニ處スル慣例ハ何クニ在ルヤ上告人ハ決シテ此等ノ慣例ナキヲ確信スルナリ加之豫
 審終結ノ言渡シニ大詔ニ侮辱ヲ加ヘタル云々トシ未ダ會テアラサル罪名刑罰ヲ橫ニ自造シ
 以テ新法ニ比照シタルハ全ク立法權ヲ侵犯シタル越權ノ處分ニシテ不當ノ甚シキモノナリト
 信スルヲ以テ該判文ヲ破毀ナランコトヲ請求スト云フニアリ

對手人檢事足立隆則ハ該上告ニ對シ逐一其不理ナルヲ辨駁シ會議局ノ判決ハ最モ至當ナリ
 ト答辦セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 按スルニ上告ノ理由トスル處被告ノ所爲タル愛國ノ哀情ヨリ世態ヲ空想スルノ狀ヲ私通ノ
 書簡ニ移シタルニ止マルヲ以テ皇室ニ對シ毫モ不敬ノ所爲アルニアラサレハ決シテ之ヲ罪
 トナシ罰スヘキモノニアラス然ルニ原裁判所豫審終結言渡ノ第三條ニ不敬事件云々トアル

皇室ニ對スル罪

越權ノ所分ナリト思科セシユリ故障ナシタルニ會議局ニ於テ該言渡ヲ認可シタルハ
 不當ノ判決ナリト云フト雖モ今訴訟書類ヲ審査スルニ被告カ明治十四年十月十八日小林福
 宗ニ贈リタル書中ニ明治十四年十月十二日ハ堂々タル我日本帝國亡滅ノ日ナリ他ニアラス
 勅諭ノ一文ナリトアリテ其言暴漫無忌直チニ大詔ニ對シ明ニ侮辱ヲ加ヘタル者ニシテ其ノ
 不敬ノ所爲タル何ソ多言ヲ要セン假リニ被告カ主張スル如ク世態ヲ空想スルノ狀ヲ移シタ
 ル者トスルモ其所爲ノ大詔ニ對シ侮辱ヲ加フル此種ニ至テハ其意ノ如何ヲ問ハス之レヲ大
 不敬ト云ハハカルヲ得サルナリ況ンヤ其ノ陳辯タル法網ヲ伴脱セント萬一チ企圖スル牽強ノ
 道辭ヲ洞然火ヲ見ルヨリ明ナレハ豫審終結言渡ハ其當ヲ得タル者ト云ハカルヲ得ヌ又チ
 上告人ハ假リニ國事犯罪トナセンカ其刑期懲役十年ニ處スル等ノ慣例決シテ之ナキヲ確信
 ス云々ト云フト雖モ抑モ不敬ノ罪タル新法實施以前ニ在テハ國事犯トナシ臨時上裁ヲ仰キ
 處斷スルキ特設ノ制ナレハ之レヲ慣例ト稱スルモ亦何ソ不可ナラン然レモ其懲役十年ニ處
 スルヲ以テ慣例ト爲スト云フニ至テハ或ハ妥當ヲ缺クモノ、如シト雖モ其判決ニ至テハ毫
 モ瑕瑾ノ點ナキヲ以テ斯ノ如キ瑣々タル語病ヲ擧ケテ以テ上告ノ理由ト爲ヌチ得ヌ亦豫審

終結言渡ニ未ダ會テアヲカル罪名刑期ヲ横ニ自造シ以テ新法ニ出照シタルハ越權ノ處分ナ
 リト云ト雖モ豫審ニ於テ新法實施以前特設ノ制ヲ援キ新舊比照例ニ依リ認定シタル者ナレ
 ハ是亦不法ノ廉ナキヲ以テ之レニ對シテ越權ノ處分ナリト云フヲ得ヌ此ニ由テ之レヲ觀レ
 ハ會議局ニ於テ該言渡ヲ認可シタルハ固ヨリ允當ノ判決ナレハ之ヲ指シテ不當ノ甚シキモ
 ノナリト云フヲ得ヘケンヤ要スレニ本案上告ノ趣旨タル自家一己ノ臆見ヲ以テ豫審官カ正
 當ノ法規ヲ踐ミ判定セシ事實ニ對シ其當否如何ヲ非難シテ之レカ破毀ヲ求ムルニ過キカレ
 ハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ總テ上告ノ理由ナキ者ト判定ス
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法四百二十七條ノ成規ニ遵ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年十二月廿八日

- | | | | | | |
|---------|---------|-----|------|----|-----|
| 裁判長判事 | 鳥居 | 斷三 | 專任判事 | 薄井 | 龍之 |
| 判事 | 伴 | 正臣 | 判事 | 園田 | 弘 |
| 判事 | 小村 | 壽太郎 | 書記 | 香田 | 能興 |
| 皇室ニ對スル罪 | 内亂ニ關スル罪 | | | | 五十九 |

○内亂ニ關スル罪

△國事犯陰謀ノ件

- 河野 廣中
- 田母野 秀顯
- 愛澤 寧堅
- 平島 松尾
- 花香 恭次郎
- 澤田 清之輔

右被告人等ハ政府ヲ顛覆セシメテ相謀リシトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人等ノ答辨辯護人等ノ辯論ヲ聽キ被告人等ノ白狀及ヒ證憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スルコト左ノ如シ

判決

右被告人等ハ明治十五年七八月中福島縣福島町無名館ニ於テ政府ヲ顛覆スル事ヲ目的ト

シ内亂ノ陰謀ヲ爲シタル者ト判定ス其証憑ハ左ニ之ヲ明示ス

河野廣中、明治十六年一月二十七日若松輕罪裁判所豫審廷ニ於テ明治十五年八月一日福島無名館ニ於テ花香愛澤田母野澤田平島ト誓約セシメテ陳述シ又々右誓約文記應ノ問ニ對シ廣中ハ自ラ筆ヲ執リ認メシ所左ノ如シ

誓約

- 第一 吾黨ハ自由ノ公敵タル擅制政府ヲ顛覆シテ公議政体ヲ建立スルヲ以テ任トナス
- 第一 吾黨ハ吾黨ノ目的ヲ達スルカ爲メ生命財産ヲ抛テ恩愛ノ繫繩ヲ斷テ事ニ臨テ一切顧慮スル所ナカルヘシ
- 第三 吾黨ハ吾黨ノ會議ニ於テ議決セル憲法ヲ遵守シ俱ニ同心一体ノ働ヲナスヘシ
- 第四 吾黨ハ吾黨ノ志望ヲ達セサル間ハ如何ナル艱難ニ遭遇シ又幾年月ヲ經過スルモ必ス解散セサルヘシ

第五 吾黨員ニシテ吾黨ノ密事ヲ漏シ及誓詞ニ背戾アル者ハ直チニ自刃セシムヘシ
右五條ノ誓約ハ吾黨ノ死ヲ以テ決行スヘキモノ也

内亂ニ關スル罪

明治十六年一月二十七日

若松輕罪裁判所ニ於テ認ム

河野 廣中押印

又々明治十六年四月四日本院豫審廷ニ於テ盟約書中政府ヲ顛覆シ云々トアルハ汎々萬國ヲ指シタル者ナリ故ニ日本政府ヲモ包含シタル單ニ日本政府ノミト御認メ相成テハ盟約書ノ成リタル素志ニ違フ備ニ候ヘハ此段モ申立置キ候ト陳述セリ平嶋松尾ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ汝等六名ニテ爲シタル盟約書第一條我黨ハ我日本ニ在リテ壓制政府ヲ顛覆スルトアリ抑壓制政府トハ現今我日本政府ヲ指シタルナルヘシトノ問ニ對シ現今日本政府ハ壓制ノ傾キアリ而テ盟約第一條ノ壓制トハ廣シ指シタルトナリト答ヘ又ハ廣ク指シタルトハ漠トシテ解シ難シ其傾キアリトハ蓋シ壓制ナリト云ノ意カトノ問ニ對シ然リ則テ現時ノ壓制ニ迫リ盟約シタルナリト答ヘ又々然ラハ壓制政府トハ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナキ乎トノ問ニ對シ然リ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナシト答ヘタリ又々明治十六年一月二十五日若松輕罪裁判所ニ於テ

檢事カ汝カ被告事件ニ付明治十六年一月二日一月三日一月十七日一月二十四日ニアツテ福嶋警察署及ヒ若松警察署ニ於テノ訊問ニ對シ陳述ハ相違之レナキカトノ問ニ對シ福嶋警察署ニ於テノ調書中兇徒聚衆事件ニ付テノ答ハ相違ノ際モアレハ盟約書其他之ニ關スル事ハ都テ毫モ相違無之候ト答ヘ右盟約書ヲ閱スルコト同盟ノ者汝ノ外五名ニ過キヌ如何ノ方法ヲ以テ同志ヲ募ル見込ナリシヤトノ問ニ對シ我自由黨員中ニモ右盟約書ニ連署ノ外ハ漸次各自ノ新友中ニ遊說シ加盟セシムル見込ニ有之且加盟者ニハ誓詞血判セシムル申合ナリト答ヘタリ

又々明治十六年一月二十五日若松輕罪裁判所豫審廷ニ於テ汝犯罪事件ニ付明治十六年一月二日同月三日同月十七日福嶋警察署ニ於テノ陳述并ニ十六年一月二十四日若松警察署ニ於テ陳述シタル通り相違之レナキヤトノ問ニ對シ福嶋警察署ニ於テノ陳述調書中兇徒聚衆之事ニ付河埜等ト協議シタリト申立タルノ一事ハ全ク無實ノ申立テ致候盟約其他之事ハ都テ少シモ相違無之候ト答ヘタリ

花香恭次郎ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ盟約書ノ事ニ付本書ニハ專制政府

内亂ニ關スル罪

ト記載シアルヤニ聞ク如何トノ問ニ對シ熟考スルニ歴ハ專ノ誤リナリ且第二條中目的ヲ達センカ爲ノ下ニ恩愛ノ繫繩ヲ斷テ生命財産ヲ擲ツヘシト正誤アラソトテ請フト答ヘ專制政府トハ明治政府ヲ指シタルコトニ相違ナカレハシトノ問ニ對シ尤モ然リト答ヘヨリ而シテ恭次郎ヲ筆記セシ明治十六年一月十四日付ノ書面左ノ如シ

盟約

第一條 我黨ハ我日本國ニ在リ壓制政府ヲ顛覆シ真正ナル自由政体ヲ確立スルコトヲ懋ム
第二條 我黨ハ前條ノ目的ヲ達センカ爲ノ性命ヲ賭シ財産ヲ擲ツヘシ 第三條 我黨ハ我黨ノ會議ニ於テ決定シタル事件ヲ決行ス 第四條 吾黨員ニシテ吾黨ノ密事ヲ漏スモノハ直ニ斬ニ處スヘシ 第五條 吾黨ハ以上ノ目的ヲ遂ケサレハ幾年月ヲ經ルモ渝ラザルヘシ

右ノ盟約ハ我黨ノ主義精神ニシテ則チ之ヲ神明ニ誓ヒ死テ以テ之ヲ守ルモノナリ未ダ記臆ヲ寫シ得ス然レモ大凡前書ノ如ク覺ヘ候

明治十六年一月十四日

花香 恭次郎摺印

又々明治十六年二月三日福島縣罪裁判所若松支廳豫審廷ニ於テ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ申立テタル訊問調書ノ通りニ相違之レナキヤトノ問ニ對シ相違有之候ト答ヘ相違ノ箇條一々申立ユトノ問ニ對シ盟約書ノ第一條ニ我日本國ニアリトハ自由ノ抗敵ナルノ誤寫第四條直ニ斬ニ處ス可シトハ直ニ自刃セシム可シノ誤寫ニ之レアリ又々調書中明治政府ヲ指スカノ答ニ尤モ然リト之アルハ地球上總テノ專制政府ヲ指シタルモノニテ則チ日本政府モ其内ニ之レアリ候ト答ヘ右ノ外ニ相違無之カトノ問ニ對シ相違無之候ト答ヘ盟約書第一條ニ政府ヲ顛覆ストハ如何トノ問ニ對シ政府ヲヒツクリ返ヘスコトナリト答ヘ政府ヲヒツクリ返ヘストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リ如何様ニモ御名ケアリテ然ル可シト答ヘヨリ

河野廣中ハ明治十六年五月二日本院ノ下調廷ニ於テ八月一日夜中相談セシ人名カ四人ナラハ他ノ兩人ノ結盟シタルハ何日ナルヤトノ問ニ對シ八月一日ヨリ後ル、コトニ三日愛澤又一兩日後ニ平島カ結盟シタルナリト答ヘヨリ

内亂ニ關スル罪

愛澤憲堅、明治十六年二月二十八日若松輕罪裁判所、豫審廷ニ於テ裁判官カ平島松尾花香恭次郎河野廣中等ノ申立ヲ以テ誓約書ヲ讀ミ聞セシ後此三人ノ申立中何レガ汝ガ記憶スル所ニ近キカトノ問ニ對シ河野ノ申立タルモノ稍近キニ似タリ然レモ尙ホ自分ノ記憶スル所ト異ナリ免レズ先ツ河野ノ申立タル者ニ就キ自分ノ記スル所ヲ筆記シ察シシ然レモ尙ホ確カキ者ニ非ヌト答ヘ而シテ被告即チ憲堅ハ其記憶スル所ヲ自筆ニ差出シタルヲ以テ裁判官カ此今差出シタル汝ノ記憶スル所ノ者ハ河野廣中ノ差出シタル者ト符節ヲ合スル如ク小異ナキ者ノ如ク如何トノ問ニ對シ自分ノ記憶スル所斯ノ如ク然レモ確カキ者ニ非サレナリト答ヘ又チ右誓約書ナシタル年月日及ヒ場所其共ニセシ者ハ誰カトノ問ニ對シ明治十五年八月初旬福島無名館ニ於テ河野廣中ニ其誓約書ヲ示シ以テ相計ヲ以テ之ニ因リ之ニ加盟ス當時河野花香田母野澤田ハ己ニ加盟血印シ置キタルト陳述セリ花香恭次郎ハ明治十六年四月三十日本院下調廷ニ於テ平島カ八月一日ハ他行ナリシモ知ル可ラス然レモ其草稿ヲ起シタルハ六七日前即チ七月二十二三日頃ニ無論其席ニ列ナリシヲ以テ八月一日ハ他行中ナルモ結盟ヲナスノ事情ヲ熟知スルモノナリ否ヲサレハ盟約

ノ調印成立ツヘキニアラサルナリト陳述シ又チ八月一日ヨリ以前ニ集會シテ平島モ其席ニアリシト云フカトノ問ニ對シ其席ニ在リシト答ヘ又チ盟約書起草ノ日ハ七月何日頃ト者ヲヤトノ問ニ對シ結盟一周間前ト覺ユ故ニ七月二十二三日ナリト答ヘ又一周間前ニ談判シタル人員ハ幾名ト者ヲルヤトノ問ニ對シ河野田母野澤田余及ヒ平嶋ナリト答ヘ又田母野秀顯ハ明治十六年二月二十五日若松警察署ニ於テ其方ハ河野平島花香等ト非常ノ盟約ヲ爲シタル事アルヘシトノ問ニ對シ明治十五年七月頃盟約シタルアルニ相違ナシト答ヘ又チ何處ニテ爲シタルヤ誰々ナリシトノヤ問ニ對シ河野廣中澤田清之輔花香恭次郎自分合セテ四名ナリシカ其後聞ク處ニモレハ平島松尾モ加盟シタリト云ト答ヘ又チ此誓約タル死ヲ以テシタルヤ如何トノ問ニ對シ死ヲ以テ盟約シタルニ相違ナシト答ヘ又其條項汝ガ記憶スル處一々申立ロトノ問ニ對シ克ク記憶セサルヲ以テ答フル能ハヌト答ヘ又汝ハ記憶セサルヲ以テ其盟約ヲ免レントスル者ノ如シ請求ニモリテ平島松尾カ供出并ニ筆記シタル盟約書ヲ示ス其朗讀ヲ聞キ答辨ヲ爲セトノ申問ケニ對シ諾ト答ヘヨリ茲ニ於テ若松警察署ニ於テハ平島松尾カ福島警察署ニテ筆記シタル盟約書則チ若松警察署調内亂ニ關スル罪

書ノ末ニ附綴セシ謄本ヲ示シタリ其謄本左ノ如シ

盟約書

第一條 吾黨ハ吾カ日本國ニ在ツテ憲制政府ヲ顛覆シ自由ノ制度ヲ確立スルヲ務ムヘシ

第二條 吾黨ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メニハ生死ヲ顧念セス 第三條 吾黨ハ妻子眷屬ノ係累ヲ絶テ且ツ財産ヲ盡却スルヲ願ニス 第四條 吾黨ノ衆議ヲ以テ決スルモノハ斷行スヘシ 第五條 吾黨中ノ秘事ヲ漏スモノハ斬ニ處スヘシ

右ノ條々死ヲ以テ誓フ者也

明治十六年一月十四日夜八時

平島松尾 押印

茲ニ於テ汝ハ前キニ記憶セサル旨申立テシニヨリ朗讀シテ示シタリ如斯同盟者カ自白スルヲ以テ見レハ汝モ相違ナキヲ覺知シタルヘシトノ問ニ對シ自分ハ記憶セサレモ今朝讀テ受ケテ其盟約書ナリト答フト陳述シ又々盟約書第一條ニ憲制政府ヲ顛覆スルトアルカ日本政府ヲ指シタル者ナルヤトノ問ニ對シ單ニ日本政府ノミナラス社會ノ憲制政府タル

ハ悉皆含蓄シタルナリト答ヘタリ

又々明治十六年六月十八日本院下調廷ニ於テ其盟約ヲ爲シタル時ハ何レノ頃ナルヤトノ問ニ對シ十五年七月下旬ナリ六名ノ者カ無名館ニ揃フタル時何ノ話シヨリ起リシカ遂ニ社會ノ安寧ヲ企圖スルノ談話ニ入り此ニ盟約ノ草稿ヲ試ミ而シテ八月一日ニ至テ亦六名カ集リ即チ盟約血判セリ其發議ハ上陳ノ如ク五六日前ノコナリシト答ヘ又々然ラハ七月下旬ニ相會セシ人名ハ誰々ナルヤトノ問ニ對シ盟約シタル六名ナリ然レモ此ノ爲メニトテ集會セシヨアラズ偶然此六名カ集合シタリシナリト答ヘ又々其六名トハ花香盛次郎平嶋松尾河野廣中愛澤寧堅澤田清之輔并ニ田母野秀顯ナルヤトノ問ニ對シ然リト答ヘタリ又々此盟約書ヲ澤田清之輔カ淨書スル際ニ文詞中之ハ箇條ニスルカ宜シトカ何トカ其文字ニ付テ同盟者ノ意見ハナカリシヤトノ問ニ對シ大ニ意見ノ合ハサル所アリテ專ラ第一二條ニ付テ議論セリ即第一條ニ自由ノ公敵タル憲制政府ヲ顛覆スルトアル其顛覆ノ文字ハ干戈ヲ執リテ政府ヲ倒スノ義ニテ今自由主義上ニテハ言論又ハ文章ヲ以テ政治ノ改革ヲ圖ルヘキモノナレハ顛覆ノ文義穩ナラスト云ヒ或ハ自由ノ公敵タル憲制政府ヲト書キ

内亂ニ關スル罪

來レハ顛覆ト文字ヲ置カサレハ文勢甚拙ナシ何ソ干戈ヲ執ルノミニ止マランヤト云フ者アリ彼是論シヨルモ終ニ之ヲ清書スルニ際シ改革ト記セシヤニ思存スレハ確ト覺ヘス其清書前ニハ政府ヲ顛覆トノ文字ハアリタリト答ヘタリ

花香港次郎ハ明治十六年三月二日本院豫審廷ニ於テノ答ニ政府ヲ顛覆スルノ二字ナリ之ヲ起草スル所ハ其意味ナリシモ各調印スル時ニ右顛覆ノ二字ヲ改良ニ改ムルヲ良シトス
トノ説之アリ其説ハ顛覆トハ唯ヒツクリカヘスト云而已ノ意味ニテ面白カラズ顛覆シ尙之ヲ改良スルト云意味ニスル方好シトノ謂ニ右ヲ改良ト致シタリト今日ニ至テ者ハ付キタリト陳述シ又タ改良トハ顛覆シタル後之ヲ改良スルノ意ナルカトノ問ニ對シ左様其通ニ相違無之候ト答ヘタリ平島松尾ハ明治十六年四月四日本院豫審廷ニ於テ自分ニ於テ平生ノ志ス所壓制政府ヲ改良スルニアルヲ以テ彼第一條モ壓制政府ヲ改良云々トアリシト肥體致候得其實ハ自分ニ於テ彼誓約書ノ成立ツ時ニハ其協議ニ加ハラズ他行不在中ニシテ爾後廿日計モ後ニ在テ河埜廣中ヨリ示サレ同盟シタル儀ニシテ誓約書記載スル處ノ字句等ハ自分其協議ニ加ハラサルヲ以テ猶更今日ニ於テ遺忘致シタル儀ニシテ素ヨリ改

良ト書スルモ顛覆ト書スルモ同意味ニシテ到底改良ヲ要スルニハ顛覆セサル可カラズ顛覆セハ改良セサル可カラスト陳述セリ

澤田清之輔ハ明治十六年五月三十日本院下調廷ニ於テ明治十五年ノ七八月中無名館ニ於テ河野等ト血判盟約シタルヲアリヤトノ問ニ對シ八月三十日ニ於テ約束シタルヲアリト答ヘ又タ其場所ハ如何トノ問ニ對シ福島町字南裏通二ノ十五番地ニ福島自由新聞ノ設ケアル所ナリト答ヘ又タ今ノ番地ハ無名館ト稱スル所カトノ問ニ對シ然リ舊名六軒町ニテ今ハ字南通二ト申所ナリト答ヘ又タ同席シタル人名ハトノ問ニ對シ余ハ其ノ時新聞社ノ一ニテ起居勿劇ノ際ナリシヲ以テ誰々ナリトハ判然記憶セス田村埜花香河野ノ三氏ハ居タリト覺ユト答ヘタリ

右ニ列舉セバ証憑中死ヲ以テ誓フ自刃セシム斬ニ處ス死ヲ以テ決行ス等ノ記憶ノ書取リ及連署ノ外ハ漸次説遊ニ加盟血判セシムル申合ナリトノ供述改良ヲ要スルニハ顛覆セサルヘカラス顛覆セハ改良セサルヘカラストノ供述顛覆シ尙之ヲ改良スルト云フ意味ニスル方好シトノ謂ニシテ右ヲ改良ト致シタリトノ供述改良トハ顛覆シタル後之ヲ改良スル意カトノ

内亂ニ關スル罪

問ニ對シ左様ト答ヘ政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ罪カトノ問ニ對シ然リト答ヘシ等ノ模様ヲ以テ之ヲ証憑ノ全部ニ照スニ初告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判定ス可キノ証憑充分ナリトス

而シテ被告人等ハ結盟セシ血判ノ誓約書ハ既ニ取消シタリト申立ツレモ相立タス何レトナレハ其取消タルノ証憑ナキヲ以テナリ又誓約書記廳ノ書取リニハ政府ヲ顛覆スルトノ文字アリシモ誓約書ノ原書ニハ添紙ヲ以改良ノ文字ニ改正シ置キタリト申立レモ相立タス何レトナレハ後ノ添紙ヲ以テ既ニ血判セシ誓約書ヲ改良セシト申立ハ相立タサルヲ以テナリ又誓約書記廳ノ書取リニ政府ヲ顛覆スルトノ文字アルハ言論文章ヲ以テスルノ顛覆ニシテ暴行ヲ以テスルノ顛覆ニ非スト申立レモ相立タス何レトナレハ本件即チ被告事件ノ顛覆スルト云ヘル事實ハ上文ニ掲ケシ証憑ニ據リ暴行ヲ以テスルノ顛覆ナリト判定スルニ充分ナルヲ以テナリ又顛覆下ハ内亂ヲ爲スノ目的ニ止リ内亂則チ暴行ヲ爲スヲ陰謀セシトナリシト申立レモ相立タス何レトナレハ誓約書記廳ノ書取リニ政府ヲ顛覆シト記載シ又ハ死ヲ以テ決行スト記載シ又政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リト答ヘタル等ニ據

レハ内亂即チ暴行ヲ爲スヲ陰謀セシトハ不當ノ陳述ナルヲ以テナリ又盟約書記廳ノ書取リニ政府ヲ顛覆スルトノ文字アルハ外國政府ヲ指シタル者ニシテ我政府ヲ指シタルモノニ非スト申立レモ相立タス何レトナレハ本件即チ被告事件ニ云フ所ノ政府ハ上文ニ掲ケシ証憑ニ據リ我カ政府ヲ指シタルヲ明瞭ナルヲ以テナリ

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第二百一十一條ニ曰ク 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト

爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス
- 二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
- 三 兵器金錢ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
- 四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

内亂ニ關スル罪

下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第二百五條ニ曰ク 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未ダ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

刑法第四百四條ニ曰ク 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆止犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

刑法第六十八條ニ曰ク 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人河野廣中田母登秀顯愛澤寧堅平嶋松尾花香恭次
與澤田清之輔ニ對シ刑法第二百五條第二項ニ據リ刑法第百廿一條第一項ノ例ニ照シ二等

ヲ減シ各有期流刑ニ處ス可キ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕
罪違警罪ヲ分メス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得刑法第九十條ニ
酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス。アルニ依リ各有期流刑ニ二等ヲ減シ刑法
第二十三條輕禁獄六年以上八年以下ノ範圍内ニ於テ河野廣中ハ輕禁獄七年田母登秀顯愛澤
寧堅平嶋松尾花香恭次與澤田清之輔ハ各輕禁獄六年ニ處スル者也

明治十六年九月一日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊驥檢事竹内正忠檢事堀田正忠檢事澄

川拙三立會宣告ス

高等法院裁判長

判事

玉乃 世 履

高等法院陪席裁判官

元老院議官

長岡 護 美

高等法院陪席裁判官

元老院議官

河田 景 與

高等法院陪席裁判官

元老院議官

林 友 幸

高等法院陪席裁判官

判事

岡内 重 俊

高等法院陪席裁判官

判事

關 義 臣

内亂ニ關スル罪

高等法院陪席裁判官

判 事

武久 昌孚

高等法院書記

大審院書記

竹端 道忠

高等法院書記

大審院書記

荒木 龍兆

△國事犯豫備ノ件

赤井 景韶

右被告人ハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ諸省ノ卿以上ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタリトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人ノ答辯辯護人ノ辨論ヲ聽キ被告人ノ白狀及證據書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スルコト左ノ如シ

判 決

右被告人ハ現今ノ施政自己ノ意ニ適セサルハ要路ノ顯宦カ 天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スルニ由ルト思ヒ込ニ是非諸省ノ卿以上ヲ斬殺セント決心シ明治十五年十一月中新瀉縣下越後國高田町高田屋ニ於テ井上平三郎風間安太郎ト相會セシ時右兩人ハ對シテ分決心ノ深奥ハ之ヲ明カス唯要路ノ顯宦ニハ必ス 天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スル者アルヘキニ付東京

ノ上之ヲ探察シ之ヲ除カント申聞ケ出京旅費ノ爲替ヲ取直シ明治十五年十一月八日ヨリ右兩人ヲ誘導シ高田ヲ發シ迂路ヲ取り新瀉縣下新瀉マテ到リタル處他人ノ爲メニ過メラレシハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ要路ノ顯宦ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタル者ト判定ス其證據ハ左ニ之ヲ明示ス

被告人赤井景韶ハ明治十六年四月十五日新瀉縣裁判所高田支廳ニ於テ檢察官カ法ニハ法ノ推測アリ辯官ニハ辯官ノ推測アリ今汝ノ如ク唯々知ラス然ラスト云ヘハ何レモ認定推測ヲ用カルヲ得ス却テ汝ノ不利益ヲナスヤトノ問ニ對シ唯今迄我答ヘタル處ハ全ク事實ニ違ヒタル爲ニテ其偽ヲ申立テシハ我一身ヲ惜ムノ爲メニアラス先ニモ申タル如ク今般捕縛セラレタル我黨員二十余名ノ安危ニモ關スル處ナリト思ヒ我精神ニ愧ルヲモ願ヒス申タレモ今ヨリ更ニ事實ヲ申立ツヘシ初ヨリ訊問相成度シト答ヘ然ラハ更ニ初メヨリ訊問ニ及フノ間高田屋ニ於テ議シタル事ヨリ申立ツヘシトノ言ニ對シ高田屋ニ於テ議シタル事ハ其精神ハ天誅當旨意書ニアリ然レモ今ハ之ヲ放棄シタリト答ヘ放棄シタルハ如何ナル事トノ問ニ對シ一旦旨意書ノ意ニ由テ相決シ之ヲ學メト謀内亂ニ關スル罪

リ新瀛ニ出タル迄ニテ其道ヲ新瀛ニ取リシハ三國ヲ越ヘ人ヲシテ跡ヲ知ラシメサル意ナリ然レニ船中山際七司ニ逢ヒ共ニ社會平權論ノ意ヲ講シ新瀛ニ着シタルニ自分等着スルヤ否直ニ鈴木昌司來レリ之ハ先キニ我門郷里ヲ出ルノ際ピストル等ヲ携タルト當時熱血ヲ以テセサレハ自由ヲ得ル能ハス寧ロ不自由ニシテ生存センヨリモ死シテ犧牲トナルニ如カスト唱ヘ且自由黨ヲ脱スルト云ヒタル等ヨリ繁祉等ニ於テ自分等ノ學勤ヲ察シタルモノト見ヘ電報ヲ以テ鈴木昌司ヘ通知アリタル由ナリ昌司ハ其事ハ語ラス七司ヨリ自分等ノ新瀛ニ出タルヲ聞キタル趣ニテ來リ次テ小柳卯三郎加藤勝彌其他常置委員等出來リ自分等ノ學ヲ謀ルニ暇アラシメヌ由テ翌日住吉屋ニ轉宿シタルモ尙又尋テ來應答日ヲ送ルノ内今村致和相羽嘉尙迎ヒトシテ來リ終ニ昌司致和加藤勝彌等自分等ヲ伴樂館ニ階ニ伴ヒ説論セシチ以テ尙我志ハ我爲ス處ニアリト申居リタルモ其内覺ル所モアリ終ニ先キノ志ヲ放棄シ歸郷致シタルナリト答ヘ先キニ一旦天誅黨ノ主意ヲ行ハント決シタルモ大臣參議ノ内誰々ヲ暗殺スヘクト目的ヲ定メタルナリシカトノ問ニ對シ目的ハ不殘斬ルノ意ナリシナリ天誅黨主意者等ハ平三郎等ニモ示サ、レハ彼

等ハ知ラサルナリ唯其主意ヲ協議セシニテ書面ハ自分寢處ノ内ニテ認メ試ミタル迄ナリト答ヘ新瀛ニ出ル時ニ當テハ一旦東京ニ出決行スルノ意ハ決シタルカトノ問ニ對シ然リ決シタル也併シ未ダ手段ハ議セカリシナリ尙其事ヲ行ハント決心シタルハ自分秘ニ怨等アルコトアラス全ク國家ノ爲メナリト存シ込ミシヨリ出タル事ニテ他人ノ激唆等ニ出タルコトモ非サルナリト答ヘヨリ又明治十六年四月十八日新瀛輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨年十二月九日後新瀛表ヘ立チ越シタルコトアルカトノ問ニ對シ參リタルコト之レアリ候ト答ヘ右ハ何日出發セシヤトノ問ニ對シ十二月九日ニ當地ヲ出發シ同夜黒井宿ニ泊シ翌十日ニ青海川宿片岡ト申旅店ニ泊シ其翌十一日ニハ長岡ニ泊シ同十二日蒸氣船ニテ新瀛ニ着同所ニ番町秋田屋ト云フ處ニ一泊シ翌日住吉屋ニ移轉シ二日滯留シ同十六日新瀛ヲ發足シ同夜ハ新瀛ヨリ一里半計ノ處ニ泊シ其翌日ハ寺泊ニ宿シ夫ヨリ柏崎ニ泊シ全十九日當高田表ニ着シタルト答ヘ其方一人ニテ行キタルヤトノ問ニ對シ三人ニテ行キタルト答ヘ夫レハ誰々ナルヤトノ問ニ對シ井上平三郎風間安太郎自分ノ三人ナリト答ヘ三人ニテ新瀛ニ行キタルハ何等ノ主義ニテ行キタルヤ内亂ニ關スル罪

トノ間ニ對シ政治ノ改良ヲ圖ル爲メ參リタリ尤モ單ニ新黨ニ行キタルニ非ラス東京ニ
 行ク積リニテ新黨ニ立テ寄リタル譯ナリト答ヘ三人ニテ偶然行キタルカ又ハ何ニカ議
 決シ行キタルカトノ問ニ對シ別ニ斷決シタルコトナシ然レモ高田町ノ町田屋ト云フ旅籠
 屋ニテ三人ニテ酒ヲ酌ミシコアリ其時日ハ明治十五年十一月四日頃ト覺ヘタリ而シテ
 々政治ノ談コ直ニ供ニ慷慨シ政治ノ改良セサル可カラサルコト思ヒ付キ來ル井日頃
 期シ東京ニ出テ供ニ事ヲ圖ルト約シ其場ハ別レタリト答ヘ改良トハ如何トノ問ニ對シ
 自分ハ其常時ニアリテ時勢上ニ感慨ヲ起シタルコトアリ其感慨タルヤ抑モ吾カ 天皇陛
 下カ明治ノ初年ヨリ立憲政體ヲ立ルノ 詔アリ然ルニ立憲政體カ立タヌ人民カ益々苦
 痛ノ域ニ陷ユルト想像シテ之ヲ平三郎安太郎等ニ發言セシ處右兩人モ素ヨリ全感ナリ
 ト云フテ供ニ當時ノ政治ヲ改良センコト思ヒ付キ前キノ如ク東京ニ出ルコトニ約シタリ
 ト答ヘ東京ニ出ルニ殊更ニ新黨ニ行キタルハ如何トノ問ニ對シ三國街道ヲ經テ行カン
 ト存シ新黨ニ出テタリ其主義ハ風間安太郎ヲ同人ノ宅ヨリ迎ヒニ參リ居ル場有ナレハ
 信州路ハ本道ニ付キ安太郎ノ追手ノ來ランコト恐レ且ツ政治ノ改良ヲ圖ル爲メニ出京

スルコトナレハ其事ノ成ラサル以前ニアリテ發覺スルコト恐レテ間道ヲ撰ミタリ又東京
 ハノ爲極高滿數シタルヲ以テ東京ハ爲換テ組ムコト相成ヲサルニ付新黨ニ爲換致シ吳
 ルトノ事ニ付新黨ニ出テタリ右ハ誰ノ發言ト云フ譯ニ非スシテ三人同感ニ依テ決セ
 シモノナリ此時日ハ十一月九日即チ發足ノ當日ナリト答ヘタリ是コ於テ此ノ二枚ノ草
 案ハ誰レノ起草ニアルヤト問ヒ天誅黨旨意書及ヒ天誅黨盟約規則ト記シタル草案ヲ示
 シタリ其文左ノ如シ

天誅黨旨意書

世運衰頹シ人情輕薄ニ流レ國勢日ニ危殆ニ趣キ義理地ヲ拂フ實ニ痛哭流涕ノ至リ矣奸
 人佞物要路ニ塞リ其怨ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレントス吾人ハ將
 ニ臣妾ヲラントスル應ニ近キニアル可シ也故ニ吾人ハ天誅黨ヲ組織シ天ニ交代リ奸人
 佞物ヲ拂ヒ世運ヲ回シ人情ヲ敦厚ニシ國勢ヲ挽回シ義理ヲ重シ吾國家ヲ永遠ニ維持
 センコト謀ル幸ニ同志ノ士ハ來リ與セヨ焉

吾黨ハ前陳ノ旨意ニ因リ茲ニ牛耳ヲ執リ盤血ヲ飲リ左條項ヲ誓フ

内亂ニ關スル罪

天誅黨盟約規則

盟約第一章

同第二章
苟モ吾國家ニ不爲メモノアル時ハ吾人ハ踵ヲ回カス天ニ代交リ之ヲ誅討スルコトス

吾黨ハ義理ヲ重ス故ニ義理ノ爲メニハ身ヲ致スコトヲ誓フ

吾黨ノ人ハ吾黨全体ノ議決ニ依リテハ何等事故アリ其之レカ實行ヲ辭セサルコト

第一條

吾黨ハ何人ナリ其前書盟約ヲ守ルコトヲ得ルモノハ黨員三各以上ノ紹介ヲ以テ黨長ニ申込可シ黨長ハ惣黨員ノ是トスルヲ待テ入黨ヲ許スコトアルヘシ

第二條

吾黨ハ定期會ヲ置カス事アル時ハ臨時會同キ爲ス故月幾度ナルヲモ願ミサルモノトス

第三條

吾黨ハ前條ノ如キ場合ヲ保ツ故ニ多額ノ入費ヲ要セス依テ月々五十錢ヲ黨ニ納ムルモノトス

ノトス

第四條

吾黨ニ黨長三名ヲ置キ黨事一切之レヲ理セシムル者也

此二枚ハ自分カ起草セシ者ニテ右ハ昨年十月末十一月初メニ當リテ時勢感慨ノ餘リ此ノ案ヲ起シヨリト答ヘ然レハ新黨ニ行キ夫ヨリ東京ニ趣カントスル決意モ此ノ草案ニ因縁シタル者歟トノ問ニ對シ此ノ旨意書ノ通り感慨ノ餘政治ノ改良ヲ爲サント思ヒ起シタル譯ナリ尤モ盟約規則ト題スル草案ハ直チニ此レヲ履行スルノ意匠ニハ之ナク候右ハ試ミニ寢床ノ中ニテ認メタリ但シ他人ニ示シタルコトハ更ニ之ナク候ト答ヘタリ又々明治十六年四月十九日新黨輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨日ノ新聞ニ高田町ノ町田屋ニテ平三郎安太郎等ノ三人ニテ酒宴中時勢ヲ慷慨シ政治ノ改良ヲ圖ラサルヲ得スト三人同感ナリシヲ以テ其事ニ決シタリト申立タルカ改良トアレハ不良ノ政治アル譯ナルヤトノ問ニ對シ昨日申立タル通り 天皇陛下ニ於テハ明治ノ初年ヨリ立憲政体ヲ立ツルノ 詔アリタルモ未タ其立憲政体ヲ立テラレサル者ハ必ス要路ニ内亂ニ關スル罪

アル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ之ヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖ラン
ト欲シタリト答ヘ然ラハ之レヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖ルト云フ者ハ前キニ檢察官ノ訊
問ニ町田屋ニ於テ議シタル其精神ハ天誅黨主意書ニアリト答ヒアリ然ラハ其要路ニア
ル大臣參議ヲ誅伐スルニアルカトノ問ニ對シ然而シテ之ヲ銃殺或ハ暗殺等爲スノ手
續ニ於テハ該時ニアリテ決議セカリシナリト答ヘ其方ハ昨日町田屋ニ於テ三期ヒス
シテ同意ナリシ故東京ニ出ルコトニ決シタル迄ニシテ別ニ議決シタルコトナシト申立タル
カ檢察官訊問ノ節議シタル精神ハ天誅黨主意書ニアリト云ヒ然レハ天誅黨ノ主意ヲ議
シタルニハ非ラスヤトノ問ニ對シ天誅黨主意書ノ意ヲ以テ議シタルニ相違ナシ然レモ
此ノ主意書ハ自分一己ノ草案ニシテ平三郎安太郎等へ一覽爲致タルコトハ決シテ之ナク
候但シ天ニ代リ誅スルト云フコトハ自分ニ於テ一言モ發シ申サス唯其意ヲ以テ相議シ
タル義ニ之レアリ候ト答ヘ其方ハ奸賊ノ要路ニ塞ルトカ申立ツルカ又此ノ天誅黨主意
書中ニモ奸人佞物要路ニ塞リ其慾ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレント
ス云々トアルカ其要路ニ塞リ慾ヲ逞フシ私利ヲ營ムト云フ者ハ唯々ナリシヤ又々此ノ

末文ニ牛耳ヲ取り盤血ヲ飲リ云々トアルカ此語ハ則チ盟主トノ意ナルヤトノ問ニ對シ
自分ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各省ノ卿以上ノ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナ
リト思フヨリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント決シタル議ニテ當時誰レ彼レト區別ヲナシ
タル者ニ之レナク故素ヨリ人名ヲ今日ニ到リ理ヲ以テ推問ヲ受クルトモ總テ奸物ト
想像シタルコトニ付皆之レヲ除カント云フノ外ナシ尙牛耳ヲ取り盤血ヲ飲ル云々ノコトハ別
ニ盟主トナリ誓フト云フ意ニ非スシテ唯天地神明ニ誓フト云フ意ニテ認メタル迄ナリ
ト答ヘ此ノ天誅黨主意書ノ末文ニ來二月中旬チ期シ云々トアルカ此ノ二月中旬ハ本年
ノ一月ヨリ指シタル者ニ非ラスヤトノ問ニ對シ否然ラス本年ニ到リ認メタル者ニハ決
シテ之レナク昨日申立タル通り昨十五年十月末カ十二月初メニ當リ認メタル者ニ相違
之レナク候ト答ヘヨリ

又々明治十六年九月十四日高等法院檢審廷ニ於テ其方ハ高田支聽ニ於テ一度ニ度ナラ
ス町田屋ニ於テハ諸省ノ卿以上ヲ斬殺スル等ノ事ヲ談合タル旨申立タリ右ハ如何ナル
意匠ニテ申立タリヤトノ問ニ對シ夫レハ自分一己ノ思想ノミニ有之候ト答ヘヨリ

又々明治十六年十一月五日高等法院豫審廷ニ於テ前申立ニ自分ハ東京ニ出直ニ天誅ヲ
モナス様ナ精神ニテアリタリト云シカ曖昧トシテ確ト定マラス申立ナルカ明白ニ申立
ヨトノ問ニ對シ自分ハ出京ノ上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリ右直チニ
出京ノ上云々ト申立シ直ニトハ東京ニ出テスク其足ニテ天誅ヲナスト申譯ニハ無之出
京ノ上尙其用意ヲナシテ天誅ヲ行フ積ト申意ナリト答ヘタリ

右ニ列舉セシ證憑中明治ノ初年ヨリ立憲政体ヲ立ツルノ 詔アリタルモ未タ其立憲政体
ヲ立テテレサルモノハ必ス要路ニアル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ
之ヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖シト欲シタリトノ供述自分ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各
省ノ卿以上ヲ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナリト思タリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント
決シタル義ニテ當時誰レ彼レト區別ヲチシタル者ニ之レナクトノ供述自分ハ出京ノ上是
非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリトノ供述并ニ被告人ノ發言ヲ以テ井上平三郎
風間安太郎ヲ誘導シ共ニ東京ニ出ルヲ積リニテ新黨ヲ發足シ及ヒ新黨ニ爲替金ノ取組
ヲ爲セシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判定ス可

キノ證憑充分ナリトス

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第二百二十三條ニ曰 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至
ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

刑法第二百五條ニ曰 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル
者ハ第二百一一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各
二等ヲ減ス

刑法第二百一十一條ニ曰 政府ヲ顛覆シ又ハ郷土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト
爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流
刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ

内亂ニ關スル罪

處ス

四級陵ニ乗シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第六十八條ニ曰 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有期流刑

四重禁獄

五輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告ハ赤井景詔ニ對シ刑法第二百二十三條及ヒ刑法第二百二十五條第一項ニ依リ刑法第二百一十一條及ヒ刑法第六十八條ニ照シ一等ヲ減シ無期流刑ニ處ス可キ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ

本刑ニ等又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ無期流刑ニ二等ヲ減シ刑法第二十三條重禁獄九年以上七一年以下ノ範圍内ニ於テ重禁獄九年ニ處スル者也

明治十六年十二月十七日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊駿檢事武内維積檢事堀田正忠檢

事澄川三立會宣告ス

高等法院裁判長	判事	玉乃	世履
高等法院陪席裁判官	元老院議官	河田	景福
高等法院陪席裁判官	元老院議官	林	友幸
高等法院陪席裁判官	元老院議官	渡邊	清
高等法院陪席裁判官	判事	岡内	重俊
高等法院陪席裁判官	判事	關	義臣
高等法院陪席裁判官	判事	武久	昌余
高等法院書記	大審院書記	竹端	道忠
高等法院書記	大審院書記	荒木	龍兆
内亂ニ關スル罪	兇徒聚衆ノ罪		

○兇徒聚衆ノ罪

坂内代五郎

右坂内代五郎ニ對シ明治十六年二月二十三日福嶋輕罪裁判所若松支廳ニ於テ福島重罪裁判所ヲ開キ公判ノ言渡ヲナシタル要點左ノ如シ

一被告ハ若松地方車道開鑿施行上ニ付縣官郡吏ノ措置ヲ不當ナリトシ該施行ヲ妨礙セン爲
 ノ二三ノ暴徒耶麻郡中ニ現出シ頻リニ村民ヲ煽動スルニ際シ共ニ之ヲ煽動シ密々居村又
 ハ尾ノ木村ニ會合シ陽ニハ公裁ヲ仰クヲ名トシ云々寧ロ腕力ニ訴ヘ竹槍席旗ヲ以テ之ヲ
 防遏セント無知ノ衆民ヲ煽動シ其激發ニ乘シ官廳ニ喧鬧シ官吏ヲシテ其爲ス所ヲカラシ
 メンコヲ謀リタリトノ事

一毎村ニ合圖ノ太鼓又ハ番木等ヲ備テ本部即チ新合村ノ發令ヲ待チ合圖ト共ニ集合スヘ約
 ヲ結ビ置キ其後明治十五年十一月二十八日彈正原ニ集合シタル村民二千餘人夜ニ乘シ喜
 多方警察署ニ亂入シ瓦礫ヲ投ケ隔壁ヲ毀壞シ市民ヲシテ一時騷擾ニ至ラシメタルモノハ
 被告等カ所爲ナリトノ事

一被告ハ身現場ニアラサルノミナラス其騷擾以前縛ニ付キタルモ明治十五年十一月二十八
 日暴擧ノ原因ハ其當日ニアラスシテ被告等ノ企圖ニ出タルモノナルヤ明瞭ナリトノ事

一其証憑ハ其犯人等ノ供述其他本部即チ赤城平六宅ニ於テ押収シタル刀鎗及ヒ太鼓等ニ據
 リ充分ナリトノ事

一之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百七條兇徒多衆ヲ囂集シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ
 村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處トアルニ該ルモノトシ
 仍ホ刑法第八十九條第九十條ニ依リ本刑重懲役ニ一等ヲ減シ七年ノ輕懲役ニ處スル旨ヲ
 言渡シタル事

被告人上告ノ要點ハ左ノ如シ

一若松地方車道開鑿施行上不服事件ニ付山口千代作等カ發議ニ依リ共ニ出訴セントシタル
 際河沼郡書記兩名ヨリ其不可ナル旨ノ説諭ヲ受ケ之ニ服從シ己ニ就役ノ受書ヲ呈出シタ
 ルコトハ仁科柴山岡郡書記ノ始末書ニテ明瞭ナルニ車道開鑿ヲ妨礙セント謀リ人民ヲ鼓動
 セシメ腕力ニ訴ヘントセシモノトノ推測ノ公判ハ服スル能ハサルトノ事

兇徒聚衆ノ罪

一其証憑ハ其犯人等ノ供述其他云々トノコナレモ其犯人トハ如何ナル人ナリヤ又如何ナ
 ル言ヲ爲セシヤ被告ハ關知セサル處ナリ云々又合圖ノ太鼓番木等ヲ備ヘ云々トアレモ
 會津地方ノ慣習ニシテ奮一村毎ニ在ラサルナリ里正御用ニ際シ村民ヲ呼フノ便ニ供セシ
 モノニ或ハ太鼓ハ必スアルナキモ其村ノ多ク祭禮ニ用ヒ來レルモノ合圖ノ用ニ設ケシモノ
 ニ非カレトモナラス現ニ村民ヲ集合セシコト又元來是等ノ陰謀モナキトノ事
 一法ニ因リ證人喚問ヲ請求セシモ裁判長ノ職權ニ依リ採容セカリシトノ事
 一被告ハ明治十五年十一月二十六日ヨリ警察官ニ引致セラレ暴擧ノ當日即チ同月二十八日
 ハ拘留中ノ身分ヨシテ右暴擧ニ關與セサルハ勿論又赤城平六宅ニ一處モ參集シタルコトモ
 無之云々トノ事

一以上ノ實事ナルニ刑法第三百三十七條ヲ適用シ處斷セラレシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトノ事
 大審院ニ於テ明治十六年五月二十三日公廷ヲ開ク專任判事報告書ヲ朗讀ス上告代言人伊藤
 修上告ノ旨意ヲ申暢ス立會檢事意見ヲ陳述シ且附帶ノ上告ヲ爲セリ茲ニ裁判スルノ理由ハ
 凡ソ証憑ヲ採擇シテ罪ノ有無ヲ判定スルハ事實裁判官ノ權内ナリト雖モ若シ錯誤ヨリ成立

タル事實ニ其理由ノ明確ナラサルニ於テハ法律ノ許カヘル所ナリ抑モ本件ノ如キ被告カ
 車道開鑿施行上ニ付縣官郡吏ノ措置ヲ不當ナリトシ公裁ヲ仰クチ名トシ果シテ耶麻其他諸
 郡ノ村民ヲ煽動シ明治十五年十一月二十八日喜多方警察署ニ對シ喧鬧スルニ至ラシメタル
 モノト爲スニハ其之ヲ煽動シタル事實ノ理由ヲ明示セカレ可カラス其毎村ニアリシ太鼓番
 木及ヒ赤城平六宅ニテ押収セシ刀鎗及ヒ太鼓等ヲ以テ多衆ヲ嘯聚セシ証據ト爲スニハ明治
 十五年十一月二十六日ニアリテ既ニ逮捕セラレタル被告カ其逮捕中則チ十一月二十八日ヨ
 於テ如何ナル手段方法ヲ以テ其太鼓番木及ヒ刀鎗等ヲ使用セシカ抑モ他人ヲシテ之ヲ使用
 セシタ以テ村民ヲ集合喧鬧セシメタルヤノ實跡ヲ擧ケサルヲ得ス右等事實ノ理由ヲ明擧ス
 ルニアラサレハ右物件ハ被告カ所爲ニ相關スルノ証憑トナスニ由ナシ又原判文ニ共犯人等
 ノ供述トアルモ何人カ何等ノ陳述ナレヤ原一件書類ニ視ルニ被告カ車道開鑿施行上ニ附縣
 官郡吏ノ措置ニ服セス現ニ其筋ノ裁判ヲ仰クヘシトノ周施ヲ爲セシ廉アルモ他ニ被告カ犯
 罪ノ証憑トナルモノ一モ見ルヘキ者ナシ又原判文法律ノ部内ニ於テ(首魁及ヒ教唆者ハ重
 懲役ニ處ストアルニ該ルモノトス)ト掲ケタル迄ニシテ被告ハ果シテ首魁ナリシヤ教唆者

ナリシヤ是亦其理由ヲ知ル可キナシ要スルニ原裁判ハ本案ニ付事實ノ理由及ヒ法律ノ理由ヲ付セザル已而ナラス被告ヲ有罪トシ輒々刑法第三百三十七條第八十九條第九十條ニ照シ輕懲役七年ニ處スト言渡シタルハ事實ノ齟齬則テ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ニ據リ原裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

判決

前理由ノ如ク坂内代五郎ハ犯罪ノ徵憑ナキニヨリ治罪法第四百一條ニ照シ無罪處ニ放免ス
大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十六年五月廿四日

- 裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 關 義 臣
- 判事 武久 昌孚 同 昌谷 千里
- 同 黒岩 直方 書記 篠原 安津志
- 坂内 米太郎

明治十六年三月十六日福島縣裁判所若松支廳ニ於テ石坂内米太郎カ被告事件ヲ審判シ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シテ宇田成一ノ拘留セラレタル事由ヲ尋ヌル等ヲ以實情シ喜多方警察署ヘ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ多衆ノ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタルモノトシ刑法第三百三十七條及ヒ同第六十九條ニ依リ重禁錮三年六月ニ處シタリ
被告人阪内米太郎ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其上告ノ要旨ハ被告ハ赤城平六瓜生直七トハ曾テ一面識モナキモノニシテ右兩名カ村民嘯聚事件ノ有無其ニ關係セザルモノナリ抑モ喜多方地方ノ暴動ハ明治十五年十一月二十八日ニシテ被告ハ其以前拘留セラレ該暴動當日ハ現ニ若松警察署留置場ニ拘留中ノ身分ニシテ是則其干與セザルノ確証タリ又當時拘引中ナル被告ニ於テ共犯人ノアルヘキ理由ナシ左スレハ共犯人ノ供述トハ全ク裁判官カ皮相ノ認定ナルヤ明カナリ又陳述トハ被告カ公廷上ノ辨論ヲ指シタルモノカ果シテ然ラハ被告ハ公廷ニ於テハ公判ヲ謝絶スルノ外他ニ吐露シタルコトナシ其證據物件ノ如キ被告ニ對シ一物タモ明示セザレハ之ヲ知ルニ由ナシ夫如斯事實ニ於テ齟齬アルモノナリ又被告ハ明治十六年二月十五日附テ以テ本案ハ嫌疑アルヲ以テ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタルニ同月十六

日公判ヲ開キ該訴ハ未タ送達ナシトシ直ニ公判ヲ爲シタリ抑モ治罪法第四百五十六條末項ノ規則ニ書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ云々トアリテ嫌疑ノ如キハ最モ裁判上重入ノ關係アルカ故ニ其訴訟手續ヲ停止ス可キモノナルニ書記ニ於テ二日內ノ時間ヲ等閑ニ附スルノ理由ナカレ可シ姑ク之アリトスルモ其公判ヲ拒ミタル上ハ訴訟ノ手續ヲ停止セザル可カラズ然レニ強テ公判ヲ爲シタルハ即チ越權ノ處斷ナリトス又前條ノ如ク壓抑ヲ以テ公判ヲ開カレタルカ故ニ被告ニ於テ一ノ辯護ヲ爲カシリシニ判決セラレタルハ即チ治罪法第三百條同第三百五十二條ノ規則ニ背反シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

福嶋輕罪裁判所若松支廳檢事補加藤秀男ハ該暴舉ノ際被告ハ喜多方地方へ往カカリシコトハ被告人陳述ノ如シト雖モ其暴舉ノ前ニ於テ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケ其結果ヲ全クシタルモノナリトノ認定裁判ヲ與ヘラレタルモノナレハ警察署ニ喧鬧ノ際其場ニ居ラカルチ口實トナシ該裁判ヲ不當トナスヲ得ス又被告人カ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタリト云フモ被告人ハ公廷ニ於テ異議ナク辯論ナシタル後其訴ヲナシタル旨申立ルノミナラス其訴アリシチ知ラザリシナリ然レハ事實裁判官ノ判決ハ憲モ法律ニ背犯シタルニアラス適法ノ

裁判ナルヲ以テ如此上告ハ速ニ棄却セララルヘキモノトノ旨趣ニ在リ明治十六年五月廿五日大審院ニ於テ公判ヲ開キ專任判事ノ報告書ニ據リ代官人大井憲太郎ノ陳述ヲ聽キ而シテ臨席檢事ノ意見及ヒ附帶上告ノ趣旨ヲ聽キ判決スル理由ハ被告阪内米太郎ニ於テ本訴ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタルニ原裁判所カ其手續ヲ盡サスシテ本訴ノ裁判ヲ爲シタルハ不法ナリト云フト雖モ公判始末書被告ノ答ヘニ「喜多方へ臨ミタルコト毫モ之ナキヲ以テ無論此度ノ事件ニハ干與セサルナリ訴訟事件ノ委任狀ハ居村人民ヨリ取圖メタルコトアリタルモ暴動事件ノ事ハ予ハ加ハリタル者ニアラス節略」トアリテ已ニ公判ノ裁判ニ係ル管轄ヲ爲シタルヲ觀レハ原裁判所ノ裁判ヲ受クルコト肯諾シ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴ハ放棄シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ管轄ヲ移スノ訴ニ係ル上告ハ相立サルモノトス又本訴被告事件ヲ審接スルニ被告ハ喜多方警察署暴舉以前則チ明治十五年十一月廿六日警察署へ拘留セラレ暴舉ノ當時ニ在テハ已ニ拘留中ノ身分ナレハ喜多方警察署へ喧鬧ス可キ由ナシ又被告ハ拘留以前ニ在テ車道開鑿事件ニ付出訴ノ事ニ關係シタルハ明ナリト雖モ暴動ノ囂聚ニ應シ人民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタル等ノ憑據ナシ原判文ニ「汝ノ舉動共犯人ノ供述相

當官吏ノ調書及陳述其他ノ証據物件云々トアルモ汝ノ舉動トハ如何ナル舉動ヲ云フカ其
 犯人ノ供述トハ何人カ如何ナル供述ヲ爲シタルカ相當官吏ノ調書及ヒ陳述其他証據物件ト
 ハ何等ノ事項何等ノ証據物件ニシテ被告事件ノ証憑ト爲スニ足ルヤ否ヤ一件書類中觀ル可
 キノ應ナシ則チ被告カ罪証充分ナラサルモノトス隨テ刑ヲ適用スルニ由ナキモノナルニ原
 裁判所カ被告ヲ有罪トシ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ首渡ナリトス仍テ治罪
 法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原因アルモノニ付同第四百二十八條第四百二十九條
 ニ據リ原言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル如左

判決

前又ノ理由ナルニ據リ阪内米太郎カ被告事件ハ犯罪ノ証憑十分ナラス治罪法第三百五十八
 條ニ據リ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事武内維積立會宣告ス

明治十六年五月廿五日

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 武久 昌孚

判事 關 義 臣 同 昌谷 千里
 同 黒岩 直方 書記 上田 廣 照
 菅井 千代吉

明治十六年二月九日福島縣裁判所若松支廳ニ於テ被告千代吉ハ赤城平六瓜生直七等カ多
 衆村民ヲ嘯聚シ喜多方警察署ニ喧鬧スルニ際シ戸長ノ職ニ在リナカテ特別委員ノ任ニ當リ
 多衆ノ人民ヲ煽動シ毎戸一人宛喜多方ニ出スヘキ旨小走リヲシテ村内ニ報道シタルモノニ
 シ即チ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ナリトシ刑法第三百三十七條同法第六十九條ニ依リ重禁錮
 四年六月ニ處斷シタリ被告ハ之ヲ不法ナリトシ上告セリ其要領被告ハ明治十五年十一月二
 十八日ハ白村ニ居ラサルヲ以テ喜多方警察署ニ喧鬧シタル事柄ヲ知ラサルノミナラス曾テ
 是等ノ事ニ與リタルヲナク則チ無罪ノ者ナルニモ拘ハラス被告カ請求セシ證人山口昌平田
 部平馬ヲ喚問セス且證據物件ヲ明示セシテ斯ク裁判セシハ法律ニ背反スルヲ以テ破毀ヲ
 求ムト云フニ在リ

原裁判所檢事補加藤秀男ハ原裁判ヲ適法ノ者ナリトシ之ニ答辯セリ

兇徒聚衆ノ罪

大審院ニ於テ公廷ヲ開キ專任判事報告書ヲ朗讀シ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ代言人北田正道ノ陳述ヲ聽キ判決スル理由ハ

本訴被告事件ヲ審按スルニ被告菅井千代吉ニ於テ原裁判カ被告ノ證人トシテ請求シタル山口昌平田部平馬ヲ喚問セサリシハ不法ナル旨申立レテ原書類中被告カ右兩人ノ喚問ヲ請求シタルヲ相見ヘス故ニ此證人ニ係ル上告ハ相立タル者トス又原判文ニ被告カ犯罪ノ證憑ナリトシ掲載シタル事項ハ〔被告ノ舉動共犯人五十嵐武彦猪股造酒八等ノ供述米岡村久山寺ニ於テ議定書特別規約書宇田成一ヨリ被告及ヒ外五名ニ宛タル八月十四日付書面相管官吏ノ調書或ハ陳述其他現場及本部ニ於テ差押ヘタル證據物件〕トアリ然ルニ一件書類中被告カ舉動ニ於テ一モ犯罪ト觀ルヘキ處ナシ又共犯人ノ供述トアルモ一件書類ニ載セザルニヨリ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ豫審掛リノ訊問中十一月廿八日ニ在テ喜多方町ヘ一同立越スヘキ旨汝等ヨリ相當ノ人ヲシテ村民ヘ通知セシコトハ己ニ共犯者ナル猪股造酒八ノ陳述ニ依ルモ實ニ明白ナリトアルヲ以テ觀レハ蓋シ造酒八ニ於テ此ノ如キ陳述ヲ爲シタル者ナラソ然レモ警察官カ本宮村旅店高橋直作ノ宿帳ヲ取調ヘタル處ニ據レハ其當時被告ハ在村セカ

リシト明ナリ又議定書特別規約書ニ於ルモ一件書類ニ載セザレハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ豫審掛リノ訊問及ヒ被告ノ答ヘニ據テ見レハ車道閉塞出訴事件ニ係ル約定タルニ過キス又宇田成一ヨリ被告及ヒ外五名ニ宛タル書面ハ車道閉塞ニ付地方人民ヲ蔑視スルニ依リ憤發アリ慶言申送りタルモ如何ナル調書陳述ノ關係ヲ指シ被告事件ノ憑據ト爲スカ現場及ヒ本部ニ於テ差押ヘタル證據物件トハ何等ノ證據物件ナルヤ一件書類中絶テ見ルヘキモノナシ然ラハ則チ被告ハ罪ト爲ルヘキ所爲ナク隨テ刑ヲ適用スルニ由ナキ者ナルニ原裁判所カ被告ヲ有罪トシ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原因アル者ニ付同法第四百二十八條第四百廿九條ニ據リ原言渡シテ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

判決

被告菅井千代吉ハ罪ト爲ルヘキ所爲ナキヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直チ放免ス

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

兇徒聚衆ノ罪

明治十六年五月二十八日

裁判長判事

岡内 重俊

專任判事

武久 昌季

判事

岡 義臣

判事

昌谷 千里

判事

黒岩 直方

書記

上田 庸熙

小嶋 忠八

明治十六年二月九日福島輕罪裁判所若松支廳會議局ニ於テ右小島忠八ヲ製造ノ量衡ヲ所有シ軍用ニ供スル銃砲ヲ私有シ及兇徒聚衆事件ニ管スル豫審終結ノ言渡ニ對スル故障一件ニ就キ爲シタル判決ニ對シ被告忠八カ上告ノ要領ハ明治十五年十一月廿八日喜多方ノ暴動ハ杉山重義カ中禪寺ニ於テ演說教唆シタルニ起因シ彈正原ニ集合シ瓜生直七ノ演說煽動シタルニ成リ喜多方警察署ニ到リタルニ終レル者ニシテ被告等カ熱心セシ道路開鑿事業ニ管スル出訴事件トハ毫モ關涉セサルモノナリ抑モ被告ハ條理ニ因リ法衡ニ訴ヘ公平ナル判定ヲ望ムモノニシテ之ヲ腕力ニ訴フルノ非ナルヲ知レハ暴動ヲ教唆セサルハ勿論一切之ニ干與シタルモノニ非ス若シ果シテ被告ヲ教唆者ナリトセハ其確證ヲ舉示セサルヘカラス然レテ豫審官ハ一モ其誣憑ヲ舉ケス單ニ自己ノ推測ヲ以テ教唆者ナリト認定シタルノミナラス被

告カ所有セシ量衡及ヒ廢鐵并木製ノ酒酌器ヲ以テ偽造ノ量變造ノ衡ヲ使用シ及ヒ軍用ノ銃砲ヲ私有シタル者ト判定セラレタルハ旁不法ノ判決ナルヲ會議局ニ於テ之ヲ認可スルノ判決ヲ下シタルハ治罪法第四百十條第九項ノ明文ニ抵觸スル不當ノ判決ナリト云フニ在リ原裁判所檢事服部明ニ於テハ原判決ハ相當ナルトノ旨趣ヲ答辦セリ

本院檢事堀田正忠ニ於テハ証憑ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ事實裁判官ノ特任スル所ナレハ其職權ヲ以テ判定シタル事實ニ定ムル格別ノ場合ヲ除ク外ハ決シテ之ヲ動カスヘカラス今本接ノ如キハ單ニ事實裁判官カ証憑ノ取捨ヲ不當ナリトスルニ過キサレハ治罪法ニ定ムル上告ノ原由ナキ者ナリ然レバ原判文ヲ按スルニ事實ノ理由ヲ敘述シテ被告ハ該事件ニ付部理ノ任ニ當リ村民ヲ教唆シ暴動ヲ爲サシメタル者ト認定ストアリ抑豫審終結ノ言渡ヲナスニハ必ス治罪法第二百二十八條ノ明文ニ從ヒ事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示セサルヘカラス然ルチ單ニ村民ヲ教唆シ云々ト掲載シタルノミニシテ其教唆ヲナシタル日時及ヒ場所方法等ヲ明示セサルハ事實ノ理由不備ナル裁判ト云ハサルヲ得ス然ルチ會議局ニ於テ之ヲ認可スルノ判決ヲ下シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ明記シタル破毀ノ原由アル者ト思量ス

ルニ付同法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ相當裁判所ニ移スノ言渡アラソ
 ヲ望ムトノ旨趣ヲ以テ附帶上告ヲナシタリ
 大審院ニ於テ公式ヲ履行シ判決スルノ理由ハ
 被告事件ノ事實ヲ認定シ犯罪ノ性質ヲ定ムルハ豫審裁判官ノ權内ナリト雖モ其ノ認定シタ
 ル事實ノ理由ト證據トハ正確ニ之ヲ明示セサルヘカラス原裁判所豫審終結ノ言渡書ヲ閱ス
 ルニ抑モ該暴舉タルヤ偶然ニ發シタルモノニアラス則チ其原因若松地方道路開鑿事業不服
 出訴事件ニシテ其實官署ニ喧鬧セシメトナ豫定シ云々被告ハ該事件ニ付部理ノ任ニ當リ村
 民ヲ數唆シ該暴動ヲ爲サシメタル者ト認定スト判決シテ被告并坂内代五郎ノ供述且押収シ
 タル證據物件ト荒尾覺造等ヲ宿泊セシメタル等ヲ以テ之レカ證據トナスト雖モ抑道路事件
 不服ノ出訴ト暴動トハ其事實ノ性質ヲ同フセサル者ナリ便チ被告カ部理ノ任ニ當リタルト
 ハ則チ訴訟事件ノ部理ニシテ暴動事件ノ部理ニアラサレハ之ヲ以テ事實ノ理由トナスヲ得
 ヘカラサル者トス而シテ又其證據ノ如キ之ヲ一件書類ニ徵スルニ被告ニ於テ更ニ村民ヲ教
 唆シ暴動ヲ爲サシメタルトノ自供ナキノミナラス坂内代五郎ニ於テ如何様ナル供述ヲ爲シ

タルヤ又其押収シタル證據物件トハ果シテ被告ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル何等ノ物件ナルヤ
 又荒尾覺造等ヲ宿泊セシメタルモ被告カ犯罪ノ證據トナルハ何故ナルヤ共ニ之ヲ明示セサ
 レハ其理由ヲ知ルニ由ナシ尙且之ヲ原書類ニ照スニ右ハ被告カ犯罪ヲ徵スルニ足ラサルモ
 ノトス況ヤ被告忠八ハ明治十五年十一月二十六日捕ニ就キ十一月二十八日暴動ノ當時ニ在
 テハ坂下警察署ニ拘留中ナル上ハ此他別ニ被告カ村民ヲ教唆シ暴動ヲ爲サシメタルトノ證
 憑ノ在ルニ非サルヨリハ不法ノ終結ナルニ既ニ原會議局ニ於テ之ヲ認可シタルハ其事實ノ
 齟齬ニ係ルモノ被告ニ對シ刑ヲ適用セントノ言渡ハ即擬律ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十條
 第十項ニ定メタル破毀ノ原由アル者ナリ又被告忠八カ現ニ軍用ニ供スル銃器及ヒ定規ヲ增
 減シタル量衡ヲ所有シタルコトハ原簿冊ヲ審閱スルニ被告ノ自認セル所ナルハ明白ナリ而
 シテ刑法第六十條ハ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥等ヲ所有シタル者ヲ處スルノ法律ナリ
 同第二百二十九條初項ハ定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有シタル者ヲ處スルノ法律ナリ則チ
 原豫審係ニ於テ右所爲ハ刑法第六十條及第二百二十九條ニ該ルヘキ犯罪ナリトシタルヲ
 原會議局ニ於テ之ヲ認可シタルハ不當ノ判決ニアラス而シテ被告カ論旨ハ治罪法第四百十

條各項ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス

右ノ理由ナルニヨリ原會議局ニ於テ小島忠八ニ言渡シタル判決ノ中兇徒聚衆事件ニ關スル部分ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ據リ更ニ裁判スル左ノ如シ

判決

福嶋輕罪裁判所若松支廳會議局ニ於テ明治十六年二月九日小島忠八ニ言渡シタル中兇徒聚衆事件ニ關スル罪アリトシ其豫審ノ終結ヲ相當ナリト認可シタル判決ノ部分ヲ破毀シ治罪法第二百二十四條ニ據リ其訴ヲ免ス

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 關 義 臣

判事 武久 昌余 判事 昌谷 千里

判事 黒岩 直方 書記 上田 庸 熙

宣告書

小島 忠八

右忠八カ兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年三月一日付テ以テ差出シタル嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ被告ニ於テ疑キニ福嶋輕罪裁判所若松支廳豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ申立同廳會議局ノ判決ニ對シ明治十六年二月十七日上告ナシ既ニ本院ニ於テ審理シ右被告事件ハ遂ニ無罪ニ歸シタリ左スレハ此管轄ヲ移スカ如キハ到底無要ニ屬スルモノトス因テ審理ノ限ニ非ス

右ノ如クナルヲ以テ小島忠八カ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ之ヲ棄却スル者也

大審院會議局ニ於テ判決ス

明治十六年五月三十日

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 關 義 臣

判事 武久 昌余 判事 昌谷 千里

判事 黒岩 直方 書記 上田 庸 熙

五十嵐 長百

右五十嵐長吉カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月十四日福嶋輕罪裁判所若松支廳ニ

兇徒聚衆ノ罪

百七

於テ裁判シヨル要旨ハ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ宇田成一ノ拘留セラレヨ
ル事由ヲ尋ル等ヲ以テ口實トシ喜多方警察署ニ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ村民ヲ煽動シ勢
ヲ助ケタル者ト確認シ刑法第百廿七條同第六十九條ニ照シ重禁錮二年半ニ處斷セリ被告長
吉ハ此裁判ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ被告ハ道路開鑿事件不服ノコトニ付キ他人ノ嘯
聚ニ應シ村民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタルコトヲ抑被告ハ明治十五年十一月廿八日眞部喜貞ヲ見
舞ハシ爲テ喜多方町ニ相越シタル處喜貞ハ既ニ若松ニ護送セラレタリト聞キ赤城平六方ニ
參リ喜貞ノ様子ヲ問合サント欲シ平六方ニ一泊セシ處豈圖ランヤ捕縛セラレタリ又若松警
察署訊問調書ニ赤城平六方ヨリ一戸一人宛集合スヘキ旨達シテ受ケ或ハ彈止原ニ出云々ト
アレモ右ハ全ク掛リ官ノ脅迫ヲ受ケ據ロナリト摺印セシ者ニ爾后之ヲ取消シタリ然ルニ原
裁判官ハ犯罪ノ確證ヲモ舉示セス當ニ被告事件ノ模様ニ據リ有罪ナルノ推測ヲ下シ刑ヲ適
用シタルハ事實ノ理由ト法律ノ理由ト相齟齬スル者ニシテ則チ擬律ノ錯誤ナリト云ニ在リ
原裁判所檢事補加藤秀男ハ原裁判ヲ適法ノモノナリト答辨セリ
大審院ニ於テ公庭ヲ開キ專任判事ノ報告ニ據リ臨席檢事ノ異見且附帶ノ上告及ヒ代言人星

享ノ陳述ヲ聽キ判定スノ理由ハ

明治十五年十二月六日被告カ摺印セル口供ニ「前略喜多方警察署ニ暴動ノ際自分ハ右ヲモ
搜ケス後ロヨリ聲ヲ揚ケ泰リタル處云々」トアルヲ觀レハ被告ハ右暴動ノ際附和隨行等ノ
所爲アルモノ・如シト雖モ原判文ニ嘯衆ニ應シ村民ヲ煽動シ勢ヲ助ケタル者ト確認スト有
テ其日時方法等必要ナル事實ノ理由ヲ明示セサレハ果シテ其理由ノ何レニ在ルヤヲ知り得
ヘカラス則チ治罪法第三百四條ノ規則ニ背反シタル不法ノ言渡シナリトス又其犯人ノ供述
現場ニ於テ差シ押ヘタル證據物件トアレモ原書類ヲ閱スルニ原裁判所カ總テ公庭ニ於テ取
リ調ヘテ爲サハル事項ヲ犯罪ノ證據ト爲シタル者ニシテ是亦越權ノ處分ナリトス仍テ原言
渡ハ治罪法第四百十條第九項第十一項ニ相當セル破毀ノ原由アルモノニ依リ同法第四百廿
八條ニ照シ原言渡ヲ破毀シ山形縣裁判所米澤支廳ニ移スニ依リ更ニ同裁判所 裁判ヲ受
クヘキ者ナリ

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十六年五月廿日

兇徒聚衆ノ罪

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 武久 昌孚
 判事 關 義 臣 判事 昌谷 千里
 判事 黒岩 直方 書記 篠原 安津志

飯田 新五郎

右飯田新五郎カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月二十日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ裁判セシ旨趣ハ（相當官吏ノ調書現場及赤城平六方ニ於テ差押ヘタル証據物件共犯人ノ供述等ニ依レハ汝（被告）ハ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ煽動シ喜多方警察署ニ喧闐シタル際現ニ其場ニ臨マサルモ其煽動ニ應シ村總代ノ任ヲ受ケ多衆ノ人民ヲ煽動シ之カ勢ヲ助ケ追テ自首シタルモノト確認ス）云々（刑法第三百七條ニ兇徒多衆ヲ煽動シテ官廳ニ喧闐シ云々煽動ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニヨリ刑法第六十九條ニ照シ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ該シ然ルニ自首ハ事已ニ發覺ノ後ニ在ルヲ以テ首減ヲ與ルノ限ニ在ラサルモ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ）云々重禁錮二年ニ處斷セリ

大審院檢事長渡邊驥ハ右裁判ヲ不法ナリトシ裁判確定後即明治十六年九月十九日非常上告ヲ爲セリ其主點ハ刑法第三百七條ニ其煽動ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者トアルハ全ク暴動ノ際其煽動ニ應シ現場ニ臨ミ多衆ノ人民ヲ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ヲ云フ故ニ事實裁判官ニ於テ現場ニ臨マサル者ト認定シタル上ハ本條ノ刑ヲ言渡スヲ得ス乃チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條ニ從ヒ非常上告ヲナシ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ明治十六年十月十五日公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ

原判文ニ被告カ犯罪ナリトシテ曰ク相當官吏ノ調書現場及赤城平六方ニ於テ差押タル証據物件共犯人ノ供述云々其目ヲ列舉シタルモ其犯罪ヲ証明スルニ足ルノ點チ一モ明示セサルハ果シ其犯罪ノ証據ト爲スニ由ナキモノトス茲ニ原書類ニ就テ被告カ事實ヲ鑑査スルニ明治十五年十一月二十八日人民多數喜多方警察署へ喧闐セシ際被告ハ其現場ニ臨マサルモノトス然レハ被告ノ所爲ハ刑法第三百七條ノ所謂其煽動ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ヲ

兇徒聚衆ノ罪

以テ論スヘキモノニ非カハ噴カナリ既ニ原裁判所カ事實ヲ承審シ被告ヲ暴動ノ現場ニ臨マ
 カルモノト認了シテカラ本條ノ法律ヲ適用シテ刑ヲ言渡シタルハ即法律上罰セサルノ所爲
 ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス抑刑法第三百三十七條ヲ適用スルニハ本條ノ首魁
 又ハ教唆者ヲ除クノ外ハ皆暴動ノ現場ニ臨ミ其勢ヲ助ケタル者ニ非サレハ之ヲ適用スルヲ
 得サルコトハ論ヲ俟セサルニ原裁判所カ被告ノ事實ニ對シ本條ノ刑ヲ言渡シ既ニ確定シタル
 ハ治罪法第四百三十五條ノ場合ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス因テ原裁判ヲ破毀シ同
 條第二項ニ依リ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク飯田新五郎被告事件ハ犯罪ノ証憑ナキノミナラス法律上罰スヘキモノニ非
 ス即治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事武内維續立會宣告ス

明治十六年十月五日

裁判長判事

岡内

重俊

專任判事

關

義

臣

判事

武久

昌孚

判事

昌谷

千里

判事

小村

壽太郎

書記

上田

庸熙

大竹 庄次右衛門

右大竹庄次右衛門カ兇徒聚衆被告事件ニ對シ明治十六年二月廿一日福島輕罪裁判所若松支
 廳ニ於テ裁判セシ頗末ハ(司法警察官及豫審掛ノ訊問ニ對スル汝(被告)カ任意ノ白狀本部
 則赤城平六方並ニ現場ニ於テ差シ押ヘタル証據物件等ニ依リ又ハ共犯人ノ陳述ヲ參照スレ
 ハ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ宇田成一等ノ拘留セラレタル事由ヲ尋ル等ヲ
 以テ口實トシ明治十五年十一月廿八日喜多方警察署へ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ特派委員
 ノ任ヲ受ケ多衆ノ人民ヲ煽動シ之ノカ勢ヲ助ケタル者ト確認ス)云々(刑法第三百三十七條
 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ云々其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處
 シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ依リ同第六十九條ニ照シ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ
 該ルヲ以テ重禁錮三年)ニ處斷セリ

大審院檢事長渡邊驥ハ右裁判ヲ不法ナリトシ裁判確定後即明治十六年九月十九日非常上告

兇徒聚衆ノ罪

ヲ爲セリ其主點ハ原裁判言渡書中庄次右衛門カ犯罪ノ証憑トシテ漫然其目ヲ舉ケタルモ一モ犯罪ヲ証明スルノ點ヲ明示セサルノミナラス一件書類ニ徴スルニ庄次右衛門ハ車道開鑿事件出訴ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタル事實アリテ更ニ暴動ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタルノ事實ナシ原言渡書ハ訴訟ト暴動ト事体ノ殊別ナルニ拘ハラス出訴ノ特派委員ヲ誤認シテ暴動ノ特派委員ト爲シ云々庄次右衛門カ所爲ハ法律ニ於テ罰スヘキ者ニ非ス因テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ裁判アルヲ請フト云フニ在リ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ理由ハ原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其証憑タル被告カ任意ノ白狀トハ乃チ何等ノ白狀ナルヤ本部及現場ニ於テ差押ヘタル証據物件トハ則チ如何ナルモノナルヤ共犯人ノ陳述トハ則チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ明示セサレハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照スルモ又斯ク認知シ得ヘキ者アルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ付其特派委員トナリシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月廿八日人民カ喜多方警察署へ喧鬧セシ舉動ノ特派委員ノ任ヲ受ケシ証跡アルヲ見サルナリ此事實ハ法律ニ於テ

罰スヘキノ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條ニ關ヒ重禁錮ニ處斷シタルハ即チ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク大竹庄次右衛門カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス則チ治罪法第三百五十八條ニ法トリ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事武内維續立會宣告ス

明治十六年十月五日

- | | | | |
|-------|--------|------|-------|
| 裁判長判事 | 岡内 重俊 | 專任判事 | 關 義臣 |
| 判事 | 武久 昌季 | 判事 | 昌谷 千里 |
| 判事 | 小村 壽太郎 | 書記 | 上田 庸熙 |
| | | | 宇田 英義 |

右宇田英義カ兇徒聚衆被告事件ノ公訴ニ對シ明治十六年二月二十一日福島輕罪裁判所若松

兇徒聚衆ノ罪

支應ニ於テ裁判シタルノ要點ハ、(汝(被告)ノ舉動相當官吏ノ調書本部及現場ニ於テ差押ヘタル證據物件等ニ依リ或ハ共犯人ノ供述ヲ参照スレハ赤城平六瓜生直七等カ多衆ノ村民ヲ嘯聚シ宇田成一等ノ拘留セラレタル事由ヲ尋ル等ヲ以テ口實トシ喜多方警察署ニ喧鬧シタル際其嘯聚ニ應シ多衆ノ人民ヲ煽動シ之カ勢ヲ助ケタルモノト認定シ刑法第三百二十七條及第六十九條ニ照シ重禁錮二年ニ處シタリ大審院檢事長渡邊曠ハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十六年九月十九日非常上告ヲ爲シ其綱領ハ原裁判ハ治罪ノ一大原因ニ違背シ其推測ヲ輾轉シテ罪トナラサル事實ヨリ曾テ見ルヘキナキノ事實即前段(零之)ノ事實ヲ誤認セシモノニシテ治罪法第四百三十五條ノ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑法言渡シタルモノナレハ之ヲ破棄シ更ニ至當ノ裁判アルヲ請求スト云フニ在リ大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ

原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其証憑タル被告ノ舉動トハ則チ如何ナル舉動ナリシヤ相當官吏ノ調書トハ則チ調書中何等ノ點ニ係リシ者ヤ本部及現場ニ於テ差押ヘタル證據物件トハ則チ如何ナルモノヤ共犯人ノ供述トハ則チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示カ、レハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ亦斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干涉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ニ何等關與セシ証跡アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキノ所爲ニ非ルニ原裁判所カ之ヲ刑法第三百二十七條ニ問ヒ重禁錮ノ刑ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑法言渡シタルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

判決

前條理由ノ如ク宇田英義カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス則チ治罪法第三五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年十月五日

裁判長判事 岡内重俊 專任判事 關 義 臣

兇徒聚衆ノ罪

判事 武久 昌榮
判事 小村 壽太郎

判事 昌谷 千里
書記 上田 庸熙

渡邊 數馬

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十四日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百三十
七條同第六十九條ニ依リ重禁錮四年ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ同年九月十九日大審
院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其要領ハ右言渡書中犯罪ノ証憑ト爲シ揭
載スル處ハ當時ノ舉動共犯人ノ陳述其他証據物件トノミアリテ其犯罪ヲ證明スルノ點ヲ明
示セサルノミナラス尙一件書類ニ據ルモ亦如此認ムヘキモノアラス因テ惟フニ該裁判ハ治
罪ノ原則ニ違背シ其推測ヲ輾轉ノ罪トナラサル事實ヨリ曾テ無キ所ノ事實ヲ誤認シタルモ
ノナリトス依テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ基キ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニアリ
大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル理由ハ
原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其証憑タル被告カ當時ノ舉動トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ其
犯人ノ陳述トハ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ証據物件トハ如何ナルモノヤ其判決又中

之ヲ示サ、レハ之ヲ知ルニ由シナキノミナラス一件書類中ニ徵照スルニ又斯ク認知シ得ヘ
キモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干涉セシ事實ハ明白ナル
モ明治十五年十一月廿八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ニ關與セシ証跡アルヲ見出
サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條ニ關
シ重禁錮四年ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對
シ刑ヲ言渡タルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判ス
ル左ノ如シ

判決

前條ノ理由ノ如ク渡邊數馬カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五十
八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年十月八日

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 武久 昌榮

兇徒聚衆ノ罪

判事 關 義 臣
判事 昌 谷 千 里
判事 小 村 壽 太 郎
書 記 篠 原 安 津 志
飯 島 幸 太 郎

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十六日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百三十七條同第六十九條ニ依リ重禁錮三年六月ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ全年九月十九日大審院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲スノ要領ハ右言渡書中幸太郎カ犯罪ノ証憑トシテ汝ノ舉動共犯人ノ陳述相當官吏ノ調書及ヒ陳述其他証據物件等ト記載アレハ漫然其目ヲ列舉シタルノミニシテ其犯罪ヲ證明スルノ點ヲ明示セサルノミナラス如何ナル陳述ヲ爲シ如何ナル物件ヲ指シタルヤ共ニ之ヲ認ムヘキ所ナシ而シテ一件書類ニ徵スルニ幸太郎カ道路開鑿事件出訴ノ爲メ副部理ノ任ヲ受ケタルノ事實アルモ更ニ暴動ノ爲メ副部理ノ任ヲ受ケタルノ事實ナク固ヨリ訴訟ト暴動ト事體ノ殊別ナルニモ拘ハラズ暴動ノ副部理ト誤認シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法第四百三十五條法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ云々トアルニ相當スルヲ以テ非常上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニアリ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ裁判スル理由

ハ
原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其証憑タル被告カ舉動及陳述トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ証據物件トハ乃チ如何ナル者ヤ共犯人ノ陳述トハ乃チ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示サ、レハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干涉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ舉動ニ關與セシ証跡アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條ニ問ヒ重禁錮三年六月ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ全條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

〔判決〕前條理由ノ如ク飯嶋幸太郎カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキ者ニ非ス即チ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事武内維續立會宣告ス

明治十六年十月八日

裁判長判事 岡内 重俊

專任判事

武久 昌孚

判事 關 義 臣

判事

昌谷 千里

判事 小村 壽太郎

書記

篠原 安津志

大堀 喜太郎

兇徒聚衆被告事件ニ付明治十六年二月十九日福嶋輕罪裁判所若松支廳ニ於テ刑法第三百三十七條同第六十九條ニ依リ重禁錮三年ニ處スト言渡タル確定裁判ニ對シ明治十六年九月十九日大審院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告喜太郎ノ所爲タル公判始末書其他一件書類ニ據ルニ暴動ノ際即チ明治十五年十一月廿八日ニハ他用ノ爲メ新合村赤城中六宅ヘ到リタルコト明瞭ナルモ其煽動ニ應シ煽動ノ勢ヲ助タルノ証憑毫モアルコトナクレハ法律ニ於テ厨スヘキ者ニ非サルヤ明カナリ然ルニ原裁判所カ此ノ如キ無証ノ事實ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ非常上

告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト云ニアリ

大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル理由ハ原裁判所カ據テ以テ裁判セシ其証憑タル被告カ舉動及相當官吏ノ調書トハ何等ノ點ニ係リシモノヤ現場及本部ニ於テ差押タル証據物件トハ如何ナルモノヤ共犯人ノ陳述トハ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之ヲ示サ、レハ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス一件書類中ニ徵照シテ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要スルニ被告ノ所爲ハ道路開鑿不服ノ出訴事件ニ干涉セシ事實ハ明白ナルモ明治十五年十一月廿八日人民カ喜多方警察署ヘ喧鬧セシ暴動ニ關與セシ証跡アルヲ見出サ、ルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ニ非サルニ原裁判所カ刑法第三百三十七條同第六十九條ニ問ヒ重禁錮三年ニ處斷シタルハ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ罰セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ言シタルモノトス因テ同條第二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

判 決

前條ノ理由ノ如ク大堀喜太郎カ被告事件ハ法律ノ罰スヘキモノニ非ス即チ治罪法第三百五

兇徒聚衆ノ罪

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

百二十三

十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十六年十月八日

裁判長判事 岡内 重俊

專任判事 武久 昌孚

判事 關 議 臣

判事 昌谷 千里

判事 小村 壽太郎

書記 篠原 安澤志

○官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

五島 政基

官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタリトノ被告事件上告ニ付專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ大審院
檢事林三介ハ五島政基カ上告ノ理由トスル處ハ縣會ノ事實ヲ歴叙シ論議ヲ加ヘタルマテニ
テ即論議ニシテ誹議ニ非カレハ侮辱ト云フ可カラスト云フニアリ然ト雖モ對手人檢事補相
原市之亟カ當辨ノ如ク格別質問モセス又辨明モセス以心傳心ヲ其議チ了シ云々公明正大ノ
四字ヲ欠ク等ノ語現ニ縣令ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノナレハ原裁判其當ヲ得タルモノニ

テ上告ノ旨趣不當ナリト考量スルニヨリ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却アラソ
トテ望ムト陳述セリ茲ニ裁判スル左ノ如シ

高知新聞第二百四十四號雜報ヲ閱スルニ縣廳カ此度ノ縣會議事掛リニ地方稅取扱費ノ中へ
編ミ込ミ只外ノ雜費五千圓トシテアリ而シテ格別質問モセス又辨明モセス〔所謂以心傳心ヲ
其議ヲ濟セシ云々〕又ハ〔何ニシロ頗ル公明正大ノ四字ヲ欠キタルナリト風説ノマ、云々〕
ト掲載セント輒チ縣令ト議會トノ間ニ於テ不公不正ノ所置チテ人民ニ由ラシムヘシ知ラシ
ムヘシ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタル者ナラスシテ何ソヤ然ルチ上告人政基ニ於テハ縣會ノ
事實ヲ歴叙シ論議ヲ加ヘ且其議論ナシテ誹議ト假定スルモ其誹議ハ縣令ニアラスシテ縣會
ニアレハ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ニ非カレハ原裁判ハ擬律ノ錯誤ナリト云ト雖モ謂レナキ
陳辨ニシテ破毀ノ原由ト爲スニ足ラカルモノトス

右ノ理由ニ基キ明治十五年一月二十四日高知輕罪裁判所カ五島政基ニ宣告シタル裁判ハ破
毀ノ原由ナキニ因リ治罪法第四百二十七條ニ據リ上告ヲ棄却スル者也

明治十五年八月三十日

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

裁判長判事 坂本 政均 專任判事 鳥居 斷三
 判事 關 義 臣 同 山根 秀介
 同 昌谷 千里 書記 河波 秘雄
 小野 長右衛門

右長右衛門カ被告事件ニ對シ明治十五年三月八日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告人ハ清田村役所ニ於テ戸長笹木慎吾ノ職務ニ對シ言語ヲ以テ之ヲ侮辱シタルモノト認定シ刑法第四百十一條ニ依リ重禁錮一月罰金五圓ヲ言渡シタル處被告長右衛門ニ於テハ被害者慎吾ニ對シ少シク讒謗ノ語ヲ吐キタルモ戸長ノ定席ニ非カル使丁詰所ニ於テシタルコトナレハ私己ノ讒謗ニ止マリ戸長ノ職務ニ對シタルモノニアラス且証人ノ内鷹野昇ハ被害者ノ親屬ナルヲ以テ本案事件ノ証人タルコトヲ得サルモノナリ然ルニ之ヲ証人ト爲シタルノミナラス被害者慎吾ニ於テ既ニ告訴ノ樂權ヲ爲シタル上ハ公訴權モ從テ消滅シタル者ナルニ原裁判所ニ於テ前記ノ刑ヲ言渡シタルハ不法ナリトノ旨趣ヲ以テ上告ヲ爲セリ本院檢事池上三郎ニ於テハ被害者ハ戸長笹木慎吾ニ對シ馬鹿野郎又ハ押領戸長ト惡口シタルハ既ニ公務ノ席ヲ下リ私席

ニ於テ爲シタルモノニテ其目的職務ニ對シ侮辱スルノ意ニアラスシテ全ク其人ニ對シ罵詈訾シタルヤ明カナリ果シテ然ラハ被告ノ所爲ハ公然人ヲ罵詈訾シタル罪アルモノニシテ便チ刑法第四百二十六條十二項ニ定メタル違警罪ニ該ルモノナルモ己ニ被害者告訴ノ權利ヲ拋棄シタル上ハ上告趣意ノ如ク公訴受理ス可キモノニ非カルヲ以テ無罪ニ歸ス可キモノナリ然ルニ原裁判茲ニ出サルハ擬律不當ノ裁判ト思考スル旨陳述セリ
 依テ判決スルコト左ノ如シ

被告長右衛門カ明治十五年二月廿四日清田村役所ニ於テ戸長笹木慎吾ノ職務ニ對シ言語ヲ以テ侮辱シタルトノ事實ハ原裁判所カ証人ノ陳述等ニ據テ以テ認定シタル所ナレハ該認定ニ對スルノ論告ハ本院ノ鑒査スル限りニ在ラストス何トナレハ事實ノ認定ハ原裁判ノ專權スル特權ナレハ也然リト雖モ今假リニ一步チ上告人ニ讓リ村役所内ノ私席ニ於テ之ヲ罵詈訾シタルモノト爲スモ亦其職務ニ對シタルモノニ非スト爲スコトヲ得サル也何トナレハ其席ノ公私ニ拘ハラス村役所内ハ都テ是レ戸長ノ其職務ヲ行フノ處タルノミナラス本案事件ハ洵ニ被害者ノ公務上ニ對シ被告カ往日戸長勤務中ノ給料ヲ請求シタルニ起因シタルモノナレ
 官吏ノ職務ヲ行フテ妨害スル罪
 百二十七

ハ也將々上告人ニ於テ証人ノ内鷹野昇ハ被害者ノ親屬ナル者云々且ツ被害者ニ於テ告訴テ棄權シタル上ハ公訴權モ最早消滅シタルモノナル旨論辦スレモ之ヲ原書籍ニ徵スルニ僅木慎吾ハ被告事件ヲ告訴スルニ止マリ民事原告人ト爲リタルニ非カレハ鷹野昇ニ於テ法律上本件ノ証人タルノ資格ヲ失フ可キ理ナシ而シテ又本案事件ハ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ非カレハ被害者慎吾ノ棄權ニ因テ公訴消滅スルノ理由ナシトス依テ本件ハ都テ上告ノ理由ナキニ付キ治罪法第四百三十七條ニ照シ之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年二月十日

裁判長判事	岡内重俊	專任判事	兵頭正盛
判事	土師經典	同	黒岩直方
同	昌谷千里	書記	味岡禮賢

右 示

右稻垣示カ被告事件ニ付明治十五年九月金澤輕罪裁判所ニ於テ石川縣令ノ職務ニ對シ侮辱

シタル者トナシ刑法第四百十一條ニ依リ重禁錮五ヶ月罰金三十圓ヲ言渡ストノ裁判ニ對シ被告稻垣示ハ上告ヲ爲シ石川縣會議場ニ於テ石川縣令ノ職務ニ對シ侮辱シタル覺ナキニ縣會議長川瀬貫一郎等カ不實ナル証言ヲ採リ縣令ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノト爲シタルハ不當ナリ假リニ被告カ縣令ノ權妻カ教員トナリ云々ノ言ヲ吐露シタルモノトスルモ單ニ府縣會規則ニ依リ處分セラルヘキ者ニシテ刑法ノ支配ヲ受ク可キ者ニアラストノ旨趣ヲ論告セリ同裁判所檢事別府景通ハ縣會議長川瀬貫一郎等カ証言ハ正確ナリトノ理由ヲ述ヘ原裁判所カ此ノ明確ナル証言等ニ據リ被告稻垣示ハ石川縣會議場ニ於テ石川縣令ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノトシ刑法第四百十一條ニ依リ處斷シタルハ至當ノ裁判ナル旨ヲ答辨セリ茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
被告ノ要點ハ縣會議場ニ於テ石川縣令ノ權妻カ教員トナリ云々吐露シタル覺ヘナク假ニ此言論ヲ爲シタリトスルモ府縣會規則第二十九條同第三十條ニ依リ議長ノ制止ヲ受タルニ止ル者ニシテ決シテ刑法ノ支配ヲ受クヘキ者ニ非カル旨痛論スト雖モ事實ノ認定ハ裁判官ノ心得ニ任從シテ動カス可ラカ者トス又罪ト成ルヘキ所爲アル者ハ何等ノ場所ト雖モ法律

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

ノ管理ヲ受クヘキハ言ヲ俟ス然レハ則原裁判所カ被告人ヲ官吏侮辱ノ罪アル者ト認定シ刑法第四百一十一條ヲ適用セシハ相當ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年三月三日

裁判長判事	山根 秀介	專任判事	大塚 正男
判事	土師 經典	判事	高 木 勳
判事	昌谷 千里	書記	上田 庸熙

林 包明

右林包明カ被告事件ニ付明治十五年十二月廿九日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年八月十五日ノ夜群馬縣下上野國前橋本町酒樓金井(コト)方ニテ嶋本仲道外三名ト食飲ノ際行政警察ノ爲メ臨檢シタル警部代理巡查清水馬之助巡查新井藤吉郎ニ於テ被告等ノ住所氏名ヲ尋問スルニ當リ暴言ヲ以テ之ヲ抗拒シ且馬之助ノ手ヲ攫ミ或ハ藤吉郎ノ所持セシ官棒

ヲ擡取ラントセシ舉動ヲ爲シ該巡查ヲシテ仲道外三名ノ氏名住所ノ調査ヲ爲スヲ得サラシメ又該巡查ニ對シ虫ノ如キ譯ケモ分ラズ巡查ダ早ク歸ラテハ逐ヒ拂フヘシト罵詈セシ事實ハ第一職務ヲ以テ臨檢セシ右巡查ノ告訴狀第一右巡查カ當時氏名住所ノ調査成ラザリシ實跡第三樓主(コト)ノ訊問調書ニ據リ其証憑明瞭ナリトス即刑法第百廿九條第一項并第百四十一條第一項ニ該ルニ罪褫發ナルヲ以テ第百條ニ照シ重キ第百廿九條第一項ノ罪ニ從ヒ重禁錮二年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告包明カ上告ノ要旨ハ被告人カ警察官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタルノ證據ハ毫モ見ルヘキモノナク又警官ニ對シ侮辱シタリトスルニ警官カ自ラ侮辱ヲ受ケタリトノ供述ノミヲ以テ其証トスヘカラス結局無罪ナル上告人ニ刑ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナルニ因リ之カ破毀ヲ求ムト云フニアリ對テ手人檢事補石尾孝基カ答辨ノ趣旨ハ上告ノ趣意ハ事實ノ辨證ニ止リ之ヲ治罪法第四百十條ニ照スニ上告ノ理由ト爲スヲ得ヘカラサルモノニ付棄却アラソコトヲ求ムト云フニアリ

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニヨリ立會檢事ノ意見及上告代人北田正董ノ陳述ヲ

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

聽キ之レヲ審按スルニ上告代人ニ於テ第一上告人ハ未ダ曾テ逕査ノ手ヲ擧ミ或ハ官棒ヲ押ヘ取タル等ノ行爲ヲキテ以テ暴行ヲ以テ抗拒ストハ逕査ノ告訴狀等ニモ見ヘサル所ナルニ原裁判官カ刑法第三百三十九條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ第二上告人ハ暴行ノ所爲ナキニ因リ曾テソレ等ノ訊問ヲ受ケタルコトナケレハ公訴サレヘキ謂ハレナキテ刑法第三百三十九條ノ罪アリトシ裁判ヲ與ヘラレタルハ治罪法第二百七十六條ノ明文ニ背反セリ第三裁判言渡書ニ暴行等動作行爲ニ顯レタルノ事實理由ヲ付セスシテ突然刑法第三百三十九條ヲ適用シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ該當スル不法ノ裁判ナリ第四上告人カ利益ノ爲メ辯護人ヲ用ヒタシトノ請求ヲ許サ・リシハ裁判官カ越權ノ處分ナリトノ意ヲ以テ仍ホ上告趣意ヲ擴張陳辨スト雖モ其ノ第一ハ原裁判官カ證據ノ採擇及ヒ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キカレハ以テ上告ノ理由トナスヲ得サルモノトス何ントナンハ原裁判官カ逕査ノ告訴狀及ヒ樓主金井コトノ訊問調書等ヲ以テ心証ノ資料ニ供シ上告人カ逕査ノ手ヲ擧ミタル等ノ所爲ハ暴行ヲ以テ抗拒シタルモノト認定シタルハ則チ法律上特有ノ職權ヲ行ヒタルモノニシテ他ヨリ輒スク容喙スヘキ所ニ非ス且ツ其ノ事實ニ對シ刑法第三百三十九條ヲ適用シ

タルハ其當ヲ得タルノ擬律ナレハナリ其第二ハ公判始末書中檢察官カ公訴趣旨ノ陳述及ヒ刑ノ適用ノ意見等ニ就テ之ヲ觀ルニ上告人ノ所爲ハ刑法第三百三十九條及ヒ第四百一十一條ニ該當スル二罪ナリト認メ公訴セサルヲ以テ裁判官ハ之ヲ受理シ二罪中第三百三十九條ノ罪ヲ重シ・シ該條ヲ適用シタル實際ナレハ原裁判ノ如キハ固ヨリ訴ヘテ受ケサル事件ニ付爲シタル裁判ト云フヲ得サレハ也其第三ハ原判文ニ掲ケタル事實ハ其初メ言語上ノ抗辯ニ出ルモ續テ馬之助ノ手ヲ擧ミ或ハ藤吉郎ノ所持セシ官棒ヲ握取ラントスト云フニ至リテハ現ニ舉動ニ顯ハレタルノ事實即暴行ノ行跡ヲ掲載シタルコト明瞭ナレハ之ヲ事實ノ理由ヲ付セサル言渡ト云フヲ得サル者トス其第四ハ被告人カ辯護人ヲ用ユルヲ得ルハ法ノ許ス所ナルヲ上告人カ請求ノ如キハ辯論ヲ了シ最終ノ申立ヲナシタル後チナルヲ以テ裁判長ハ其職權モ以テ更ニ辯護ヲ用フルヲ要セサル旨ヲ告ケ直ニ裁判ヲ與ヘタルノ順序ナルハ職權ヲ該公判始末書ニ在リ荷モ然ラハ上告人ハ己レノ所爲ヨリ辯護人ヲ用ヒ得サルニ至リタルモノトスヘクモ之ヲ以テ裁判官カ越權ノ處分ト云フヲ得サルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

裁判長判事 石井 忠恭

專任判事 中島 盛有

判事 兵頭 正鑑

判事 土師 經典

判事 岡田 弘

書記 田邊 權

三宮 寅衛

明治十五年十月十二日大阪輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ審理シ被告三宮寅衛ハ明治十五年八月八日巡查北山仁三郎カ其ノ職務ヲ以テ官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行ヲ加ヘ毆傷シ且其目前ニ於テ侮辱シタル者ト判定シ刑法第三百二十九條第四百十條第三百一一條第三項第四百十一條ヲ適用シ犯時十二歳以上十六歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十條ニ依リ各本刑ニ二等ヲ減シ仍ホ數罪併發ノ例ニ照シ刑法第三百二十九條ノ罪ヲ重シト爲シ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告三宮寅衛ハ右裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣旨タルヤ原裁判所ハ被告ノ所爲ヲ以テ官吏其職務ヲ行フニ當リ暴行ヲ加ヘタル者トシ刑ヲ適施シタリト雖モ巡查北山仁三郎等カ懇

親會ニ臨檢シ之ヲ制止セントシタルハ大坂府丙第九十八號布達ノ趣旨ヲ誤解スルニ因ルモノニシテ全ク其職務外ニ涉ル處置ナレハ官吏其職務ヲ以テ官署ノ命令ヲ執行スル場合ニアラサルコト明白ナリ又其官吏ニ對シ暴行ヲ以テ抗拒シタルコト更ニ之レナキ而已ナラス其暴行ノ證ト爲サレタル負傷ナルモノハ醫師ノ鑑定書ニ心悸亢盛ト在ルヲ謂フナラン何ソ心悸亢盛ヲ以テ負傷ト謂フチ得ヘケンヤ且巡查ハ用ナキ者ナリ云々ノ言語ヲ發シタル覺之レナク更ニ一步ヲ讓リ發語セシ者ト假定スルモ之ヲ以テ侮辱ノ言語ト謂フチ得サルハ多辨ヲ要セスシテ明ナリ然ルニ原裁判所カ被告事件ノ要點ニ付直接ノ關係ヲ有セサル景況書及不備ノ鑑定書等ヲ心證ニ資リ以テ有罪タルノ認定ヲ爲セシハ不當ノ最甚シキモノニシテ乃チ事實理由ノ齟齬及擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

原裁判所檢事補宮崎多喜衛ハ上告論旨ニ對シ逐一之ヲ辨駁シ到底其効ナキモノト思量スル旨答辨セリ仍テ治罪法第四百二十五條ニ基キ立會檢事池上三郎ノ意見及被告代人吉永聰ノ陳述ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ理由ハ分テ四個ナリトス其一ハ官吏其職務ヲ以テ官署ノ命令ヲ執行スルノ場合

官吏ノ職務ヲ行フチ妨害スル罪

ト謂フヲ得ストノコ其二ハ暴行ヲ以テ抗拒シタルニアラストノコ其三ハ心慄兀盛ヲ以テ負傷ト爲スヲ得ストノコ其四ハ侮辱トナルヘキ言語ヲ發シタル覺ナシトノコ是ナリ而シテ其第一第二第四ノ論點ハ專ラ原裁判所カ正當ノ証憑ニ據リ認定シタル事實ノ當否如何ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコヲ得ス何トナレハ諸般ノ証憑ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニ屬シ越權ノ處分アラサル以上ハ輒ク其當否如何ニ論及スルヲ得サルナリ又大坂府内第九十八號布達ノ趣旨ニ基キ懇親會ノ如キモ之ヲ制止スルハ警察官ノ職權内ナルコ著明ナレハ其職務外ニ涉ル不當ノ處分ナリトノ論旨モ是亦採用スルニ由ナシト雖モ上告第三ノ理由ニ付訴訟書類ヲ鑒査スルニ原裁判所カ據テ以テ創傷ノ証ト爲シタルモノハ醫師ノ鑑定書ナリ而シテ其鑑定書ニハ外部異狀ナシ然ルニ心部ヲ聽診スルニ心慄兀盛ヲ認ムル云々ト在レ而己ニシテ其他創傷ヲ成シタリト見ルニ足ルヘキ証佐一モアルコナシ然ルニ何ヲ以テ負傷セシメタル者ト認定セシ歟抑モ法律ニ所謂創傷トハ身体ノ内部又ハ外部ヲ毀損スルノ謂ニシテ心慄兀盛ノ如キ内臟機關ノ作用其常度ヲ失ヒタルヲ謂フニ非サルナリ故ニ本件被告ハ官吏ヲ毆打シタルマテニシテ其毆打ニ因リ負傷セシメタルニ非ラサルコ論ヲ

俟マス而シテ其毆打ノ所爲ハ暴行ノ一手段ニシテ乃チ暴行ヲ以テ官吏ニ抗拒スルノ罪ヲ組成スル情狀タルニ過キカレハ必ス之ヲ別個ノ犯罪トシテ罰スルヲ要セサルナリ然ハ則チ原裁判所ニ於テ被告ハ官吏其職務ヲ行フニ當リ暴行ヲ以テ抗拒シ且言語ヲ以テ侮辱セシ者トシ刑法第三百三十九條第四百一條第八十條第百條ヲ適用シタルハ至當ナリト雖モ其毆打ノ所爲ヲ別罪ト爲シ刑法第四百十條及第三百一一條第三項ニ照シ處斷セシハ畢竟創傷ノ義解ヲ誤リ爲メニ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ニシテ則チ治罪法第四百十條第十項ニ當ル上告ノ理由有ルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判官渡中毆打創傷事件ニ係ル部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年十二月二十八日

裁判長判事 鳥居 斷 三

專任判事 小村 壽 太郎

判事 伴 正 臣

判事 薄 井 龍 之

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

百三十七

○囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪

北澤 綱二郎

明治十五年一月二十三日姫路輕罪裁判所カ右網二郎ニ對シ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル罪アリトシテ刑法第五百十條ニ依リ罰金二圓ノ刑ニ處シタリ然ルナ網二郎ニ於テハ其裁判ヲ不當ナリトシテ上告セシ其理由ノ要領ハ懲役三年囚本庄榮三郎ノ舉動當テザルニ付注意ヲ加ヘ居リシニ突然路次口ヨリ逸出スルヲ認メ直ニ追跡セシニアレハ懈怠ヨリ生シタルニ非ストノ趣旨ニアリ對テ入檢事補河野通信ハ被告網二郎カ囚徒看守セシハ山林原野等ニテ外役セシ囚徒ヲ看守セシ此ニアラス周圍ニ塙壁ヲ施設シタル塙ナレハ懈怠ニアラサレハ逸出スヘキ所以ナシ囚テ原裁判ハ適當ナリト答辨セリ大審院檢事林三介ニ於テハ姫路輕罪裁判所檢察官答辨ノ趣旨ヲ贊成シ原裁判當レリト陳述セリ茲ニ刑法第五百十條治罪法第三百四條ニ照シ左ニ判決ス

原裁判言渡シテ閱スルニ「被告ノ自狀ハ兵庫縣監獄姫路分署ノ照會書ニ依リ被告人北澤綱

二郎ハ明治十五年一月十五日播磨國飾東郡豐津村ニ設置アル監獄分署ノ工場場ニ於テ看守ノ懈怠ニ依リ已決囚本庄榮三郎ノ逃走ヲ覺ラカリシコト證ス云々」トアリテ其斷罪證憑及ヒ法律ノ理由ハ之レヲ明示スルモ其事實ノ理由ニ至ツテハ之レヲ明示セス治罪法第三百四條ニ裁判所ニ於テ刑ノ言渡シヲ爲スニハ事實及法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且一切ノ證憑ヲ明示ス可シ云々トアル法文ニ抵觸シタル不法ノ裁判所ナリト云ハサルヲ得ス何ソトナレハ刑法第五百十條ハ看守又ハ誘送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時云々トアリテ其懈怠タルヤ或ハ看守者睡眠喫食又ハ上廁等ニ因リ其注意ヲ怠タル如キノ元素ヨリ成立チタル犯罪ヲ罰スヘキ法文ナレハ其成立ノ元素ヲ詳細明示セラルヲ得ス然ルテ原裁判此ノ要點ヲ缺キタルハ即チ上告人網二郎ノ罪トナルヘキ事實ノ理由ヲ明示セサル者ナレハナリ右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百廿條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ神戶輕罪裁判所ニ移ス者也

大審院ニ於テ檢事林三介立會宣告ス

明治十五年九月一日

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

裁判長判事 坂本 政均 專任判事 鳥居 斷三
 判事 關 義 臣 同 山根 秀介
 同 昌谷 千里 書記 澤野 潜藏
 同上 江上 胤成

右江上胤成ハ明治十五年二月二日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ看守者
 懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺テナル罪アリト處斷セラレタル裁判ニ對シ上告ヲ爲シタルニ
 付專任判事昌谷千里ノ報告書ニ依リ大審院撫事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ
 如シ

上告人ハ囚徒ヲ看守スルノ際毫モ懈怠ノ所爲アルニ非ス然ルニ刑法第百五十條ニ依リ刑ヲ
 宣告サレタルハ不當ノ裁判ナリトノ旨ヲ陳述シ上告ヲ爲スト雖モ其妻却ハ單ニ事實覆審ヲ
 請求スルノ旨趣ニ止マルモノニシテ治罪法第四百十條ニ據載シタル上告ヲ爲スコト得ルノ
 場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノト判定ス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上
 告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年九月九日

裁判長判事 坂本 政均 專任判事 昌谷 千里
 判事 關 義 臣 同 鳥居 斷三
 全 山根 秀介 書記 森田 忠雄
 野田 豐太郎

右豊太郎カ下瀬松太郎ヲ濱田輕罪裁判所へ護送ノ途中ニ於テ懈怠ニ因リ松太郎カ逃走ヲ覺
 テカリシトノ檢察官ノ起訴ヲ受ケ濱田輕罪裁判所豫審掛リ判事佛生復ハ刑法第百五十條ノ
 刑ヲ適用スヘキ者トシ濱田輕罪裁判所へ移スノ言渡ヲ爲シタリ同裁判所檢事乘附弘ハ右豫
 審言渡ヲ不法ナリトシ故障ノ申立ヲ爲セリ明治十五年二月十三日濱田輕罪裁判所會議局ニ
 於テ檢事ノ故障ニ對シ豫審終結ノ言渡ハ不法ニ非ストノ判定ヲ爲シタリ而シテ檢事乘附弘ハ
 右會議局ノ判決ヲ尙又不法ナリトシ上告セル上告ニ曰ク刑法第百五十條ノ囚徒トハ禁錮以
 上ノ已決囚徒ニ非スンハ囚禁閉鎖スルノ効力アル拘留狀収監狀ヲ受ケタル犯人ヲ云フモノ
 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

コシテ未ダ囚禁閉鎖ノ効力ナク單ニ裁判所へ引致スルニ止マル處ノ拘引狀ヲ受ケタルヲモ
概言シタルモノコ非サルヘシ被告豊太郎ハ拘引狀ヲ以テ引致スル者ノ逃走ヲ覺ラサリシ者
ノ刑ヲ適用スルヲ得サルナリ故ニ會議局ニ於テハ豫審終結ノ言渡ヲ取消シ更ニ無罪ヲ言渡
ス可キ者ト云フニ在リ又被告人野田豊太郎ニ於テモ亦會議局ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告セ
リ其旨趣ハ檢察官ノ上告ト同意コシテ松太郎ハ刑法第百十條ニ記載アル囚徒ト云フヘキモ
ノコ非ス云々ト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判
スル左ノ如シ

本件上告ノ要点ハ刑法第百五十條第一段ノ(囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル云々)ニ係ル囚徒トハ必
ス禁錮以上ノ既決人又ハ囚禁閉鎖スルノ効力アル拘留狀收監狀ヲ受ケタル犯人ニ限ルヤ否
ヤノ解釋ヲ詳ニスルコアリ其條第二段ニ曰ク(若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルハ
ハ)云々トアリテ是ハ重罪ノ既決囚人ヲ除クノ外凡拘引狀ヲ受タル者ハ輕罪ノ刑ニ處セラ
レタル囚徒ニ限ラス重罪輕罪ノ未決ノ囚徒又ハ其嫌疑アルノ捕ハレ人等現ニ拘引ヲ受ケテ
看守又ハ護送者スルモノハ一般ニ本條第一段ノ法文中ニ支配セラル、モノトス上告狀ノ所

謂ル必スシモ禁錮ノ既決又ハ囚禁閉鎖以上ノ犯人ニ限ルヲ謂フヲ得サルナリ現ニ拘引狀ニ
記載シアル窃逃犯人ナル松太郎ヲ護送シテ其逃走ヲ覺ラサリシ護送者即チ被告豊太郎ノ所
爲ハ刑法第百五十條ニ問擬スヘキモノ即チ豫審終結ノ言渡ニ於テ輕罪裁判所へ移ストノ申
渡ハ相當ナレハ到底濱田輕罪裁判所會議局ニ於テ檢察官ノ故障ノ申立ニ對シ明治十五年二
月十三日言渡シタル判決ハ不法ト謂フニ由テシ即チ檢察官及被告人野田豊太郎ノ上告ハ治
罪法第四百十條ノ場合ニ適合セカル上告ナリ因テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ則リ檢察
官及被告人ノ上告ヲ併セテ棄却ス

大審院ニ於テ檢事堀田正忠立會宣告ス

明治十五年十月十三日

裁判長判事 中 嶋 錫 胤 專任判事 關 義 臣

全 鳥 居 斷 三 全 山 根 秀 介

全 昌 谷 千 里 書記 荒 木 龍 兆

松 村 藤 吉

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

右松村藤吉ノ被告事件ニ付明治十五年五月三十一日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告カ懲役終身
 服役中明治十四年三月十六日堺監獄ヲ脱シテ逃走シ其後就縛入監中明治十四年七月十八日
 再ヒ逃走シタルハ新法實施前ノ所爲ナルヲ以テ之ヲ舊法ニ照スニ第一次ノ行爲ハ明治九年
 第二十二號布告ニ依リ擄鎖三日ニ處スヘキ者又第二次ノ行爲ハ明治十年第二十五號布告ニ
 依リ擄鎖十日ニ處スヘキ者即二罪俱發シタルヲ以テ舊法ニ罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ
 擄鎖十日ニ處斷スヘキ者ナルヲ以テ明治十四年第八十一號布告第十三條ニ照シ擄鎖十日ニ
 處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補大野吉利カ上告ノ要旨ハ明治十年第二十五號
 布告ハ先キニ逃走ノ罪ヲ犯シ己ニ斷決ヲ經テ再ヒ犯シタル者ヲ罪スルノ律意ナルヘシ然ル
 ニ本案被告ノ所爲ハ先キニ逃走ノ罪ヲ犯シタルモ未タ其ノ判決ヲ經ス再ヒ同罪ヲ犯シタル
 モノナルヲ以テ兩次ノ罪等シク是レ同一ノ刑ニ該ル者ナルニ裁判所ニ於テ被告人第二次ノ
 所爲ハ明治十年第二十五號布告ニ依リ擄鎖十日ニ該ル者ト處斷セシハ擬律ノ錯誤アル裁判
 ナリト云フニアリ對手人松村藤吉ハ大野吉利カ上告趣旨ト意見ヲ同フスル旨ヲ答辨セリ又
 被告松村藤吉カ上告ノ要旨ハ己決囚ノ逃走ハ二罪俱發例ヲ以テ論スルノ限りニアラザルモ

ノ、如シ又判文ニ舊法ノミヲ掲ケ新法ヲ明示サレサルハ刑法第三條第二項ノ元則ニ背戾シ
 タルモノ、如シ夫レ然リ被告ノ逃走罪ハ刑法ニ於テ第四百四十一條第四百四十二條第四百四十三
 條第四百四十四條何レヲ適用スルヤノ區分ヲ明記シ之ヲ舊法ニ此照シ輕キニ因テ處斷セサル
 ハ不法ノ裁判ナリト對手人檢事補大野吉利カ答辨ノ趣旨ハ被告カ本件裁判言渡ヲ以テ刑法
 第三條及ヒ治罪法第三百四條ニ背キタル者トシタルハ其當ヲ得タルモ被告ノ所爲ニ對シ原
 裁判所カ二罪俱發例ニ照シ處斷シタルハ素ヨリ當然ナルニ己決囚ノ逃罪ハ二罪俱發例ヲ以
 テ論スヘキモノニアラストト申立ハ更ニ其理アルヲ見スト云フニアリ右二個ノ上告各其志
 唱スル所ヲ異ニスルモ同シク一個ノ裁判ニ對スル上告ナルヲ以テ茲ニ大審院ニ於テ專任判
 事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ二件ヲ併セ之ヲ審檢スルニ原裁判ノ擬舊法ヲ此照
 セサルハ刑法第三條第二項ノ原則ニ觸ルハモノトス又己決囚ノ逃走罪ニ二罪俱發例ヲ用フ
 ルヲ得サルノ法又ナク且原判文ヲ閱スルニ事實及法律ノ理由ヲ付シ治罪法第三百四條ニ背
 戾シタルノ痕跡アルヲ見サレハ被告藤吉カ右上告ノ趣旨ハ不相立モノトス然ルニ本被被告
 ノ所爲ニ對シテハ原檢察官意見ノ如ク二次罪ヲ犯スモ未ダ前罪ノ判決ヲ經カザル限リハ其後

罪ヲ再犯視シ刑ヲ加重スヘキ理由ナクテハ軍ニ明治九年第二十二號公布ニ依リ捕鎖三日ニ處スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサリシハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

松村 藤吉

前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ明治九年第二十二號公布及ヒ明治十四年第八十一號公布第十三條ニ依リ捕鎖三日ニ處スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年七月二十八日

- 裁判長判事 中島 盛有 專任判事 石井 忠恭
- 判事 兵頭 正懿 判事 土師 經典
- 判事 黒岩 直方 書記 田邊 權

○國事犯ノ陰謀ニ關スル罪証隠蔽ノ件

鎌田 猶三

佐々木 空三郎

右被告人等ハ河野廣中花香恭次郎平島松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田清之輔等カ政府ヲ顛覆スルノ目的ヲ以テ内亂ノ陰謀ヲ爲シ共ニ血盟シタル盟約書ヲ發見シ之ヲ取隠シヨリトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人等ノ答辯辯護人等ノ辯論ヲ聽キ被告人等ノ白狀及ヒ証憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スルコト左ノ如シ

判 決

右被告人等ハ明治十五年十二月中被告人佐々木宇三郎宅ニ於テ河野廣中花香恭次郎平島松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田清之輔等カ内亂ニ關スルノ罪ヲ免カレシメテ圖リ其罪証ト爲ルヘキ血判セシ盟約書ヲ隠蔽シタル者ト判定ス其証憑ハ左ニ之ヲ明示ス

鎌田猶三ハ明治十六年一月十九日福島警察署ニ於テ其盟約書ハ如何ナルコトヲ記載セシヤトノ問ニ對シ

第一條 我黨ハ專制政府ヲ顛覆シ完全ナル立憲政体ヲ立ルヲ目的トス 第二條 我黨ハ如何ナル難義ニ際シ幾年月ヲ經ルト雖モ目的ヲ達セサル中ハ決シテ解散セサルコト

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第三條 我黨員ハ時宜ト場合ニ依リテハ一死ヲ顧慮スルコトナカルヘシ 第四條 前三條ノ結約ヲ違背シタル者ハ斬ニ處スヘシ 第五條 ハ記憶セス

右五ヶ條ハ神明ニ盟ヒ生死ヲ不辭相守ルヘキコト

尤氏名ノ下ニ各血判ヲナセリト答ヘタリ

又明治十六年二月三日福嶋輕罪裁判所若松支廳豫審廷ニ於テ福島無名館ニテ河野廣中外五名之血判盟約ヲ見出シタリト信ナルヤトノ問ニ對シ十五年十二月六日午後三時此無名館之床間ニアル篋筒之小引出シ三ツノ内中ノ引出シニ見當リ取置候而シテ同月九日午前十一時佐々木卯三郎エ相渡候ト答ヘ又タ匿シ置シハ如何ナル譯カトノ問ニ對シ專制政府ト記載有之斯之如書ヲ見顯ハカレ候節ハ國事犯罪トモ可相成ト存隱蔽之含ニテ匿シ置候ト答ヘタリ又タ明治十六年二月四日汝カ無名館ニ於テ如何ナル手續ニテ河野廣中等ノ誓約書即チ血印セシモノヲ發見シタルヤトノ問ニ對シ自分カ其日同館ニ投スルヤ廣中ノ勾引セラレタル後ニテ當日己ニ家宅搜索ノ跡ナレハ書類等ハ皆己ニ差押ヒラレタリ其五日自分所持ノ書類迄差押ヒラレタルヤト思慮シ各處探索スルニ際シ篋筒ノ引出中其誓約書ナレモノアリ是レ十枚枚ノ紙ヲ綴リ表題ヲモ附セス且ツ初メニ少ク字ヲ書シタルカ爲メ先キニ白紙ヲ綴リタルモノト誤認シ警官ノ差押ユル所トナラスシテ此ニ取遺シタルモノト思料シタリ然レ之ヲ閱スルニ政府ヲ顛覆スル云々ノ誓ナレハ若シ發覺セハ即チ法律ノ罪人ヲ免レス則チ之ヲ秘スヘキモノト思料シ館中ノ疊ノ下ニ藏シ置タリ然レ之ヲ訴ヒ出ルニ如カサルヘキカト思料シ種々之カ處置方ニ苦ミ一己ノ心ニテ決スル能ハス則チ九日ニ在テ佐々木卯三郎方ニ到リ其處置方ヲ計リタリ然ルニ卯三郎ハ悉皆其處置ヲ擔當スルヲ以テ授ケ去ルヘキ旨申スヲ以テ皆同人ノ爲ス所ニ委テ直チニ之カ關係ヲ絶テタリ畢竟スルニ之ヲ包藏セス過日警察署ノ訊問中敢テ此事ノ訊問ナカリシカ自分之ニ關係セシ始末ヲ自白シタルモノナリト答ヘタリ

佐々木卯三郎ハ明治十六年六月九日本院公判下調廷ニ於テ被告人宇三郎勸者セシカトノ問ニ對シ勸者セリ明治十五年十二月九日鎌田直造來リシ時ヨリノ手續ヲ更ニ申立テ有テ大事ナルコトナリ故ニ來リ賞ヒタシト云フ自分ハ何ノコトカハ知ラサレ田大學ノ誤ナ因徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

レハ他人ノ居ル處ハ宜シカルマシ故ニ直造ニ來タレト申聞タリ其夜直造來リ盟約書ヲ持參シ見セタルニ相違ナシ然ルニ内亂ヲ起ストノ明文ハナケレモ政府ヲ顛覆スルトノ文字アリト答ヘ又其文字アリヤトノ問ニ對シ有リ故ニ他見ハ宜シカラス河野廣中花香恭次郎等ハ知己故他人ニ見セカルコト之ヲ預リ然ルニ夫ヲ如何致シ保存シテ本人ニ返スヘキト種々者ヘ餘ノ處ニ於テ他人ニ見ラレテハ本人等ノ本懐ニ非スト存シ直造ノ申立ノ如ク新聞紙ニ包ミ會津德利ニ入レテハ見タレモ夜中ナリシ故夫ヨリ譬ヒ直造ノ持來リタルモノテアロウトモ土中ニ埋メ又直造カ他人ニ斷ンハ宜シカラスト直造カ便所ニ行キタル時杉ノ古木ノ下ヘ埋メ然ル後直造カ便所ヨリ歸リタル時余モ歸リタリ此時直造カ埋メタリト思ヒシナラン暫クスルト前申上タル通り雇人等カ萱ヲ片付居タル處ニ戸長役場ヲ尋テシ巡查アリテ直造カ尋テラルヤノ摸樣モアリシ故ヘ出テ行カシメ自分モ同村越ノ上ト云フ所ヘ出テ行キタルニ相違ナシト答ヘ又々福島警察署以來事實ナキコト申立シハ自分一己ノ罪ヲ遁ン爲メナラス一度預リテ隱蔽シタルハ友人ノ情誼ニ於テ河野廣中等ノ罪ヲ遁カレシメントノ爲メナリ今更証人トナリ右ノ書類ヲ持參ス

ルニ於テハ遺憾ナルカ故ニ是迄陳述致シタルコトハ彼レ等カ罪ヲ免カレシメントナ慮リ心ニモナキ僞言ヲ申立タルハ恐入タリト答ヘタリ又々明治十六年六月十一日先日汝ノ申立ニ盟約書ヲ鎌田直造ヨリ受取之ヲ杉ノ古木ノ下ニ埋メ後取出シテ消滅セシメタリト今其盟約書ハ皆無ニ屬セシヤ否トノ問ニ對シ無ナリシナリト答ヘ又其引裂キタルトカ反古トナセシモノハ如何シタルヤトノ問ニ對シ消滅セシメ之ヲ出スト不能ナリト答ヘ又々消滅セシメタルコトヲ詳論申立ヌトノ言ニ對シ僅カ一枚計リ故引裂キ堀ノ中ヘ投シタリト申立又其堀ニ水アリヤトノ問ニ對シ水ノ流ル、堀ナリト答ヘ又水中ニ溶解シ搜索シ能ハサル歟トノ問ニ對シ僅カハカリノ物故搜索シ能ハスト答ヘ又々盟約書ノ文言概畧ヲ覺ヘサルヤトノ問ニ對シ委シクワ記臆セスト答ヘ又々大畧ニテ宣シトノ言ニ對シ數百日ヲ經過シ能ク覺ヘカレモ壓制政府ヲ顛覆シ善長ナル政府ト爲ストカ作り出ストカアリシト覺ユト申立又壓制政府ヲ顛覆云々トハ書キ起シニアリシヤ否トノ問ニ對シ然リト思フト答ヘ又々其姓名ヲ乘セタルハ花香恭次郎河野廣中平嶋松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田清之輔ノ六名ナリト云フ汝ハ如何記臆スルヤトノ問ニ對シ五名カ六名囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

ト覺ヘタリ其外ニナシ花香ト平嶋ハ能ク覺ヘ居タリシナリト答ヘタリ又タ明治十六年六月十二日昨日申立中唯今朝讀アルヲ拜聽シ何分數百日ヲ經過セシテ故其申立ニ前後セシ所アリトノ申立ニ依リ其前後スル處充分申立ヨクノ言ニ對シ即チ盟約書ノ女面ニ前後アリ初メ政府ノ壓制ヲ類獲シ善長ナル政體ヲ建ツルヲ務ム其後ニ數歲月ヲ經ルモ艱難スルモ撓マス盡力ストアリシヤニ覺ヘタリト申立又タ夫ニ止マルカトノ問ニ對シ然リト答ヘタリ

右ニ列擧セシ証憑中無名館之床間ニアル軍筒ノ小引出シ三ツノ内中ノ引出シニ見當リ取置候而シテ同月九日午前十一時佐々木三郎ハ相渡候トノ供述又タ國事犯罪トモ可相成ト存シ陰蔽ノ含ニテ匿シ置候トノ供述又タ政府ヲ顛覆スル云々ノ誓ナレハ若シ發覺セハ則チ法律ノ罪人ヲ免レス則チ之ヲ秘スヘキモノト思料シ館中ノ疊ノ下ニ藏シ置タリトノ供述又タ三郎ハ悉皆其處置ヲ擔當スルヲ以テ授ケ去ルヘキ旨申スヲ以テ皆同人ノ爲ス所ニ委テ云々ノ供述又タ直造來リ盟約書ヲ持參シ見セタルニ相違ナシ然ルニ内亂ヲ起ストノ明文ハナケレモ政府ヲ顛覆スルトノ文字アリトノ供述又タ僅カ一校計リ故引裂キ

堀ノ中へ投シタリトノ供述又タ僅カハカリノ物故搜索シ能ハスト供述セシ等ノ模樣ヲ以テ之ヲ証憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判決ス可キノ証憑充分ナリトス因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第五十二條ニ曰ク 他人ノ罪ヲ免カレシメテ圖リ其罪証ト爲ル可キ物件ヲ隠

蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法第百四條ニ曰ク 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

刑法第八十一條ニ曰ク 罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本

刑ニ一等ヲ減ス

刑法第七十條ニ曰ク 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ

四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ云々

刑法第二十八條ニ曰ク 拘留ハ云々刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ云々

刑法第七十一條ニ曰ク 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ

處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

處スルヲ得

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人鎌田猶三佐々木宇三郎ニ對シ刑法第一百五十二條
 〇依リ十一日以上六月以下ノ輕禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ノ範圍内ニ於テ處斷ス可キ
 所鎌田猶三ハ罪ヲ犯ス時二十歳ニ滿サルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ刑
 法第七十條ニ照シ八日以上四月十五日以下ノ刑期ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキ者ナルモ尙ホ
 原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒
 ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等
 又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ更ニ一等ヲ減シ刑法第七十條ニ照シ刑法第二十八條刑法第七
 十一條ニ依リ五日以上三月以下ノ範圍内ニ於テ拘留五日佐々木宇三郎ハ原諒スヘキ情狀ア
 ルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シ
 テ本刑ヲ減輕スルヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト
 アルニ依リ一等ヲ減シ刑法第七十條ニ照シ刑法第二十八條刑法第七十一條ニ依リ八日以上
 四月十五日以下ノ範圍内ニ於テ拘留八日ニ處ス

明治十六年十月二日東京高等法院ニ於テ

檢事渡邊 檢事武内 繼續檢事堀田正忠 檢事澄川拙三 立會宣告ス

- 高等法院裁判長 判事 玉乃 世履
- 高等法院陪席裁判官 元老院議官 河田 景與
- 高等法院陪席裁判官 元老院議官 林 友 幸
- 高等法院陪席裁判官 元老院議官 渡 邊 清
- 高等法院陪席裁判官 判事 岡内 重俊
- 高等法院陪席裁判官 判事 關 義 臣
- 高等法院陪席裁判官 判事 武久 昌 孚
- 高等法院書記 大審院書記 荒 本 龍 兆
- 高等法院書記 大審院書記 土 居 侃 夫

〇附加刑ノ執行ヲ遺ル、罪

森山 岩太郎

附加刑ノ執行ヲ遺ル、罪

百五十五

附加刑ノ執行ヲ違レタル被告事件ニ付明治十五年六月廿四日東京輕罪裁判所カ監視規則ニ違背シタル廉ニ付テハ証憑充分ナラストシ無罪ヲ言渡タル裁判ニ對シ檢事補川井忠雄ハ上告セリ其要領ハ被告人共ノ現ニ別房留置中竊カニ脱出セシモノナレハ刑法附則第三十二條ニ掲ケタル明文ニ因リ刑法第百五十五條ニ從ヒ處分スヘキモノナルニ原裁判所ハ別房留置中逃走シタル事實アリト認メナカラ監視ノ規則ニ違背シタル証憑充分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ノ裁判ナリト云ニアリ

對手人森山岩太郎木暮磯吉淺野金太郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ「曩キニ重禁錮及ヒ監視ニ付スル言渡ヲ受ケ主刑滿限ノ後チ引取人之ナキ等ニテ市ヶ谷監獄署ニ止メ置監視中自宅ニ立戻り度トノ念慮ヲ懷キ居ル際偶々少年檻ノ窓ヲ破リ脱出シタル者アルヲ認メ之ヲ好機ト爲シ其跡ヨリ竊ニ脱出シタルハ被告人各自ノ申立

看守乙津七三郎等ノ始末書ニ徴シ明カナリ云々」ト其事實ヲ認メタルモノナレハ刑法附則第三十二條ニ監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ云々トアル規則ヲ犯シ逃走セシモノニテ即チ刑法第百五十五條ニ問擬スヘキモノナルニ原裁判所ハ証憑不充分ナリト斷定シ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡タルハ不法ノ裁判ニテ擬律錯誤タルヲ免カレサルモノト判定シ治罪法第四百二十九條ニ依リ之ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

森山 岩太郎

木暮 磯吉

淺野 金太郎

原裁判所カ明治十五年六月二十四日裁判言渡タル事實ノ理由及ヒ証憑ニ照シ市ヶ谷監獄別房留置場ヲ逃走シ監視規則ヲ犯シ其當時各齡十二歳以上十六歳ニ滿タサルモ是非ヲ辨別シテ犯シタルヲ明白ナリ之ヲ罰スル法律ハ

刑法附則第三十二條監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ

附加刑ノ執行ヲ違ル、罪

工業ヲ爲カシシ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シトアルニ違背セシ者ナルニ因リ刑法第百五十五條監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ該ル而シテ犯時各齡十二歳以上十六歳以下ナルモ辨別アリテ犯シタルモノナルニ依リ同第八十條第二項ニ依リ二等ヲ減輕シ七日以上三月以下トナル因テ森山岩太郎木暮磯吉淺野金太郎ヲ各一月ノ重禁錮ニ處スル者也
大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年八月九日

裁判長判事

園

田

弘

專任判事

鳥

居

斷

三

判事

土師

經

判事

高

木

勘

判事

小村

壽

書記

澤

野

潛

癡

○貨幣ヲ偽造スル罪

熊坂 長菴

内國通用ノ紙幣ヲ偽造行使シタル被告事件ニ付明治十五年十二月八日神奈川重罪裁判所カ

刑法第百八十二條初項ニ依リ無期徒刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ紙幣偽造ノ嫌疑ヲ受ケ就縛ノ際押取セラレタル二圓紙幣ハ明治十一年二月十六日東京四谷荒木横町石田幸平ナル者二圓紙幣ヲ携ヘ來リ下總國小野屋ノ進メニ因リ所持ノ皆金五百兩ヲ以テ賣買シ其紙幣ヲ以テ濺蕩ニ費消セシモノニテ所々漫遊シ自家ニ在ルノ日太少ナク且銅版鏤刻ヲ學ビタル儘ニ二十日間ニテ印刷ノ術色肉製法等他ニ學ヒタルコアルニアラサレハ紙幣偽造スヘキ暇ナキノミナラス學ヒ得ヌシテ爲シ得ヘキ事ニアラサルニ原裁判所ハ精神錯亂中爲シタル妄説ヲ信シ紙幣偽造者ナリトシ無期徒刑ヲ言渡カレタルハ不法ナリト思者大因テ破毀ヲ願フト云フニアリ
對手人檢事渥美友成ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不法ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代官八森大次郎ノ陳述臨席檢事池上三郎入意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處明治十一年以來ハ所々漫遊シ自家ニアルノ日太少ク且僅ニ銅版鏤刻ハ二十日間學ヒタルノミナシ其暇ナキノミナラス學ヒ得ヌシテ爲シ能ハサルコトナリト云フ

紙幣ヲ偽造スル罪

百五十九

ニアリト雖原裁判所カ各圖ノ証憑ニ依リ認シタル事實ニ對シ徒ニ其當否ヲ論難スルニ過
 サレハ上告シテ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲ス決得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被告
 人ノ自狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定
 ニ任ストナリテ事實裁判所ニ任從セシ者ナレハナリ其他司法警察官及ヒ豫審裁判官ニ對シ
 爲シタル供述ハ精神錯亂中ノ妄說ナリト云フ果シテ其妄說ニ係ルヤ否ヤ是レ亦前ニ辨明ス
 ル加テ原裁判所カ証憑ニ依リ認ムル處ニ任從スル部内ナレハ破毀ヲ求ムル原因ト爲スニ足
 ラス因テ上告趣意總テ相立ヌス

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年十月廿四日

- 裁判長判事 伴 正 臣
- 專任判事 鳥居 斷 三
- 判事 高 木 勳
- 判事 薄 井 龍 之
- 判事 小村 壽 太郎
- 書記 香 田 能 興

○官印ヲ偽造スル罪

寄口 金造

明治十五年七月十二日高知輕罪裁判所ニ於テ野口金造カ被告事件ヲ審判シ二罪中一ノ重キ
 偽造官印ヲ使用セントシテ未ダ遂ケサルノ罪ヲ論シ刑法第百九十五條ニ依リ未遂犯罪ナル
 テ以テ二等ヲ減シ二年以上五年以下ノ重禁錮ノ處自首シタルニ因リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ
 酌量シテ二等ヲ減シ重禁錮六月監視六月ノ刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告金造カ
 上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告人カ金圓ヲ借入レントシタルハ自己ノ利ヲ圖ルニ非ス只實父
 ノ困窮ヲ助ケントスルノ意ニ出タルナリ其債主ニ渡シタル證書ハ地所抵當ノ公正證書ヲ作
 ル迄ノ時間債主ノ承諾ヲ得テ假リニ差入レタル者ニシテ本證書ニ非ス其付箋ニ偽印ヲ押捺
 シタルモ固ヨリ惡意アリテ詐欺ノ所爲ニ出タルニ非ス即チ罪ヲ犯ス意ナキ所爲ナレハ刑法
 第七十七條ヲ適用セラルヘキ者ナリト云ヌニ在大審院檢事池上三郎ハ其意見ヲ陳述シ且
 附帶ノ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告人カ自首ハ豫審調書ニ依レハ既ニ發覺後ニ係ルヲ以テ
 自首減輕ヲ與フ可キモノニアラス又被告カ官印偽造ノ罪ハ既ニ遂ケタルモノナルニ原裁判
 ハ仍ホ未遂犯ト爲シ二等ヲ減シ云々ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ依リテ之

官印ヲ偽造スル罪

ヲ判決スルコト左ノ如シ
 被告人カ楠目村戸長役場ノ印ヲ偽造シ及其偽印ヲ使用セントシタル犯罪ハ事實證憑明白ニシテ固ヨリ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ト謂フコト得ス而シテ上告ノ旨趣ハ一モ治罪法ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ルノ原由アルニ非カルヲ以テ之ヲ採用スルニ由ラシ又被告人カ犯罪ヲ自首シタルハ債主ニ於テ印影ノ眞正ナヲカルヲ疑ヒ其取調ノ爲メ告訴セントスルヲ知テ直ニ警察署ニ首出シタル者ナレハ發覺前自首シタリト謂ハカルヲ得ス故ニ原裁判所カ舊法ニ在テハ人ノ官ニ陳告セントスルヲ知テ自首スルヲ以ツテ二等ヲ減シ新法ニ在テハ發覺前自首スルヲ以テ一等ヲ減シ處斷ス可シト爲シタルハ相當ナリトス其官印ヲ偽造セシ所爲ハ明治十四年中ニ於テ戸長役場ノ印ヲ偽造シ今其偽印ヲ押捺シタル者ナレハ偽造ノ罪既ニ處ケタルハ明瞭ナリ然レニ原裁判所カ未ダ使用シ遂ケカルヲ以テ二等ヲ減シ(因)ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト雖モ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ且ニ罪俱發スルニ因リ一ツ重キ偽印ヲ使用セントシテ未ダ遂ケカルノ罪ヲ論シ其偽造ノ罪ハ除棄シテ之ヲ問ハカルヲ以テ亦破毀ノ限ニ在ラス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從上告ヲ棄却スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年八月十七日

裁判長判事

西岡 逾明

專任判事

昌谷 千里

判事

山根 秀介

同

土師 經典

同

高木 勤

書記

上田 庸熙

○官ノ文書ヲ偽造スル罪

岡部 守三郎

明治十五年四月二十一日米澤輕罪裁判所會議局ニ於テ右岡部守三郎カ所爲ハ刑法第二百四條同第九條同第八十五條ニ依リ之ヲ處斷ス可キモノトシ山形重罪裁判所ニ移ストノ豫審終結ノ言渡ニ就テノ故障ニ對シ右守三郎ハ正犯新田庄兵衛カ証書偽造ノ情ヲ知テ其頼嘱ヲ許諾シタルモノナレハ便チ庄兵衛カ既ニ之ヲ行使スルヲ得タルハ全ク守三郎カ之ヲ幫助シ其犯罪ヲ容易ナラシメタルモノト爲シ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタル處右守三郎ニ於テハ當

官印ヲ偽造スル罪

官ノ文書ヲ偽造スル罪

百六十三

テ庄兵衛カ証書偽造ニ干與シタルコト無ク且ツ毫モ之カ行使ノ幫助ヲ爲シ其犯罪ヲ容易ナラシメタルコトモ無ケレハ刑法第二百四條同第九條等ニ依リ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケルノ理由無ク又犯罪ノ首出ニ及ヒタルコトモ之レナシトノ旨趣ヲ以テ上告ヲ爲セリ同裁判所檢事西村實ニ於テハ上告人宇三郎ニ於テ正犯庄兵衛ノ囑托ヲ許諾スルニ非カレハ如何ソ庄兵衛ニ於テ該偽証ヲ行使スルヲ得ン加之上告人ハ既ニ偽証ヲ領取シタル未其寫ヲ上申書ニ添ヘ檢事ニ差出シタルモノナレハ何ソ情ヲ知ラスノ偽書ヲ領取シ又ハ罪ヲ自首シタルニ非ラスシテ只檢事ニ對シ詐言ヲ陳述シタルニ止マルト言フヲ得ン故ニ上告人ハ正犯即チ庄兵衛ノ從犯ニシテ當然重罪裁判所ノ管轄ヲ受クヘキモノナリトノ意旨ヲ答辦シタリ本院檢事堀田正忠ニ於テハ原裁判所會議局ニ於テ庄兵衛カ既ニ之ヲ行使スルヲ得タルハ汝カ幫助ニ由テ犯罪ヲ容易ナラシメタルヤ云々ト判決セシモ其果シテ行使セシモノナルヤ之ヲ何レニ行使シタルコト等ノ事實ヲ明示セカルハ乃チ事實ノ理由ノ齟齬ナルモノニシテ不法ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ相當ノ裁判所ニ移カレンコト企望スルニ依リ治罪法第四百十三條ニ依リ附帶ノ上告ヲ爲ス旨ヲ陳述シタリ依テ判決スル左ノ如シ

上告人岡部宇三郎ニ於テハ明治十五年二月十日親族新田庄兵衛カ嚮キニ偽造シ置キタル戸長ノ公証シタル証書ヲ將來テ宇三郎ニ附與シ以テ債主ノ體面ヲ假裝セシコトヲ囑托セシニ依リ之ヲ肯ヒ同日原裁判所檢事ニ對シ庄兵衛ヘ貸金之レアリト詐陳シタルモ其非ナルヲ認リ同年二月十三日右詐陳シタルコトノ非ナルヲ悟リタル始末ヲ同檢事ニ自白シタル者ナレハ宇三郎ハ庄兵衛カ虚偽ノ所爲ナリ情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ト謂フヘキモノナルモ庄兵衛ヲ幫助シテ之レカ偽造証書ノ行使ヲ容易ナラシメタルモノト謂フヲ得可カラサルモノ、如シ抑原裁判所會議局ニ於テ庄兵衛カ既ニ之ヲ行使スルヲ得タルハ汝カ幫助ニ依テ犯罪ヲ容易ナラシメタルト言渡シ行使セシメタルヤチ明示セサレハ則事實ノ理由ヲ付セザル者ニ付キ治罪法第四百二十八條ニ依リ明治十五年四月二十一日米澤輕罪裁判所會議局ニ於テ右岡部宇三郎ニ言渡シタル判決ヲ破毀シ山形輕罪裁判所ニ移シ判決セシムル者也

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス

明治十五年九月十五日

裁判長判事 岡内 重俊 專任判事 兵頭 正健
 官ノ文書ヲ偽造スル罪 百六十五

判事 山吉 盛典

同 土師 經典

同 木付 義路

書記 岩 田 鍊

奧 清 常

右清常カ被告事件ニ付明治十六年三月六日鹿兒嶋重罪裁判所ニ於テ被告ハ監視規則ニ違反
 シ及ヒ監視票ヲ毀棄シタル者トシ監視規則ニ背キタルハ刑法第五百五十五條ニ依リ十五日以
 上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘク監視票ヲ毀棄シタル所爲ハ官ノ文書ヲ毀棄シタルモノナリ
 テ論シ刑法第三百三條第一項ニ依リ輕懲役ニ處スヘキモノトシ右ニ罪併發スルニ付刑法第
 百條ニ依リ其重キニ從ヒ輕懲役ノ處所犯原諒ス可キ者トシ本刑ヨリ三等輕減シ重禁錮一
 年六月ニ處シ其裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニヨリ非常上告ヲ爲シタル旨
 趣ハ犯人ニ下付シタル監視票ハ官文書ノ性格ヲ有セサルガ故ニ原裁判所ニ於テ被告清常カ
 監視規則ニ違犯シタルニ刑法第五百五十五條ヲ適用シタルハ至當ノ判決ナルモ官文書ヲ毀棄
 セシ罪アリトシ刑法第三百三條ニ依リ處斷シタルハ即チ治罪法第四百三十五條ニ所謂法律
 ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ之ヲ審按スル

ニ刑法附則第二十六條ニ依リ犯人ニ下付スル監視票ノ如キハ元官署ノ制限ニ係ルモノト雖
 亦已ニ其票ヲ犯人ニ下付シタル後未ダ之ヲ受ケタル犯人該票ヲ毀棄シタル場合ハ官ノ文書ヲ
 毀棄シタル者ナリト論スヘキモノニアラス何トナレハ監視票ノ性質ハ犯人謹慎ヲ表スル爲
 ニ警察署ニ其票ヲ出シ認印ヲ受ケルモノニシテ專ラ監視ノ刑ヲ受ケザル犯人ニ便宜ヲ與フ
 ル爲メナレハ已ニ其票ヲ犯人ニ下付シタル以上ハ是乃チ犯人ノ所有ニ因シキヲ以ナリ故ニ
 本院檢事長上告ノ如ク原裁判所ニ於テ被告カ監視規則ニ違反シタル所爲ニ對シ刑法第五百
 十五條ヲ適用シタルハ相當ナルモ監視票ヲ毀棄シタルヲ以テ官ノ文書ヲ毀棄シタル罪ト斷
 定シタルハ不法ノ裁判ナリトス因テ本件ハ治罪法第四百三十五條第一項ニ照シ原裁判言渡
 シ被毀シ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

同 審判官 常

右ハ前記辨明スル如クナルニ因リ被告カ監視票ヲ毀棄シタル所爲ハ刑法第二條ニ依リ罪ノ
 問及シテ其重キニ從ヒ輕懲役ノ處所爲ハ刑法第五百五十五條監視ニ付セラレタル者其規
 則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依リ重禁錮六月ニ處スル
 官ノ文書ヲ偽造スル罪

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年八月九日

裁判長判事 中島盛有 專任判事 石井忠孝

判事 兵頭正徳 判事 土師經典

判事 昌谷千里 書記 笠原三郎

○私印証書ヲ偽造スル罪

松本久四郎

奥田増藏

右久四郎増藏ニ對シ明治十五年三月十四日鳥取輕罪裁判所ニ於テ裁判シタル頃末ハ被告人松本久四郎奥田増藏ハ明治十五年一月四日鳥取片原町三丁目福光重三郎方ニ於テ久四郎増藏ト謀リ本訴ノ證據物件タル負債主偽名ノ金百圓借用証書ヲ偽造シ小林又市ニ交付シ金五拾圓ニ代ル賭博札ニ枚ヲ借受シモノト断定シ刑法第二百十條第二百十二條ニ照シ被告人等

ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ六月ノ監視ヲ行渡シタリ被告久四郎増藏ハ此裁判ヲ不法ナリトシ上告セリ其旨趣ノ概略ハ自分等ハ同村山本庄平ナル者ト鳥取丹後面羨渡世「氏名不存」方へ立越シ一酌セシ央小林又市ナル者ノ使トシテ福田惣次郎來リ福光重三郎方へ參ル可シト申聞ケタルヨリ何心ナク重三郎方へ同伴セシ三三五八團樂セリ重三郎共自分等へ賭博ヲ慫慂シタルモ自分ハ無一錢ナルヲ以テ再三辭シタルヲ小林又市ヨリ金員ハ何程ニテモ貸渡スト云へ用賭博ニハ手馴レノ種々謝斷スルモ居合ノ人々ヨリ百方教唆セラレ不長ノ心ヲ起シ同意ヲ表シタリ然レ小林又市ハ証書一通ヲ認メ其債主ハ中本庄平ト記シ金百圓ノ借金証ニテ借主ハ自分共ノ連帶ナリ又市自分共へ示スニ賭博場ノ証文ハ貸借主トモ偽名ヲ以テスル慣例ナリト貸主モ中本八十八ナルヲ中本庄平ト記シアルニ付自分共へ偽名スへシト申シテ久四郎ハ松本忠六ト増藏ハ松谷松次ト偽名シ其ノ印影ハ尿尿ヲ取扱ノ爲メニ用アル有合ノモノヲ捺セリ夫ヨリ小林又市ハ五十圓ノ「ユマ」札ニ枚ヲ渡セリ此「ユマ」札ヲ資本トシテ賭博シ自分共ハ許多ノ勝ヲ得タリ「ユマ」札ニテ勝「依テ先ニ差入レタル百圓ノ証書ト交換シ度談判ニ及ヒタルニ福田惣次郎山本庄平小林又市等共ニ其場ヲ逃走セリ是明治十私書ヲ偽造スル罪

五年一月四日夜十二時頃ナリ一月七日福田惣次郎ニ面會シ前証書取戻ヲ求メタルニ小林又市ハ照會シ返還スヘシト答ヘタリ又一月二十日福光重三郎自分方ヘ立越シ該証書ハ金子ハ些少差出セハ返戻スヘシト甘言ヲ加ヘ或ハ恐喝セシモ自分共ハ金子ハ一錢モ借川セシヨナキヲ以テ一錢モ償フコト不能ト謝絶シタリ其後中本八十八ハ偽証ヲ以テ告訴セリ自分共ハ召喚ニ應シ前陳ノ次第ヲ陳述セシニ法官ハ詐偽ノ証書ヲ以テ金員ヲ詐取シタルト断定セラレ裁判ヲ受ケタルモ服スル能ハス云々凡テ應禁ノ事ヨリ成立タル契約ハ其効ナキコトハ言テ俟タス公訴ノ証書ハ即チ應禁ヲ犯シタルモノナルニ該証書ヲ以テ本刑ニ處セラレタルハ不服ナリト又ハ該証書ハ賭博場ニ限ルモノニシテ債主負債主トモ偽名スル慣例ト他人ノ教唆ニ應シタルハ無知ノ細民ニテ此義如何ヲ稽察セスト陳セシ其証憑ハ債主ハ中本八十八ナルニ証ニテ金錢ヲ詐取シタルト断定セラレタルハ不當ナリト又判文ヲ閱スルニ金五十圓ニ代テ賭博札二枚ヲ借リ受ケ云々トハ法官モ被告等カ賭博セシハ断定セシ所ナルニ証書ヲ詐偽セシトハ主ナル契約ノ消滅セシヲ顧ミス組織ノ効ナキ契約ノ所爲ニ依リ刑セラレタルハ何

ノ法律ニ據ラレタヤヤ不法ナリ云々申立タリ大審院ニ於テ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ裁判スルノ理由ハ

本訴偽名ノ借金証書ハ上告人ノ言ニ據ルニ全ク賭博場ニ於テ成立タルモノ、如シ面シテ原裁判言渡書ニ「負債主偽名ノ金百圓借用証書ヲ偽造シ小林又市ヘ交附シ金五十圓ニ代ル賭博札二枚ヲ借受ケタルモノト断定ス」トアルヲ觀レハ果シテ賭博上ヨリ成立タルコトハ原裁判官カ認メテ以テ疑ハサル所ナリトス抑モ應禁ナル賭博場ニシテ成立タルノ貸借ハ固ヨリ其効ヲ有セサルモノナレハ假令偽名偽造ノ証書ナルモ法律ノ支配スル所ニ非ストス又偽名偽造ノ証書ニシテ小林又市ノ手ニ渡シタルニモセヨ未ダ廣ク世ノ信用ニ害ヲ及シタルニモ非レハ亦行使ノ罪ノ成リ立カレモノトス現ニ原裁判所カ又市ニ言渡シタル裁判書ニ「小林又市ハ明治十五年一月四日松本久四郎與田増藏等カ偽造シタル負債主偽名ノ金百圓借用証書タルヲ知テ明治十五年一月十日中本八十八ヘ傳遞シタルノ罪証充分ナラサルヲ以テ無罪トアルニ非スヤ乃チ行使シ遂ケタルモノニ非カルヲ觀ルニ足レリ此ノ如キ筋合ナルニ原裁判所カ被告ノ所爲ヲ刑法第二百十條第二百十二條ニ照シ所斷シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル

不法ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百二十九條ニ據リ原裁判ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

松本 久四郎
奥田 増藏

前文ノ理由ナルコト付被告事件ハ罪トナラサルモノトス因テ刑法第二條ニ照シ放免ス
大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年一月十六日

裁判長判事 中島 錫胤 專任判事 關 麟 臣

判事 島 居 斷 三 同 山 根 秀 介

同 昌 谷 千 里 書記 中 西 良 淑

二木市郎次

證書變造事件ニ付明治十五年四月四日松本輕罪裁判所ニ於テ右二木市郎次ニ對シ其所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第二百十條ト舊法則ヲ改定律例第二百四十六條ヲ比照シ舊法ノ

輕ニ從ヒ懲役三十日ニ處ストノ裁判言渡ニ對シ同裁判所檢察官上告ノ要旨ハ舊法ニ依リ懲役三十日ニ該ル者ナレハ明治十四年第八十一號布告ニ照シ重禁錮三十日ニ處スヘキ者ニシテ原裁判ハ據律ノ錯誤ナリト云フニ在リ被告人市郎次ハ答辯書ヲ出カスシテ附帶ノ上告ヲ爲シ其要旨ハ該證書ノ變造ハ自己ノ所爲ニアラス差出人タル堅石由平カ自ラ描改セシ者ニテ其事ハ字傍ニ捺シアル印影ヲ見テ知ラレヘキニ原判官ハ此點ヲ查究セス徒々其字面ノ描改シテアルノヲ以テ輒シ被告入カ所爲ナリト斷定セラレシハ越權ナリト云フニ在リ又本院檢事ハ兩個ノ上告ニ對スル意見ヲ述ヘ且ツ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ私書偽造ノ犯罪タル舊法ニ於テハ行使ノ既未ヲ分クヌト雖モ新法ニ於テハ偽造既ニ成ルモ未ダ行使セザル限リハ之レヲ罰スルヲ得サル者トス而シテ原裁判言渡ハ唯變造ノ所爲ノミヲ擧テ最要ナル行使ノ點ヲ明示セス直ニ刑法第二百十條ニ比照シ來テ刑ヲ擬セシハ事實ノ理由ノ不備ナルヲ以テ破毀セラレシヲ希望スト云フニ在リ依テ判決スル左ノ如シ

第一條 被告事件果シテ舊法ノ輕キニ從ヒ懲役三十日ニ該ルモノナラシメハ其刑名モ亦舊法ニ從テ言渡スヘキトハ刑法第三條ノ本旨ニシテ猶ホ明治十四年第八十一號布告第二條

私印私書ヲ偽造スル罪

末項其書讀ニ依リ禁獄ニ處ス可キ時ハ輕禁錮ト言ハスシテ其書刑名ニ從テ例ノ如シト雖
原裁判官渡ハ本院檢事附帶上告ノ如ク該犯罪ノ最要點タル行使ノ如何ヲ明示セザレハ
之レヲ新法ニ比照シテ罰ス可キ者ナルヤ否ヤヲ權認スルニ由ナキヲ以テ原裁判所檢察官
カ上告ニ係ル權律ノ點ハ未ダ當否ヲ論決ス可カラサルモノトス

第二條 諸般ノ徵憑中ニ就テ其信認スル處ヲ採リ心証ニ供シ以テ事實ヲ斷定スルハ事實裁
判官カ特有ノ職權ナリ故ニ假令ト原裁判官ニ於テ字面ノ描改ノミヲ採テ事實ノ判定ヲ爲
シタル者トスルモ以テ越權ト謂フ可カラサルニ依リ被告人附帶上告ハ理由ナキ者トス

第三條 私書偽造罪ハ舊法其行使ト否トヲ分タスト雖モ新法則テ刑法ニ於テハ其行使ニ着
手シタル以上ニアラザレハ其罪成立タサル者トス然レモ原裁判官渡書ヲ審裁スルニ唯變
造シタルトノ所爲ヲ學ク行使ノ摸樣ヲ明示セス直チニ刑法第二百十條ニ比照シ來テ刑ヲ
擧シタリ是レ本院檢事附帶上告ノ通り事實ノ理由不備ニシテ乃チ治罪法第三百四條ノ規
則ヲ侵シタル不法ノ裁判ナリトス

此ノ理由ナリヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受ケシ

スル爲メ被告事件ヲ長野輕罪裁判所ニ移ス者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年三月十日

裁判長判事 大塚 正男 專任判事 高 木 勤

判事 山根 秀介 同 土師 經典

同 昌谷 千里 書記 上田 廣照

江戸 太一郎

右太一郎カ被告事件ニ付明治十五年六月五日松江輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年一月
中江戸(カキ)ノ戶主ヲ廢シ江戸孫右衛門ヲ戶主トスル願書ヲ詐爲シ管轄都役所ニ差出認可
ヲ得タル者トシ刑法第二百十條ニ照シ四月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同法第
二百十二條ニ依リ六月ノ監視ヲ付スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告太一郎上告ヲ爲シタル
要旨ハ右戶主廢立ノ願書ハ(カキ)ノ承諾ヲ得テ調成シタル者ニシテ被告ガ自儘ニ作爲セシ
モノニアラス殊ニ其印形ハ管(カキ)ノ命ニ依リ購求シ與ヘタル同入ノ實印ニ相違アラサ

私印私書ヲ偽造スル罪

刑法第二百十條等處刑ヲ受ルベキ罪トシテ之ヲ該條ニ該シ者トシテ重禁錮等ノ處
 斷アリシハ不法ナルノ事ナラズ其刑ヲ首渡ニ右條中何レノ項ニ依リシヤチ明カセカレハ即
 チ法律ノ理由ヲ欠クモノニシテ是亦違誤ノ言渡ト云フカレテ得ス又假ニ右願書ヲ被告ノ偽
 造ニ係ルモノト見做スモ該願書ノ開屆指令ハ其後管轄郡役所ヨリ取消トナリタルニ依リテハ
 偽書ノ效果消滅シ從テ其罪モ煙滅ニ歸スベクハ旁以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
 原裁判所檢事補拜本重禁錮於テハ原裁判適實ナル事並告其當ヲ得カレトノ旨趣ヲ答辯セ
 茲ニ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルカ左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ハ私書偽造シ之ヲ行使セシモ之ヲ認定シテ該ハ事實裁判官固有
 ノ特權ナレハ他ヨリ之ヲ勸ス可カラサルハ勿論假令其偽書ノ效果消滅ニ歸スル進一且犯シ
 タル偽造ノ罪ハ煙滅スヘキ者ニアラサルハ是等ノ事審判以テ原裁判ノ破毀ヲ請求シ得可カ
 ラサルモナリ而シテ法律適用ニ至テハ單ニ刑法第二百十條ニ依リトセシハ不備ナルモノ
 如シト雖モ該條第三項ニ其餘ノ私書ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年
 以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリテ其範圍内ニ於テ重禁錮四

月罰金四圓ヲ言渡シタル者ナレハ全ク法律ノ理由ヲ附セサルニアラス又齟齬セシ廉之ナギ
 ニ付之ヲ以テ破毀ノ原由トナスヲ得サルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ法リ
 該上告ハ棄却スル者ナリ

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年三月廿七日

- | | | | |
|-------|------|------|------|
| 裁判長判事 | 石井忠恭 | 專任判事 | 土師經典 |
| 判事 | 山根秀介 | 同 | 高木勤 |
| 同 | 昌谷千里 | 書記 | 岩田鍊 |
| | | 小池 | 濱次郎 |
| | | 小池 | 九重郎 |

右兩名カ印影盗用證書偽造ノ被告事件ニ對シ明治十五年七月二十一日長野輕罪裁判所ニ於
 テ刑法第二百八條第二項ニ照シ未其事ヲ遂ケサルモノトシ同法第二百一十一條第一百十二條
 依リ一等ヲ減シ濱次郎ハ重禁錮四月罰金四圓監視六月九重郎ハ二十歳未滿ナルヲ以テ依
 依リ一等ヲ減シ濱次郎ハ重禁錮四月罰金四圓監視六月九重郎ハ二十歳未滿ナルヲ以テ依
 私印私書ヲ偽造スル罪

同法第八十二條ニ從ヒ又二等ヲ減シ重禁錮三月罰金三圓監視六月ノ刑ヲ言渡シタル處同裁判所檢事補小川俊一ニ於テ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル要旨ハ印影盜用ノ罪ハ已遂犯ナルヲ未遂犯ナリトシ又証書偽造ノ罪ヲ問ハザリシハ共ニ不當ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告書ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原宣告書ニ依リハ被告小池九重郎ハ實兄小池榮作ノ實印ヲ竊ニ持出シ被告小池濱次郎ト謀リ榮作ヲ養債主トナシタル金額借用証書一通ヲ偽造シ該盜印ヲ押捺シ其內金額九十圓ノ証書一通ヲ金策ノ爲メ濱次郎ヨリ池田豐作ヘ交附シタルモ金員ハ未ダ收手セサル前事務發露セシモノナリト豫審官ニ於テ被告カ犯罪ノ事實ヲ確認スル處ナリ然レハ則チ其証書偽造ノ罪ハ未遂犯ニシテ印影盜用ノ罪ハ已遂犯下爲シ刑法第二百十條第一項同第二百一十一條及ヒ同法第二百八條第二項第二百十二條ニ應ジ仍ホ九重郎ハ二十歳未滿ナルヲ以テ同第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ處斷ス河津年ノトス然ルニ原裁判ハ證書偽造ノ罪ヲ不問ニ附シ私印盜用罪ヲ未遂犯トシテ斷了セシハ法律適用ヲ誤タル不當ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ法リ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

小池 濱次郎
小池 九重郎
前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ被告兩名カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ確認スル處ニ依リ刑法第二百十條第一項同第二百十二條及ヒ同法第二百八條第二項ニ該ルヲ以テ同法第五條第三項ニ依リ犯罪重キ同第二百八條第二項ニ從ヒ濱次郎ハ重禁錮四月十五日ニ處シ罰金三圓七十五錢ヲ附加ス九重郎ハ二十歳未滿ナルニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮三月十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加ス仍ホ同法第二百十三條ニ依リ各六月ノ監視ヲ附加スルモノナリ

大審院ニ於テ檢事補三分立會宣告ス
 明治十六年四月九日
 裁判長 石 井 忠 希
 專任判事 土 師 經 典
 判事 山 根 謙 秀 介
 判事 高 木 勤
 書記 味 岡 禮 質
 五垣 安太郎
 私印私書ヲ偽造スル罪
 百七十九

偽造証書被告事件ニ付明治十五年八月九日神戸輕罪裁判所ニ於テ被告玉垣安太郎カ所爲ヲ
 審理シ被告人ハ中村久右衛門ハ差入タル金百十圓ノ借用証書ニ擅ニ玉垣安太郎外二名ヲ記
 入シ借主ト爲シ持合ノ印章ヲ押捺シタル者ト判定シ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第
 三條ニ原キ新舊法ヲ比照シ舊法ニ於テハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ニ該リ新法
 ニ於テハ刑法第三百十條第一項ニ依リ犯時十六歳未満ナルニ付刑法第八十條及ヒ第七十條
 ニ照マニ等ヲ減シ重禁錮二月以上二年以下ニ該ルヲ以仍ホ明治十四年第八十壹号布告第六
 條同十二條ニ照シ其輕キ舊法ニ從ヒ不應爲重キニ問ヒ懲役七十日ニ處斷セリ

被告玉垣安太郎ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ヲ五項ニ開載スルモ之ヲ要スルニ
 被告人ハ正木(シツ)ヨリ金二十五圓ヲ借用シタルコトアレモ証書ヲ差入タルニ非ス中村久右
 衛門カ所持スル金百十圓ノ証書ハ被告人ノ關與セサル者ナリ其証ハ玉垣善太郎名下ニ押捺
 シタル同入店判ハ一自似其偽造タルコト知ルニ足ル夫ノ玉垣善太郎ハ被告人カ同居ノ伯父
 ニシ且平素商業ノ補助ヲ爲ス者ナレハ若シ善太郎ノ店判ヲ犯罪ノ用ニ供セント欲セハ之ヲ
 盜捺スル易キタルノミ何チ啗シテ乎其成シ難キ印ヲ偽削シ後ニ犯蹟ヲ表彰スルコトヲ爲サン

ヤ是ノ事實上看破シ易キ者ナリ且急需ナラサル金圓ニ高利ヲ拂ヒ金百十圓ニ換ユルニ價八
 十圓ニ相當スル米十石ヲ領収スヘキ謂レモ之ノ無キナリ抑本案ニ於テ原裁判所カ資テ以テ
 カアリトスル証據ハ大江友三郎ニ渡シタル明治十五年四月十七日付ノ約定証ニ在リトス該
 証タルヤ無實証書即チ中村久右衛門カ所持スル連借証書ノ後害アラソコト慮リ之ヲ取戻サ
 シタルノ情緒切迫ナルヨリ輕易ニ友三郎草稿ノ儘之ヲ認メ渡シタルニ原因セシナリ又正木
 (シツ)ニ與ヘタル延期書簡ノ如キハ前ニ借用シタル金二十五圓ノ債主ハ中村久右衛門ナル
 コト夫后ニ(シツ)ヨリ承知シタルヲ以其猶豫ヲ請ヒタルノミ然ルチ原裁判所ハ証據ヲ示サス
 輒チ被告人ヲ有罪トシ判決ヲ與ヘタリ其裁判言渡書ニ舉示スル處ハ証人小西兵太郎外二名
 ノ証言參者人大江友三郎外一名ノ陳述及ヒ云々トアリテ其証人參者人ノ陳述ハ被告人カ犯
 罪ハ云々ト証シタルニ非ス然レモ裁判官ハ何ニ因テ証據ト爲シタル乎其理由ヲ明示セス是
 ノ治罪法第三百四條ニ抵觸スル者ニシテ同法第四百十條第九第十三原キ破毀ヲ求ムト謂フ
 ニ在リ對手人檢事補三俣秀彦ハ被告人カ上告趣意ノ要領ハ已ニ公判廷ニ於テ辯論スル處ニ
 シテ口頭無証ノ陳述ニ外ナラス原裁判ハ罪証判然ナルニ因リ事實ヲ明示シ相當ノ刑ヲ言渡

シテハ不當ノ際ナキ旨ヲ答辨セリ
 夫審院檢事長渡邊曠ハ治罪法第四百十三條ニ依リ附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ三項ナリト
 第一原裁判言渡書ニ前ニハ証人玉垣善太郎ト爲シ後ニハ被告ノ伯父ト爲シタリ果シテ伯
 父トシテハ治罪法第八十一條ニ依リ証人トシタル能ハサル者ナリ第二偽証書ヲ以得
 ル金圓ハ詐欺取財ニ非ズト云フ可カラズ第三新舊ノ法ヲ比照シ舊法改定律例第二百四十六
 條ニ依リ不應爲重キ懲役七十日ニ該ル者トスレハ刑第一百十條第一項ニ依リ同法第八十條ニ
 照シ本刑ニ二等ヲ減スレハ重禁錮二月以上二年以下トナル之ヲ明治十四年第八十一号布告
 「三照スルハ新法ヲ輕シトス然ルチ舊法ニ依リ處斷セシハ比較ヲ誤リタル裁判ナリト開陳
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ代言人齊藤孝治カ陳辨ヲ聽クニ上告趣意ヲ擴張
 シテ白事實ノ認定ハ判官ノ特權ニ在リト雖能何ノ証徴モナクシテ恣ニ爲シタル認定ハ因
 リ上告權内ナリトス抑原裁判官カ認定シタル玉垣安太郎カ犯罪ニ對シ各証人等ハ事實ヲ知
 ラズト云ヒ參者人等ハ固ト本案被告ノ地位ニ立タル者ナレハ自己ヲ保庇スルハ當然ナリ又

証據書類ノ本件ニ關シ証トナササルコトハ其文意及ヒ事情ニ照シ觀察テ下ス時ハ明瞭ナル可
 シ然ラハ則原裁判所カ犯罪ヲ認定シタルハ何ノ點ニ在ルカ毫モ犯贖ヲ明示セスシテ擅ニ有
 罪視シタルハ法律ニ背反シタリト檢事林三介ハ之ニ答ヘ陳辨スル處ハ本件上告ハ到底其理
 由ナキ者ト想希スレモ己ニ附帶上告ニ開示シタル如ク原裁判ハ頗ル瑕瑾アル言渡ニ就中
 其第一第二ノ二理由ニ因リ他ノ相當ノ裁判所ニ移サレシコト望ム其第二ノ理由ハ本案審理
 ナ待テ自ラ証明スヘシトノ旨ヲ辨明セリ仍テ裁判スルコト左ノ如シ
 原裁判所ハ被告人ノ伯父玉垣善太郎ヲ証人ト爲シ其証書ヲ採用シタルハ治罪法第八十一
 條ニ違背シ越權ノ處分ナルチ免レス又被告人ノ所犯ハ新法施行以前ニ在ルチ以テ新舊ノ法
 ナ此照シ改定律例第二百四十六條及刑法第二百十條第一項同第八十條ヲ引用ス可キ者トス
 レハ明治十四年第八十一号布告第二條ニ原キ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ルチ以テ新
 法ニ從ハサル可ラス然ルチ舊法ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス而シテ其詐欺取財ノ
 犯罪ナルヤ否ハ本案審理ヲ盡シタル上ニ非サレハ判定スル能ハス加之本案ハ上告趣意書ニ
 痛論スル如ク原裁判所ハ証人參者人等ノ陳述云々ト揭載アルモ其採用シタル點ハ那邊ニ在
 私印私書ヲ偽造スル罪

ル欺之ヲ推測スルニ由ナキ者ヲ如シ如何トナレハ証人共ハ犯罪ノ事實ヲ証言シタルニ非ス
 參考人共ハ現ニ被告人ノ依頼ニ應ジ之ヲ承諾シ且專ラ貸借ニ關與シタル事實アリハ敢テ安
 太郎ノ犯罪ヲ証スルニ足ラス果シテ然レハ二通ノ証據書類モ亦邊ニ偏信ス可ラサル者ナレハ
 ナリ故ニ事實ニ對スル上告ノ論點ハ採用スルニ由ナシト雖モ原裁判モ又事實ノ理由不備タ
 ルヲ免レス且玉垣善太郎ノ名下ノ押印ハ鑑定人ヲシテ其偽タルヲ証言セシメ而シテ其犯罪ハ
 何人ノ手ニ成リタルヤ裁判官渡書ニハ概シテ被告人カ持合ノ印ヲ押捺シト掲載アレ共偽印
 ヲ以テ持合印ト同視ス可ラサルハ勿論ニシテ之ノ黙々ニシタルハ最モ擅横ノ處分ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ專ラ附帶上告ノ論旨ニ原キ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判官渡ノ
 全部ヲ破毀シ更ニ大坂輕罪裁判所ニ移シ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年七月十八日

裁判長判事 西岡 逾明 專任判事 山根 秀介
 判事 大塚 正男 判事 高 木 勤

判事 昌谷 千里

書記 山 縣 武男

初田 猪之百

權利義務ニ關スル証書ヲ增加行使シタル被告事件ニ付明治十五年九月十九日大津輕罪裁判
 所ニ於テ右被告猪之吉カ所爲ハ本件丁号証復生講仕法記ト題スル帳簿ノ餘白へ前顯ノ講法
 通云々ノ文字ヲ記入シ行使シタル犯罪ナリトシ刑法第二百十條初項ニ照シ重禁錮五月罰金
 五圓ニ處シ刑法第二百十二條ニ依リ監視六月ニ付シ犯罪ノ用ニ供シタル丁号復生講仕法記
 及戌号田木八郎平ヨリノ保證書ハ沒収シ差押タル已号復生講差引証ハ還付スト言渡シタリ
 被告初田猪之吉ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタル趣旨ハ被告人ニ於テ明治八年中復生講ト唱
 へ頼世子講ヲ創設シ示來丁号講則ニ原キ繼續シ來リタル處明治十五年二月一日ニ至リ番外
 甲号証ノ如ク本講仕法ヲ改正シ更ニ從前ノ加盟者ヲシテ新簿冊ニ記名調印セシメタルハ則
 テ丁号簿冊ハ既ニ消滅ニ屬シタルニ因リ被告人ニ於テ故ヲニ明治十五年二月下旬ニ至リ前
 顯云々ノ文字ヲ記入スルノ謂レ無ク又其効力モ生セサルナリ假ニ文字ヲ增加行使シタリト
 スルモ他ノ私訴事件ニ付參者ノ爲メ提供シタル迄ニシテ被害者等ニ對シ何ノ損益ヲ及ホス

私印私書ヲ偽造スル罪

ヘキヤ之ヲ再説スレハ加盟者則チ被害者等ハ已ニ明治十五年二月一日ヲ以テ改正新簿ノ約定ニ從ヒ之ヲ履行シ舊簿則チ丁号証仕法記ノ如キハ消滅ニ属シ何等効力ナキヲ言テ俟タス然ルチ原裁判所ハ之ヲ以テ權利義務ニ關スル証書ト爲シ刑法第二百二十二條ヲ適用シタルハ事實及ヒ擬律ノ錯誤アル裁判ニ付破毀ヲ求ムト謂フニ在リ對手人檢事補森田勉ハ被告人ニ對シ言渡シタル裁判ハ罪證明白ニシテ毫モ誤謬ナキ旨ヲ答辦セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告趣意ニ對シテハ敢テ陳辦スルヲ必要トセス茲ニ刑法第二百十條第一項ヲ適用スル場合ニ於テハ必スヤ其權利義務ニ關スル人即チ被害者ノ誰ナルト其証書ノ性質并ニ効用ト其行使手段如何トノ事實理由ヲ明示セカレ可ラス何トナレハ若シ此等ノ要件ヲ具備セカレハ同條ノ罪ヲ組成セカレハナリ然ルニ原裁判書ニ因リ証書ノ性質ト行使ノ手段ハ聊カ視ルニ足ル處アルモ其最モ必要ノ條件タル被害者ノ誰ナルト變造ニ付テノ効用如何トヲ明示セサルノミナラス成号柏木八郎平ニリノ保証書ハ沒收スト言渡シタルモ毫モ其沒收スヘキ理由ヲ付セカレハ俱ニ治罪法第二百四條ニ背反シタル不法ノ裁判ナリト信スルニ因リ更ニ相當ノ裁判所ニ移サレシメテ

望ムト開陳セリ仍テ裁判スルヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ニ因リ訴訟書類ヲ監査スルニ本件復生講仕法記ハ明治八年五月ニ創設約定シタルモ明治十五年二月ニ至リ更ニ帳簿ヲ改製シ加盟調印ヲ爲シタリ故ニ明治八年中調製シタル書簿ノ連署押印ハ之ヲ抹殺シ自ラ消滅ニ属シタリ然レハ則チ丁号証增加シタリト云フ文書ハ何ノ効力ヲ有シ又ハ權利義務ニ關スル証書トハ認定シタル歟又柏木八郎平ノ保証書ハ何ノ故ニ沒收セシ歟其理由ヲ知ル由無シ到底原裁判ハ事實ノ理由ヲ明示セカレ不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九ニ定メタル上告ノ原由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ京都輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年八月十七日

裁判長判事 西岡 遼明 專任判事 山根 秀介

判事 高木 勤 判事 昌谷 千里

私印私書ヲ偽造スル罪

判事 小村 壽太郎

書記 山縣 武男

川端 嘉平次

證書偽造及證券印紙再貼用被告事件ニ付明治十六年五月三日和歌山輕罪裁判所ニ於テ刑法
 第二百十條及第二百十二條第九十九條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓監視六月ニ處シ
 仍明治七年第八十一號布告第十二條ニ依リ罰金十圓ヲ科スト言渡シタル裁判ニ對シ本院
 檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲ爲シヨリ其要旨タル本案被告事件ハ私書偽造ト印紙再貼用ト
 ニ罪ナルヲ以テ再貼用ノ罪ハ刑法第九十九條ニ依リ偽造ノ罪ハ同法第二百十條ニ依リ數
 罪併發ナルヲ以テ其情狀最重キニ罪ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判所カ刑法第二百十
 條第九十九條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ監視六月ニ附シ而シ
 テ明治十四年第七十二號布告第六條ノ明文アルニモ係ラス明治七年第八十一號布告第十二
 條ニ依リ罰金十圓トナ併科シタルハ即チ通常ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナル
 ヲ以テ之ヲ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事加納久宣ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
 證書偽造ノ罪ト印紙再貼用ノ罪ト併發シタル場合ニ於テハ其偽造ノ罪ハ刑法第二百十條ニ

據シ再貼用ノ罪ハ明治十四年第七十二號布告第六條ニ依リ刑法第九十九條ニ據シ仍ホ數
 罪併發例ニ照シ所犯情狀最重キニ從ヒ處斷スヘキハ論ヲ俟タズト雖モ其證書ノ偽造ニ係リ
 法律上無効ノモノナル時ハ證券印紙ヲ貼用スルヲ要セサルハ勿論再貼用スルモ刑法第九
 十九條ノ間フ所ニアラサルナリ抑モ本件被告カ所爲ハ原裁判官認定ノ如ク權利義務ニ關ス
 ル證書ヲ偽造シ印紙ヲ再貼用シテ之ヲ行使シタルモノナレハ原裁判所カ刑法第二百十條及
 同法第二百十二條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ監視六月ニ附シ
 ルハ適當ナリト雖モ再貼用ヲ以テ論シタルハ乃チ罪トナラサル事實ニ對シ刑ヲ科シタル不
 法ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判言渡中印紙再貼用被告事件ニ係ル
 部分ヲ破毀シ其所爲ニ對シテハ本院ニ於テ更ニ無罪ノ言渡ヲ爲スモノ也
 大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年十一月二十四日

裁判長判事 鳥居 斷三 專任判事 小村 壽太郎

私印私書ヲ偽造スル罪

判事 伴 正 臣
判事 國 田 弘

判事 昌 谷 千里
書記 松 岡 照 之

山崎 里英

栗原 金太郎

右兩名カ被告事件ニ付明治十六年六月十四日浦和輕罪裁判所ニ於テ被告ハ川越警察署建築
 理事者タル栗原庄藏ノ依頼ヲ受ケ該建築費ヲ村民ヨリ徵集シテ之ヲ獻納セシカ爲メ曾テ村
 民ニ協議ヲ遂ケタルヲ又惣代人ノ資格ヲ有セサルニ共謀シテ擅ニ金太郎ノ有書ニ惣代
 人ト記載シタル獻納金願書ヲ造リ之ヲ埼玉縣廳ニ差出シ遂ニ其許可ヲ得タルノ所爲ニ對シ
 刑法第二百十條第二項同第二百十二條及ヒ同第八十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ被告
 ヲ重禁錮十六日ニ處シ罰金二圓ヲ附加シ尙ホ監視六月ニ付スト言渡タル裁判ヲ不當ナリト
 シ被告等カ上告ヲ爲シタル要領ハ被告人山崎里英ハ下與富村戶長ニシテ栗原金太郎ハ筆生
 ヲ勤ムル者ナリ然ルニ埼玉縣川越警察署新築相成リ其理事者タル栗原省三ヨリ隣村ノ比例
 御チ一戶廿四錢九厘ノ割合ヲ以テ至急獻納願書可差出旨〔明治十六年六月十一日原裁判〕
 所へ捧呈シタル證據書ヲ云フ

申越カレタリ然ルニ本村ハ明治十五年十二月中村會議員并惣代人等退職シタルヲ以テ之カ
 協議ヲ爲ス可キ者無之故ニ村民重立タル者ヨリ協議費ニ關スル事柄ハ當分ノ内村民一同ノ
 決議ヲ待タズ斷行致カセ度旨豫テ談シ有之故ニ二百三十有餘名ノ村民悉ク役場ニ招集スル
 モ徒ラニ雜沓ヲ極メ僅廿四錢九厘ノ事柄ヲ議スルニ一日ヲ消テスルハ其利害不相償ヲ擲斷
 シテ村民一同ハ圖ヲカリシナリ云々又獻納金願書ニ總代人ト記載シタル所以ハ決テ他意ア
 ルニ非ズ從來協議費ニ關スル事柄ニ付テハ總テ村會ノ決議ヲ經惣代人之レニ封印シ來リシ
 慣行アリキヲ以テ知ラズ茲ニ記載シタルモノニ決テ惡意アリテ記載セシ者ニ非ス云々繼
 續シ該刑ニ處分セラレタルハ不當ナリト云フニアリ同裁判所檢事岡田豐ハ附帶上告ヲ爲シ
 ムリ其要領ハ抑モ被告等カ居村ハ村會議員并惣代人退職故ニ村民重立タルモノハ當分ノ内
 協議費等ニ關スル事件ハ村民ノ決議ヲ待タズ斷行スルキ旨囑托シタルヲハ被告等カ上告費
 ニ隨テスルノミナラス其付托ヲ爲シタル同村渡邊平右衛門外六人ノ證明モ符合セリ然レモ
 獻金事件ヲ協議費ト同視シタルハ一時ノ誤認粗忽ノミ豈ニ之ヲ有心故造ト云フハナシヤ況
 々他カ上告スルノ意思ヲキチヤ然レモ裁判官カ文書偽造トキシタルハ其願書ノ寫書ヲ戶
 印私書ヲ偽造スル罪

長井惣代人ト記シタル點ニアルモ其所爲ノ果シテ罪ヲ犯スノ意ナシト一時ノ誤謬粗忽ニ出テタルコト明ナル上ハ其罪ノ成立セサルヤ知ルヘキナリ且本件告訴ノ原由ヲ釋スルニ至ル該村二三ノ反對黨カ被告等ヲ忌避スルノ所爲ニ出テタルモノト思料スト論辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宣ハ檢事岡田豐カ附帶上告ノ如ク被告等カ所爲ハ村民ノ爲メ善良ノ意思ヨリ爲シタル者ニシテ村民ヲ害セントスルノ意思ヨリ出テタルモノニアラザルハ明瞭ナルニ反テ有罪ノ裁判ヲ下シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトノ意見ヲ述ヘタリ因テ之ヲ審按スルニ被告共ハ川越警察署建築費獻金ヲ其理事者ヨリ促カサルモ當時村會議員殘ヲ退職中ニ在ツテ之ヲ協議スルニ由ナク又村民悉ク招集スルモ僅カニ一戸廿四錢九厘宛ノ出金ヨ一日ヲ消光スルハ其利害相償ハサル者ト齟齬シ被告人山崎里英ハ戶長栗原金太郎ハ筆生ナルヲ以テ金太郎ノ肩書ニ總代人兼ト記載シ獻金願ノ許可ヲ受ケタルニアレハ村民ニ於テ之ヲ專斷ノ所爲ナリト思慮セハ該出金ヲ差出カ、ルモ自己ノ權内ニアリ若シ又之ヲ訴訟スル等ノコアルモ單ニ民事上ニ止ルヘキ者ナリ將タ縣廳ヨリスルモ亦敢テ詐爲文書ノ責ヲ負ハシムルニ至ラサルヘシ何トナレハ其所爲タル被告ニ於テ毫モ

村民ヲ害セントスルノ惡意ニ出テタル念慮ト認ムヘキ際ナクレハナリ況ンヤ村會議員殘ヲ退職ノ登時ニ在ツテ既ニ協議費ノ支出金ハ戶長則チ被告人山崎里英ノ斷行ニ任セ過キタルヨリ協議費ト同視シテ之ヲ專斷シ獻金願書ニ惣代人兼ト記名シタルハ原書類ニ就テ見ルモ明ラカナルニ於テオヤ然ルニ原裁判所ハ被告ニ對シ刑法第二百十條第二項及ヒ同第二百十二條等ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

山崎 里英

栗原 金太郎

前條ノ理由ナルヲ以テ被告等ハ刑法第七十七條ニ據リ治罪法第三百五十八條同第二百二十四條ニ從ヒ無罪放免スルモノ也

大審院ニ於テ檢事加納久宣立會宣告ス

明治十六年十二月十一日

裁判長判事 石 井 忠 恭

專任判事 上 山 惟 清

私印私書ヲ偽造スル罪